K－578

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第85集

大西遺跡

大西遺跡発掘調査報告書

平成16年3月
２００４年

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第85集

大西遺跡

大西遺跡発掘調査報告書

平成16年3月

２００４年

米沢市教育委員会

序　文

本報告書は、宅地造成に係る受託事業として、米沢市教育委員会が実施した大西遺跡の調査報告書です。

大西遺跡は、窪田町小瀬地区の水田地帯に位置し、事前調査として実施した試掘調査によって確認された新規の遺跡です。遺跡の立地する鬼面川一帯には、全長80ｍを誇る県内最大の前方後方墳の寶領塚古墳を始め、八幡塚古墳や窪田古墳など置賜地域の古墳文化を知る上での貴重な遺跡が分布しているところでもあります。

この度の調査では、大変注目される発見がありました。古墳時代前期の方形周溝墓と円形周溝墓が共存して確認されたことです。方形周溝墓は、本市の４遺跡を含め県内で６遺跡から確認されていますが、円形周溝墓に関しては初の例となるもので、高い評価を受けています。

周溝墓の中には、幼児を埋葬したと思われる石組石棺やコバルトブルーに発色する美しいガラス小玉などの副葬品も特筆する資料です。

遺跡からは、奈良・平安、中世期の遺構や河川の一部も検出されており、大西遺跡を拠点に古くから人々が居住していたことを示しています。

置賜地区は、東北を代表する大型古墳が多数存在する地域として、県内で最も早く古墳文化が開花した地域とされています。

今回の調査で得られた成果は、まさしく古墳研究に係わる重要な資料を提供したものといえます。本書が文化財保護の啓発や学術研究・教育活動の一環として役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の調査にあたり、格段のご指導を賜りました文化庁及び山形県教育委員会、（株）中村建設並びに地元の関係者に対し、心から感謝を申し上げます。

平成16年３月

米沢市教育委員会

教育長職務代理者

教育次長　　松　坂　　昭

例　　言

1　本報告書は、宅地造成工事に伴う緊急発掘調査として、米沢市教育委員会が実施した大西遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は、米沢市教育委員会が主体となって、㈱中村建設との受託事業として進めてきたものであり、平成15年6月2日～同年7月30日の期間で実施したものである。

3　調査体制は下記の通りである。

調査主体	米沢市教育委員会
調査総括	村野隆男（文化課長）
調査担当	手塚　孝（文化課文化財担当主任）
調査主任	月山隆弘（文化課文化財担当主任）
調査補助員	髙橋正子
調査作業者	嵐田良晴　五十嵐三郎　江袋吉男　工藤敏夫 小出久三　斉藤ちゑ子　色摩三郎　清水弘文 鈴木真紀子　竹田三男　髙橋修造　中村正弘 丸山淳子　水野とも子
事務局長	情野憲治（文化課長補佐兼文化財主査）
事務局	深瀬順子（文化課文化財担当主査） 菊地政信（文化課文化財担当主任）
調査指導	文化庁　山形県教育庁 社会教育課 文化財保護室
調査協力	株式会社 中村建設、五十嵐謙一（敬称略）

4　挿図の縮尺は、遺物の実測図を2分の1・3分の1と原寸を基本としたが、副葬品となる玉類に関しては拡大図を採用した。遺構の全体図に関しては、600分の1、200分の1、120分の1、100分の1、80分の1。付図の折込図を80分の1、周溝墓・土壙・墓壙・柱穴などの平面図に関しては、遺構の大きさを考慮して70分の1、60分の1、40分の1、20分の1、12分の1とした。地図や遺跡のグリット配置図などは、5,000分の1、1,000分の1、800分の1としている。

5　出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市万世町269－3）に一括保管している。

6　本書の作成は、手塚が中心となり、次の者が担当した。

●遺構平面図作成	近野慶子	●遺物実測図作成	手塚　孝
●写真図版作成	小林順子	●遺構遺物・データ集約	髙橋正子
●付表作成	髙橋正子	●彩色挿図作成	小林順子
●本文執筆・編集	手塚　孝	●責任校正	手塚　孝

本　文　目　次

序　文
例　言
目　次
1　遺跡の概要……1
2　調査の経過……1
3　検出された遺構……4
1．古墳時代の遺構　……4
(1) 方形周溝墓 ……4
・3号周溝墓　……4
・4号周溝墓　……6
(2) 円形周溝墓 ……13
・1号周溝墓　……13
・2号周溝墓　……13
(3) 石組遺構 ……13
(4) 溝状遺構 ……14
(5) 井戸跡 ……14
2．奈良・平安期の遺構　……15
(1) 土　壙 ……15
(2) 土器埋納遺構 ……15
(3) 柱　穴 ……15
(4) 河川跡 ……15
3．中世期の遺構　……16
(1) 墓　壙 ……16
(2) 井戸跡 ……16
(3) 土　壙 ……25
(4) 溝状遺構 ……25
4　検出された遺物……25
1．縄文時代の遺物……34
(1) 出土石器 ……34
2．古墳時代の遺物……34
(1) 出土土器 ……34
・A群Ⅰ類……34
・A群Ⅰa類……34
・A群Ⅰb類……34
・A群Ⅰc類……35
・A群Ⅱ類……35
・A群Ⅲ類……35

・A群Ⅳ類…… 35
・A群Ⅴ類…… 35
⑵ 鉄製品 …… 38
⑶ 臼玉・ガラス小玉 …… 38
3．奈良・平安の遺物 …… 38
⑴ 出土土器 …… 38
・B群Ⅰ類…… 38
・B群Ⅱ類…… 39
・B群Ⅱａ類…… 39
・B群Ⅱｂ類…… 39
・B群Ⅱｃ類…… 39
・C群Ⅰ類…… 39
・C群Ⅰａ類…… 39
・C群Ⅰｂ類…… 39
・C群Ⅰｃ類…… 39
・C群Ⅱ類…… 39
・C群Ⅲ類…… 39
・C群Ⅳ類…… 43
・C群Ⅴ類…… 43
・C群Ⅵ類…… 43
・D群Ⅰ類土器…… 43
・D群Ⅰａ類…… 43
・D群Ⅰｂ類…… 43
・D群Ⅰｃ類…… 43
・D群Ⅰｄ類…… 43
・D群Ⅰｅ類…… 43
・D群Ⅰｆ類…… 43
・D群Ⅱ類…… 56
・D群Ⅲ類…… 56
4．中世の遺物 …… 56
5．近世の遺物 …… 56
5　まとめ…… 56
参考文献…… 59
報告書抄録…… 66

付表目次

第１表　大西遺跡遺構分類計測表 …… 30
第２表　大西遺跡出土古式土師器分類表 …… 48
第３表　大西遺跡出土土器分類表 …… 49

第４表　山形県内方形周溝墓一覧 …… 57

挿図目次

第 1 図　大西遺跡周辺の地形図 …… 2
第 2 図　大西遺跡グリット配置図 …… 3
第 3 図　大西遺跡調査区全体図 …… 5
第 4 図　大西遺跡周溝墓全体図 …… 7
第 5 図　大西遺跡１号周溝墓平面図（ＭＮ１） …… 8
第 6 図　大西遺跡２号周溝墓平面図（ＭＮ２） …… 9
第 7 図　大西遺跡３号周溝墓全体図（ＭＮ３） …… 10
第 8 図　大西遺跡４号周溝墓全体図（ＭＮ４） …… 11
第 9 図　大西遺跡４号周溝墓主体部平面図 …… 12
第 10 図　大西遺跡石棺平面図（ＭＮ５） …… 14
第 11 図　大西遺跡土壙平面図(1) …… 17
第 12 図　大西遺跡土壙平面図(2) …… 18
第 13 図　大西遺跡土壙平面図(3) …… 19
第 14 図　大西遺跡土壙平面図(4) …… 20
第 15 図　大西遺跡土壙平面図(5) …… 21
第 16 図　大西遺跡土器埋納遺構平面図 …… 22
第 17 図　大西遺跡柱穴平面図(1) …… 23
第 18 図　大西遺跡柱穴平面図(2) …… 24
第 19 図　大西遺跡溝状遺構平面図(1) …… 26
第 20 図　大西遺跡溝状遺構平面図(2) …… 27
第 21 図　大西遺跡河川跡平面図 …… 28
第 22 図　大西遺跡河川跡想定図 …… 29
第 23 図　大西遺跡出土遺物実測図(1) …… 36
第 24 図　大西遺跡出土遺物実測図(2) …… 37
第 25 図　大西遺跡出土遺物実測図(3) …… 40
第 26 図　大西遺跡出土遺物実測図(4) …… 41
第 27 図　大西遺跡出土遺物実測図(5) …… 42
第 28 図　大西遺跡出土遺物実測図(6) …… 44
第 29 図　大西遺跡出土遺物実測図(7) …… 45
第 30 図　大西遺跡出土遺物実測図(8) …… 46
第 31 図　大西遺跡石器遺物実測図(1) …… 47

図版目次

第一図版　大西遺跡の発掘（一）
▲調査区全景（空中写真）　▲周溝墓全景（空中写真）
第二図版　大西遺跡の発掘 (二)

▲周溝墓確認状況　▲２号周溝墓発掘状況
第三図版　大西遺跡の発掘（三）
▲１・２・４周溝墓調査状況　▲１～３周溝墓完堀状況
第四図版　大西遺跡の発掘（四）
▲１号周溝墓完堀状況
▲１号周溝墓確認状況　▲１号周溝墓主体部確認状況
▲１号周溝墓主体部断面状況　▲１号周溝墓主体部完堀状況
第五図版　大西遺跡の発掘（五）
▲１号周溝墓Ａベルト断面　▲１号周溝墓Ｅベルト断面
▲１号周溝墓Ｂベルト断面　▲１号周溝墓Ｆベルト断面
▲１号周溝墓Ｃベルト断面　▲１号周溝墓Ｇベルト断面
▲１号周溝墓Ｄベルト断面　▲１号周溝墓Ｈベルト断面
第六図版　大西遺跡の発掘（六）
▲２号周溝墓完堀状況
▲２号周溝墓確認状況　▲２号周溝墓主体部確認状況
▲２号周溝墓主体部調査状況　▲２号周溝墓主体部断面状況
第七図版　大西遺跡の発掘（七）
▲２号周溝墓Ａベルト　▲２号周溝墓Ｅベルト断面
▲２号周溝墓Ｂベルト断面　▲２号周溝墓Ｆベルト断面
▲２号周溝墓Ｃベルト断面　▲２号周溝墓Ｇベルト断面
▲２号周溝墓Ｄベルト断面　▲２号周溝墓Ｈベルト断面
第八図版　大西遺跡の発掘（八）
▲３号周溝墓完堀状況
▲３号周溝墓確認状況　▲３号周溝墓主体部確認状況
▲３号周溝墓主体部断面状況（１）　▲３号周溝墓主体部断面状況（２）
第九図版　大西遺跡の発掘（九）
▲３号周溝墓Ａベルト断面　▲３号周溝墓Ｅベルト断面
▲３号周溝墓Ｂベルト断面　▲３号周溝墓Ｆベルト断面
▲３号周溝墓Ｃベルト断面　▲３号周溝墓Ｇベルト断面
▲３号周溝墓Ｄベルト断面　▲３号周溝墓Ｈベルト断面
第一〇図版　大西遺跡の発掘（一〇）
▲４号周溝墓主体部完堀状況
▲４号周溝墓確認状況　▲４号周溝墓完堀状況
▲４号周溝墓主体部全景　▲鉄鑿出土状況
第一一図版　大西遺跡の発掘（一一）
▲４号周溝墓主体部確認状況
▲４号周溝墓Ａベルト断面　▲４号周溝墓Ｂベルト断面
▲４号周溝墓Ｃベルト断面　▲４号周溝墓Ｄベルト断面
第一二図版　大西遺跡の発掘（一二）

▲４号周溝墓主体部全景
▲石組（ＭＮ５）完堀状況
第一三図版　大西遺跡の発掘（一三）
▲ＤＹ２１完堀状況（井戸）　▲ＤＹ５完堀状況（井戸）
第一四図版　大西遺跡の発掘（一四）
▲北東調査区の溝状遺構全景　▲トレンチ内のＫＹ１４完堀状況
第一五図版　大西遺跡の発掘（一五）
▲ＫＹ２・ＫＹ３完堀状況　▲ＫＹ１断面状況
第一六図版　大西遺跡の発掘（一六）
▲ＫＹ１Ｃトレンチ断面状況（河川跡）
▲ＫＹ１Ｆトレンチ内ＤＹ３３断面状況
第一七図版　大西遺跡の発掘（一七）
▲１号周溝墓主体部力子出土状況　▲２号周溝墓土師器出土状況
第一八図版　大西遺跡出土遺物（一）
第一九図版　大西遺跡出土遺物（二）
第二〇図版　大西遺跡出土遺物（三）
第二一図版　大西遺跡出土遺物（四）
▲須恵器甕（表）　▲須恵器甕（裏）
第二二図版　大西遺跡出土遺物（五）
第二三図版　大西遺跡出土遺物（六）
第二四図版　大西遺跡出土遺物（七）
第二五図版　大西遺跡出土遺物（八）
第二六図版　大西遺跡出土遺物（九）
▲ガラス子玉　▲鉄製品
第二七図版　大西遺跡出土遺物（一〇）
▲４号周溝墓主体部出土臼玉・ガラス小玉
▲４号周溝墓主体部出土臼玉・ガラス小玉実測図
第二八図版　大西遺跡出土遺物（一一）
▲石器類（表面）　▲石器類（裏面）

付　図

付図１　大西遺跡遺構全体図

1　遺跡の概要

本遺跡は、米沢市街地の北西約４㎞の窪田町小瀬字大西 712 他に所在する。付近一帯は、比較的平坦な地形が広がる水田地帯となっており、僅かに遺跡周辺だけが１ｍほど小高い微高地となっている。こうした微高地は、かつての鬼面川の氾濫によって形成された自然堤防及び河岸段丘に分類されるもので、大西遺跡から南東部一帯にも点在している。

遺跡は、標高 233m の微高地を中心とした範囲に分布しているもので、西側には I-462 の杉之崎下館、I-461 の渡北館、I-463 の天神前中館といった中世期に成立した城館跡が隣接して存在している。

2　調査の経過

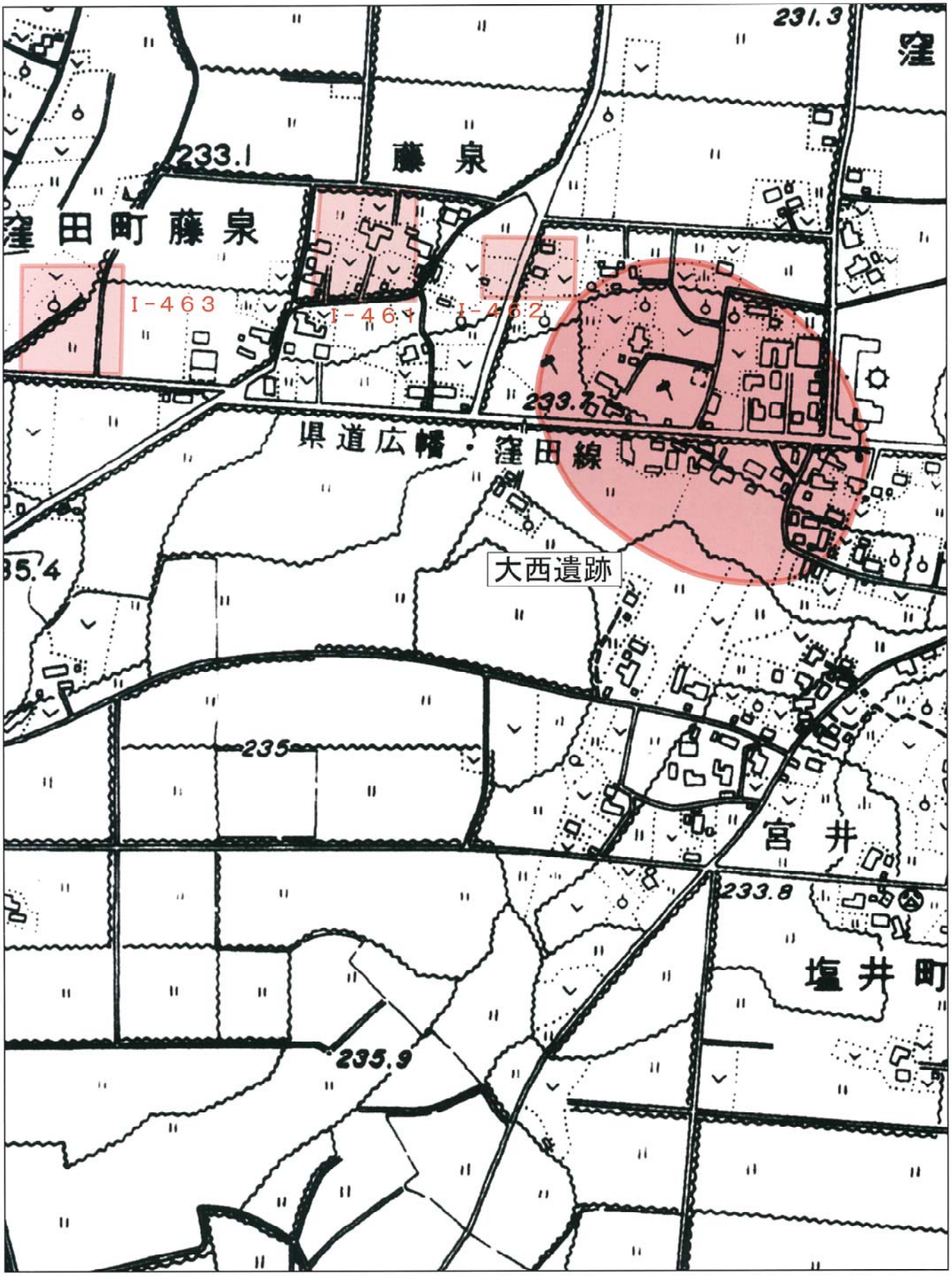
窪田町小瀬地区に住宅団地造成工事を計画している建設会社の依頼を受けた米沢市教育委員会は、平成 15 年４月７・８日の２日を要して試掘調査を実施した。試掘は、宅地造成の計画となる約 20,000 ㎡を対象に２ｍを基本としたトレンチ 11 本（30m ～ 50m）を配して実施した結果、溝状遺構・柱穴・土壙などが、開発予定地の東側にあたる約 3,000 ㎡の範囲にわたって遺構が存在することが確認された。遺跡は、出土した須恵器片や赤焼土器片より、奈良時代から平安時代の古代と中世にかけての集落跡であることが判明した。遺跡の範囲は、開発範囲に加わらない南東部を中心に南北 340m、東西 270m の範囲に分布すると想定される。

本市教育委員会はこの結果を踏まえ、遺構・遺物が集中する 3,000 ㎡に対しての範囲が緊急発掘調査の対象となる旨を開発者に報告した。その後､原因者負担を前提に開発者と協議を行い、遺構の存在しない箇所については、工事を進める一方で、遺構の集中する 3,000 ㎡については緊急発掘調査を並行して実施することで合意する。

調査は、本市教育委員会が主体となって、平成 15 年６月２日から開始する。試掘調査で確認した遺構確認面（50 ～ 60 ㎝）に対し、重機を用いた表土剥離を先行して５月 27 日から 29 日の予定で開始する。並行して、調査区全体に８ｍを基本としたグリットを東西９グリット、南北６グリットを設定する。６月３日に工事の無事と調査の成果を祈願した鍬入式を行い、同日から平安時代から中世にかけての遺構が存在する第Ⅲ層上面の面整理を進める。ほぼ６月 14 日までに終了する。この段階の面整理において遺構のプランは概ね確認できたが、大半が近世から現代にかけての撹乱層が全体にわたって存在することから、慎重に掘り下げることにした。

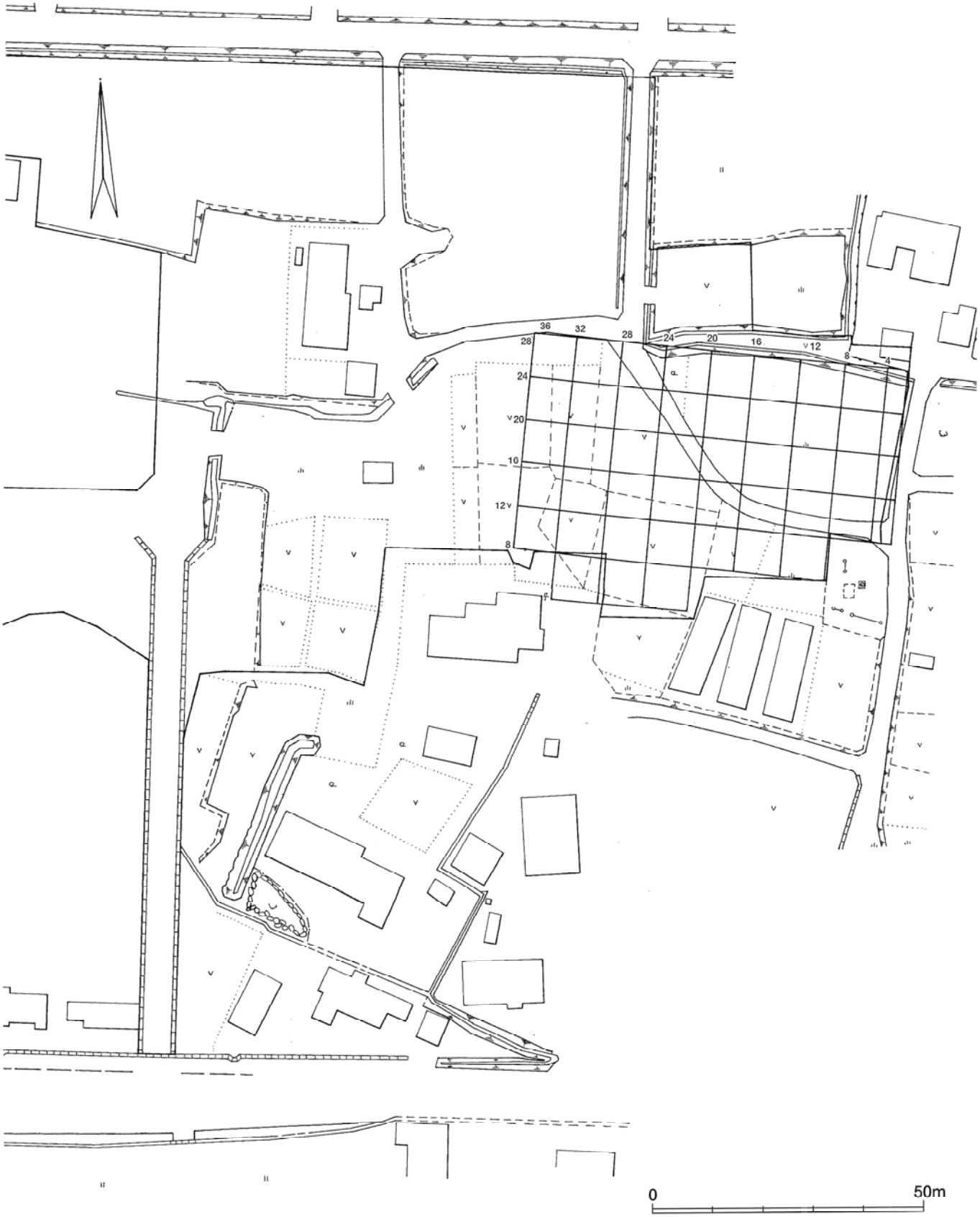
すると、調査区を南北に斜めに横断するように黒褐色土の土層が検出されたことからボーリング探査を実施したところ、黒土層を覆うようにシルト層が厚く堆積しながら東西左右に地山が傾斜している可能性が出てきた。シルト層は所謂「鬼面川」流域の氾濫層に類似していることを考慮し、既に遺構が検出されている中世から平安期の遺構面を残しながら６月 17 日より西側に確認用のトレンチを配して掘り下げる。一方、中央部は黒土層を基準にシルト層を除去し、遺構の確認調査を進める。

その結果、東西に傾斜する落ち込みは鬼面川に関連する河川跡と推測され、調査区の東西に存



第１図　大西遺跡周辺の地形図

0　100　200　300m



第２図　大西遺跡グリット配置図

在することが判った。河川跡は、確認面から最深で約２ｍを測るもので、南から北に流れた河川が調査区北側で急に蛇行して、南東側に向う形状となっている。よって、河川が機能していた時期には、蛇行部分が丁度、舌状台地のようになっていたとみられる。しかも、その蛇行部分を利用して古墳時代の周溝墓が築かれていたのである。周溝墓は、円形を有する周溝墓２基と方形周溝墓が２基、石棺１基の５基で構成されてあった。

特に注目されるのは、円形周溝墓の存在であり、県内で検出された例はこれまでにない予想以上の発見となった。

６月21日からは、古墳時代の周溝墓と河川跡を中心に遺構の掘り下げと土層断面図、平板測量等の記録作業を並行しながら進める。ほぼ遺跡の全体が判明した７月25日には、地元と報道機関を対象とした現地説明会を開催する。そして、７月29日には遺跡全体の空中写真の撮影を行い、７月30日で全工程を終了した。最終的な調査面積は2,290㎡であった。

3　検出された遺構

今回の大西遺跡からは、古墳前期の周溝墓４基を含めた167基の遺構が検出されている。遺構は、旧河川によって形成された自然堤防を利用したもので、Ｇ８～20－11～21を中心とした古墳前期の遺構。G12～28－８～26の舌状部分に存在する平安期を中心とする遺構。Ｇ３～９－14～26とG27～36－18～26の東西端にみられる中世期の遺構に大別される。

さらに、南東側のＧ８～20－８～13に存在する２条の溝は、調査区の南側を中心に構築された中世城館跡の空堀跡の一部と推測される。ここでは、検出された遺構について年代順に説明を加えることにする。各遺構の計測値に関しては、第１表　大西遺跡遺構分類計測表を参照されたい。

1．古墳時代の遺構

中世以降の氾濫によって埋没した遺構群である。東西の旧河川によって形成された自然堤防の先端部を利用したもので、方形周溝墓２基と円形周溝墓２基、河原石を組合せた石棺１基の計５基が隣接するように検出されている。周溝墓の中央部には、いずれも東西に主軸長をもつ長方形の主体部が設置されており、比較的明瞭に確認することができた。

遺構の年代は、検出された土師器より４世紀代後半の古墳時代前期と考えている。

（１）方形周溝墓「第４図・第１図版～第３図版」

東西の円形周溝墓を交差するように２基の方形周溝墓が検出されている。外側の周溝を直角に掘り下げ、内側に対して円弧を描くように仕上げるのが特徴で、隅を丸く仕上げた隅丸方形を示している。こうした特異な周溝の形態は、低い墳丘を高く誇張するための視覚効果を狙ったものと推測される。

・３号周溝墓「第４図・第７図・第８図版・第９図版」

１号周溝墓から北側に1.8m離れて検出された周溝墓で、東側周溝の一部が崩れていることで

第３図　大西遺跡調査区全体図

不整の円形状を示しているが、直線状に延びる西周溝と南周溝の状況から判断すれば、方形の可能性が高いものとみられる。周溝を含めた外法は、長径が7.22m、短径6.55m、溝幅として1.76m～2.86mであった。埋土は、5枚～6枚の黒土層とシルト層を中心とする自然堆積層で、外側から流入した様子が認められる。周溝の底面は、東西が平坦な箱堀に近い形状を示すのに対し、南北の周溝に関しては、底面が極端に狭い薬研堀の形態となっており、深さは33㎝～44㎝であった。遺物は、南周溝の底面付近に土師器坩の破片5点が出土したのみである。周溝内部の規模は概ね4m前後と推測される。

主体部は、二重構造となっており、最初の長径2.42m、短径1.23mの長方形墓壙を掘り込んだ後に、長さ1.85m、幅0.84m、深さ25㎝の内部施設が存在している。内部の長方形の掘り込みは、木棺を設置するために築かれたものとみられ、層№6に第二酸化鉄を用いた朱が部分的に観察されている。主体部の方向は、N－59°－Wで、副葬品等の遺物は検出されなかった。

・4号周溝墓「第4図・第8図・第9図・第10図版～第12図版」

1号周溝墓の西側90㎝、2号周溝墓の南側1.5mに位置するもので、2基の円形周溝墓に挟まれるような形で検出されている。南側の周溝が中世のKY 3によって切られ、北側も後世の水道工事で切られてはいるが比較的明瞭に確認することができた。周溝を含めた外法の長径が4.03m、短径で3.92mと今回の周溝墓の中では最も小規模なものとなる。平面形状は、3号周溝墓と同じ様に円形状にも映るが、周溝の立ち上がりと方向の吟味から隅丸方形を示すものと考えている。周溝墓内部の内法は2.7m前後であった。

周溝の幅は、0.78m～1.24m、深さ約14㎝～36㎝で、4枚～6枚の自然堆積層で構成されている。この中で、層№1と層№2の表層に関しては、多量のシルト層が認められることから河川の氾濫によって運ばれた氾濫層と推測される。

主体部は、N－68°－Eを基軸とした長径1.7m、短径1.37m、深さ15㎝の長方形墓壙の内部に長径1.02m、短径0.82m、深さ30㎝をさらに掘り下げて埋葬施設を構築している。

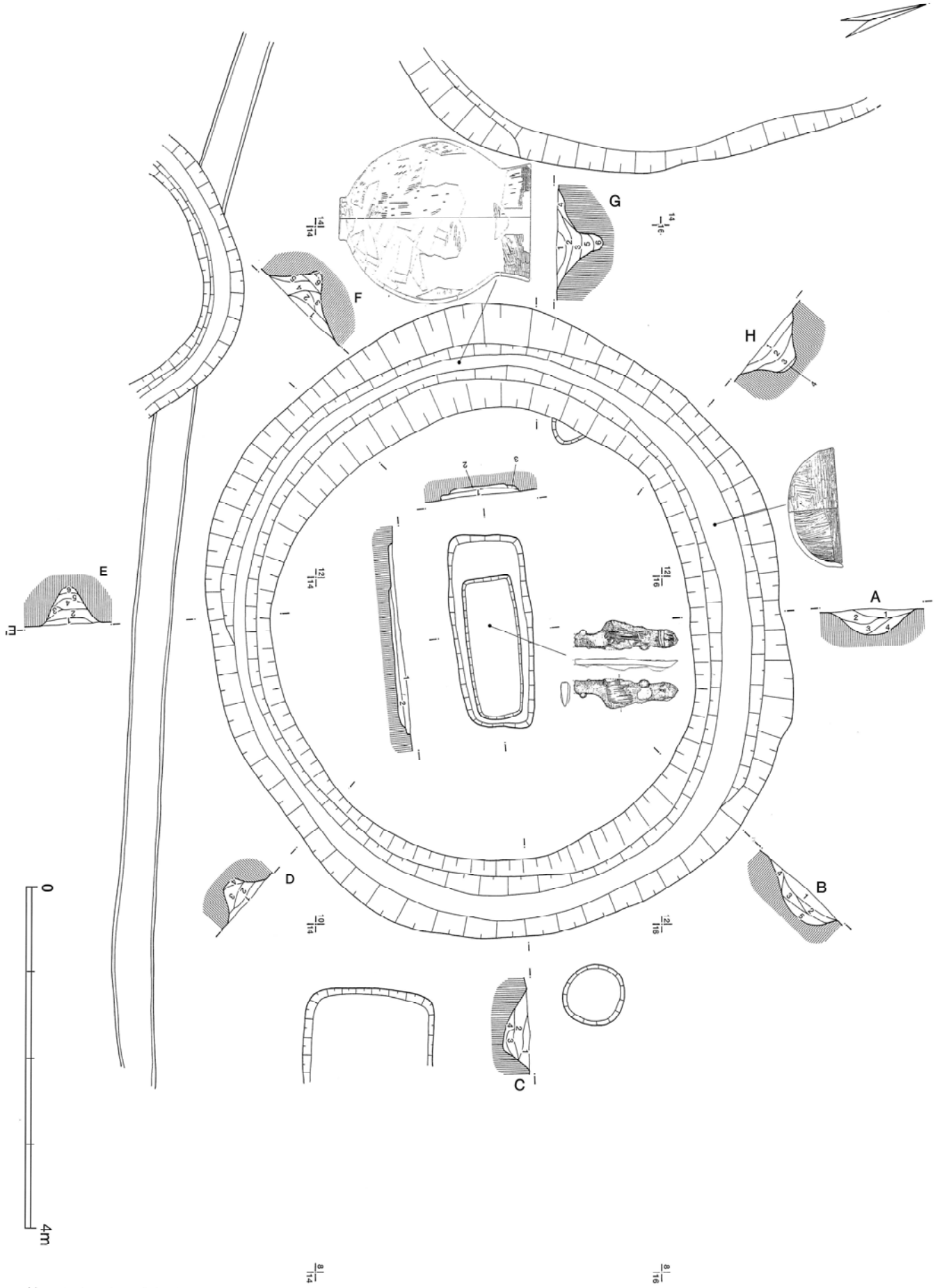
埋葬施設は、扁平な河原石を側壁に沿って並列させたもので、主軸の両端に大きめな礫を設置した組合式の石棺を構築している。側壁の礫は、棺床面から20㎝～30㎝の深さに、打ち込むのが特徴で、断面には掘った痕跡は認められない。石棺の内法は、長径70㎝、幅25㎝、深さ20㎝の長方形を示すもので、棺の底面には約3㎝の厚さで小石を敷き詰めて整地を行っている。また、石棺の東側を中心に朱の痕跡が部分的に観察された。

注目したいのは、石棺の南側を構成する複合側壁の存在である。側壁の最終形態を含め、同様な工法で三重に配置する必要性を考えると不自然である。石棺を意図的な形態とみることももちろん可能ではあるが、むしろ、当初設置した石棺が被葬者の寸法より大きかったことを受けて、それぞれ二回にわたって側壁の石を調整していったと考えるのが自然であろう。

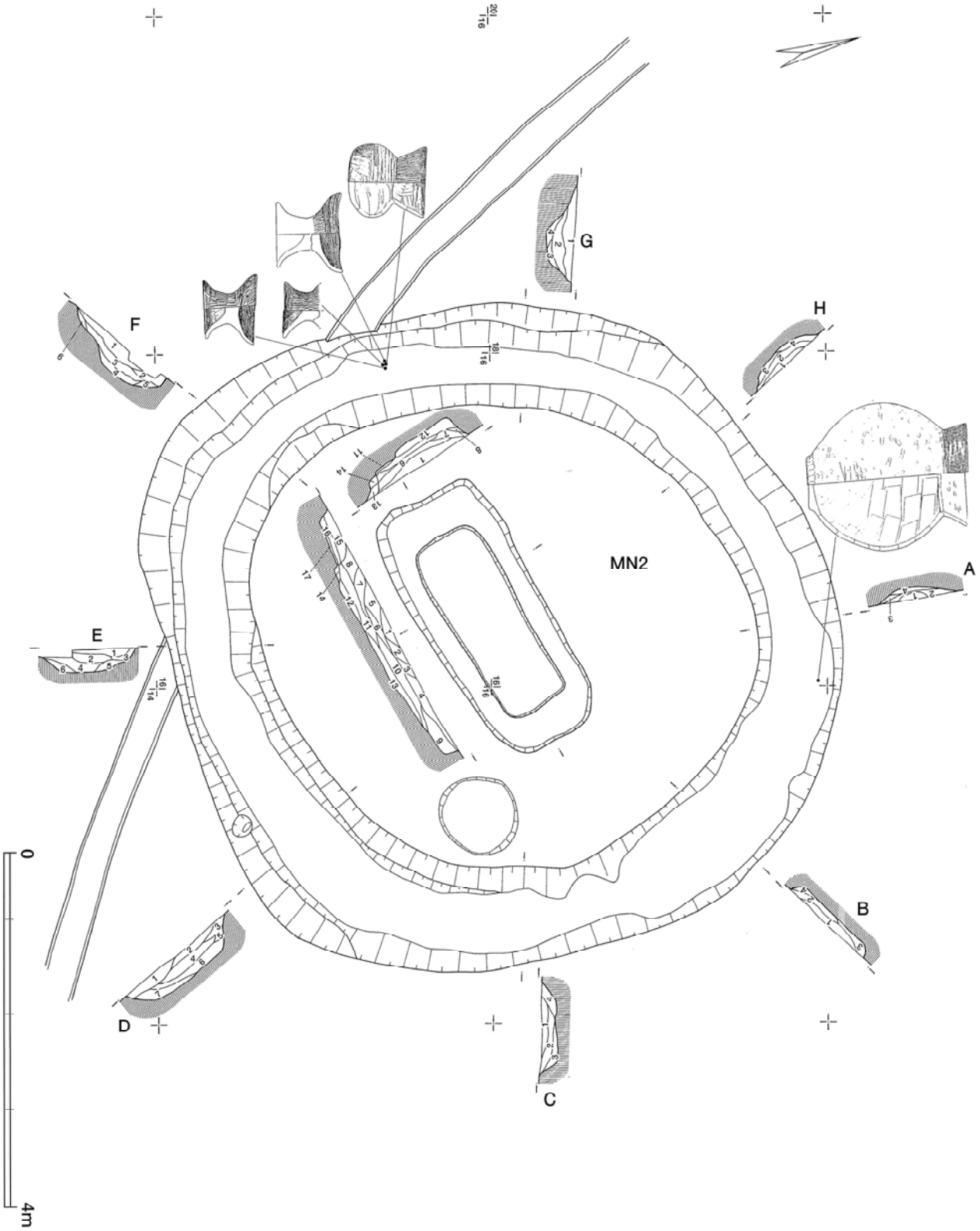
石棺には、長さ50㎝前後の縦長の石を横に並列して蓋石として設置し、さらに河原石で覆っている。そして、その上部に若干の盛土を覆ったものとみられる。4号周溝墓の墳丘としては、周溝の立ち上がりの角度と礫のレベルから第8図に示した破線のように想定され、概ね20㎝と前後と推測される。

遺物としては、石棺の中央南側の床面に鉄鑿1点、棺の東端を中心に臼玉20点とガラス小玉

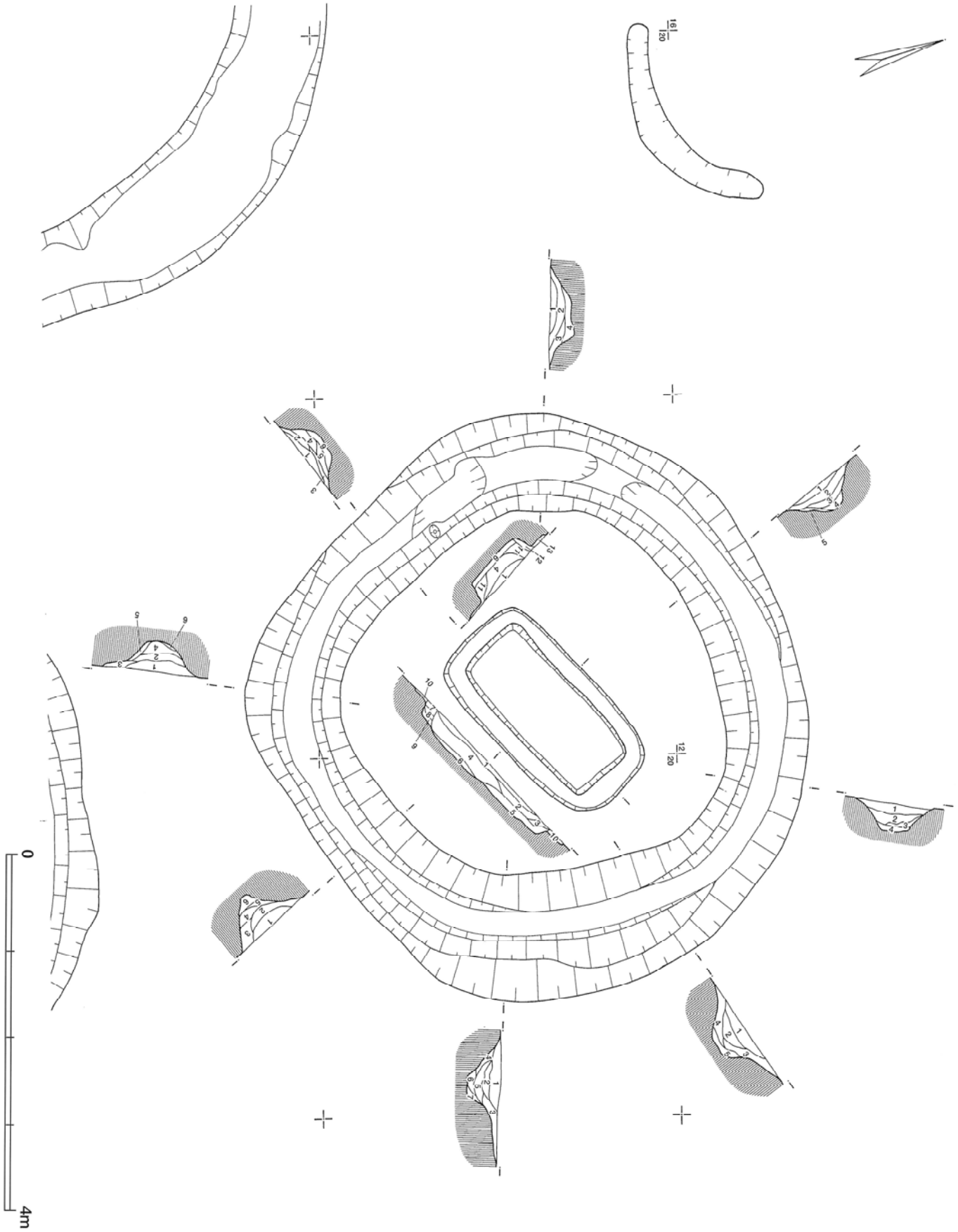
第４図　大西遺跡周溝墓全体図



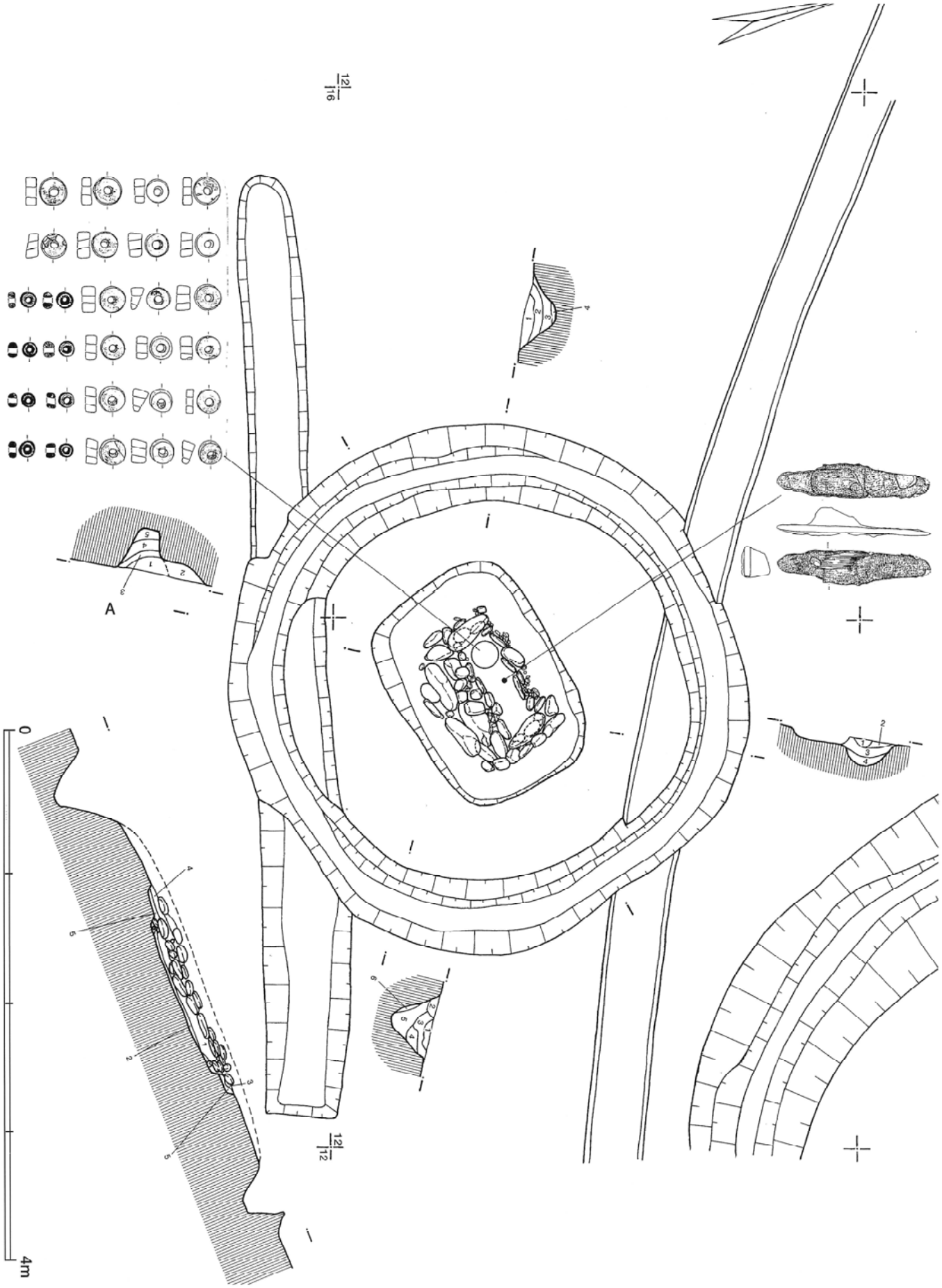
第５図　大西遺跡１号周溝墓平面図（MNI）



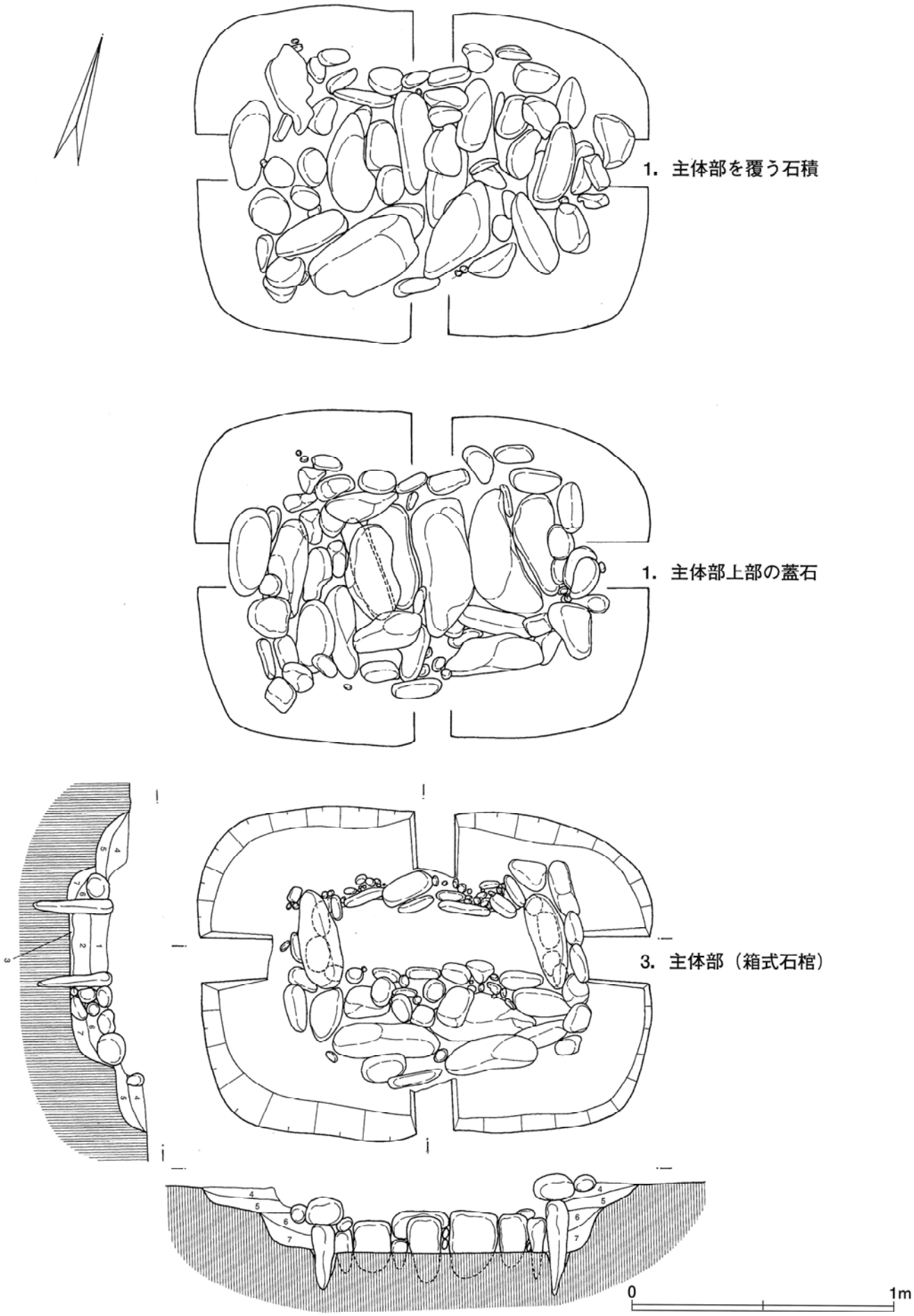
第 6 図　大西遺跡 2 号周溝墓平面図（MN2）



第７図　大西遺跡３号周溝墓全体図（MN3）



第 8 図　大西遺跡 4 号周溝墓全体図（MN4）



第９図　大西遺跡４号周溝墓全体図（MN4）

６点が副葬品として検出されている。周溝内部の遺物としては、西周溝より甕の破片４点が認められた。石棺を有する４号周溝墓に関しては、本来の木棺を設置しておらず、石棺や周溝墓も小規模なことから幼児を埋葬した可能性が高いものと考えられる。

（２）円形周溝墓

河川が蛇行した最も高い箇所を選定して存在するもので、東西に並列するように２基の周溝墓が検出されている。

・１号周溝墓「第４図・第５図・第４図版・第５図版」

最も東側に位置する周溝墓で、幅 0.64m ～ 1.21m、深さ 35 ㎝～ 51 ㎝の周溝がほぼ円形状に配されており、外法で長径 7.25m、短径 6.64m を測る。周溝内部の内法は概ね 5.5m 前後となる。特に、南側から西側にかけた周溝は底面が極端に狭く所謂「薬研堀」のような形状を示している。さらに底面から立ち上がる壁面に対しても外側を垂直に、内側は円弧を描くように仕上げるのを特徴としている。

溝内部の堆積層は、４枚～６枚の黒土層を主体とするが、層№.１と層№.２はシルト層が中心となっており、明らかに河川によって運ばれた堆積層である。

主体部は、長径 2.23m、短径 0.86m、深さ６㎝の墓壙に、長径 1.8m、短径 0.6m、深さ 10 ㎝と浅く掘り込んだ主体部が確認されている。主軸方向はＮ－ 84°－Ｗを示す。

遺物は主体部の中央部から刀子１点と北側の周溝底部より埦１点、東底面より土師器壺形土器１点、土師器片２点が検出されている。

・２号周溝墓「第４図・第６図・第６図版・第７図版」

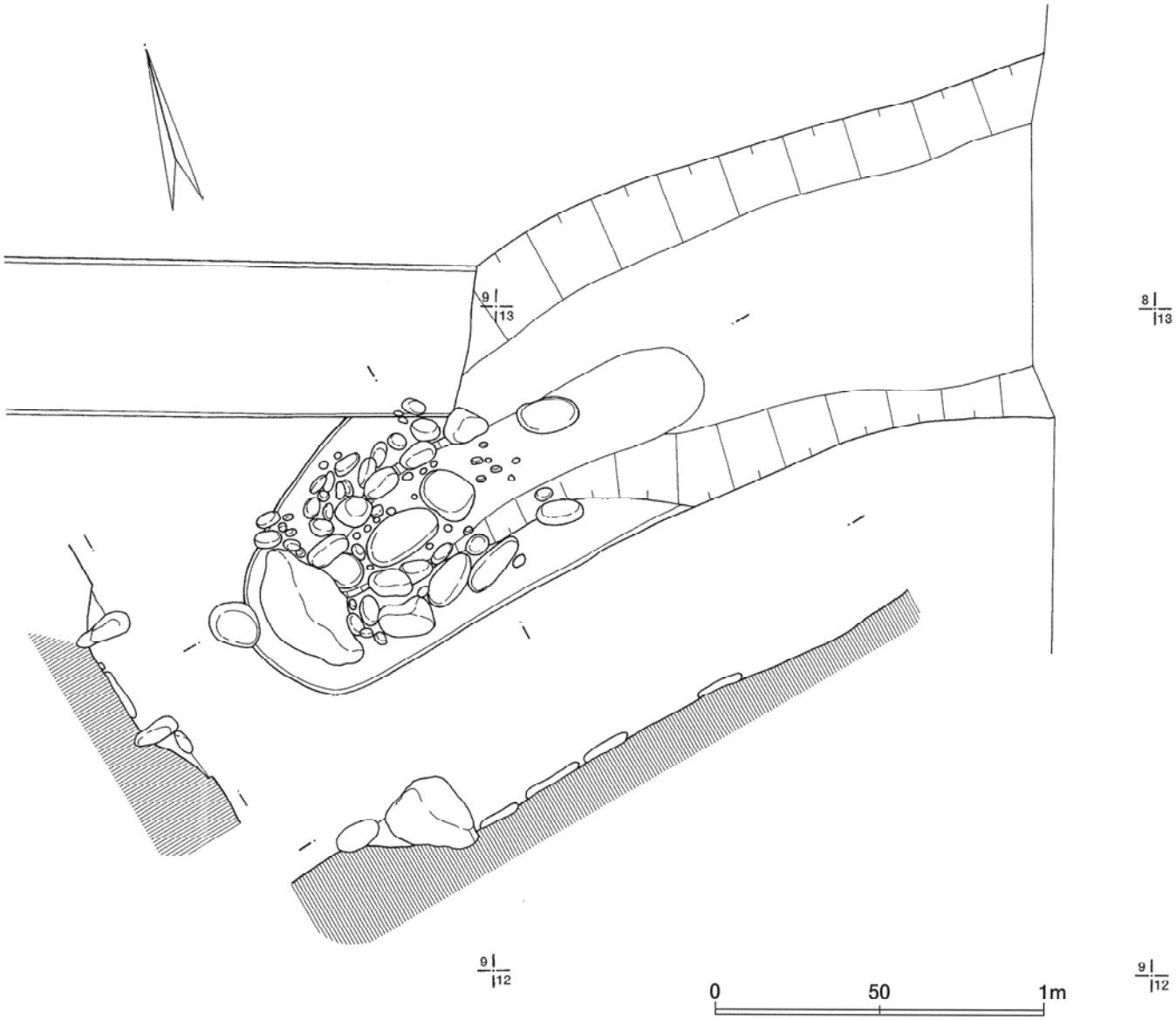
今回検出された周溝墓の中では最も大きなものであり、外法の長径 8.64m、短径 8.26m、幅 1.01m ～ 1.43m の周溝が不整円形に配されている。周溝は比較的平坦で、15 ㎝～ 30 ㎝と浅くなっている。溝内部の堆積層は、４枚～６枚前後の自然堆積によるもので、Ａベルト～Ｄベルトの東側から北側にかけた層№.１内に地山層と後世の氾濫とみられるシルト層が混入している。黄褐色粘土の地山層は、周溝を掘り上げた際の土砂を墳丘に盛土したものが後に崩れて入り込んだとみられる。周溝内部の内法は概ね６ｍ前後と想定された。

主体部は、Ｎ－ 60°－Ｅを示し、東側の３号周溝墓と同じ方向を向いている。墓壙は、長径が 3.32m、短径 1.45m の長方形を堀り、その底面に木棺を設置する長径 2.37m、短径 0.8m、深さ 28 ㎝の長方形の主体部が存在する。具体的な木棺痕跡は認められなかったが、層№.11 の東端に沿って朱が部分的に確認されている。主体部からの遺物は認められなかった。

北側と西側の周溝底部より祭祀に使用した坩１点・壺形土器１点・器台３点の他に土師器片 26 点が出土している。

（３）石組遺構「第４図・第 10 図・第 12 図版」

１号周溝墓の約 3.5m の位置に存在する石組遺構で、東側の一部が水道管埋設工事によって破壊されている。現長 1.0m、幅 0.55m、深さ 19 ㎝の長方形状を示しており、扁平な河原石を側壁とし、間に小礫を詰め込んだ構造で、形態的には４号周溝墓の石棺に類似している。周溝が認められないことで、周溝墓の外側に配置した外部施設とみられる。幼児を埋葬した石棺墓とみられる。遺物は出土しなかった。



第 10 図　大西遺跡石棺平面図（MN5）

（4）溝状遺構「第 21 図・第 14 図版」

河川跡（KY 1）の斜面に掘られた溝状遺構で、KY 1－C・KY 1－E・KY 1－F・KY 1－Gのトレンチから検出されたKY14の溝状遺構である。幅 40 ㎝～ 58 ㎝、深さ 25 ㎝前後と浅く、KY 1の堆積層である第Ⅴ層面の暗黒褐色泥炭層が混入していることやKY 1－Fトレンチの KY14 内に古式土師器の甕片が出土したことから、周溝墓が機能していた古墳前期に属するものと推測される。全体的な長さは明確にできなかったが、トレンチで確認された KY14 の推測延長は、23m 以上となる。

（5）井戸跡「第 4 図・第 12 図・第 13 図版」

古墳時代の土壙として確認されたのは、1 号周溝墓の東側 1.4m に位置する DY 5 の 1 基のみである。方形状を呈する土壙は、長径 2.8m、短径 2.73m、深さ 0.85m の掘り方と井戸枠を設置した痕跡が、50 ㎝ほど掘り下げた面で確認されている。具体的な木質物は検出されなかったが、

ほぼ2m前後の方形を示すことで井戸跡と考えられる。埋土は9枚で、層№.1と層№.2が井戸の廃絶後に河川によって堆積した氾濫層。層№.3～層№.6が井戸内部の自然堆積層。層№.7～層№.9が掘り方内部の版築層となる。遺物は、層№.2の下面から№.3の上面より土師器甕片が3点検出されているが、外側から流入した可能性が高い。

2．奈良・平安期の遺構

氾濫層を除去した面から検出された遺構で、柱跡と土壙、土器を埋納した遺構が検出されている。出土した土器の形態より8世紀後半から10世紀にかけての遺構群と思われる。

（1）土　壙「第11図～第15図」

遺物が確認されて確実に奈良・平安期に属するとみられる土壙は、DY 2・3・12・15・27・38・FY 1～FY 3の9基となる。その他に、埋土の観察から想定されるDY 8・14・16・36の4基も奈良・平安期の土壙と推測される。

円形及び楕円形を示す1m～2m、深さ15㎝～32㎝前後の浅い土壙で、調査区の中央から南側にかけて分布している。須恵器や赤焼土器の破片とともに炭化物が僅かに確認されていることからゴミ捨て用に掘られた可能性がある。

（2）土器埋納遺構「第16図・第18図版」

南側柱穴群の中に含まれていたもので、TY24の浅い穴の内部に多量の焼土と木炭とともに赤焼土器を中心とした須恵器坏・土師器坏・須恵器壺等7点が一括して埋納してある。さらにTY24に切られて存在するTY22の上部にも4点の赤焼土器が検出されている。焼土や木炭は、隣接するTY21・23・25等の柱穴内にも含まれている。

古代の官衙や集落跡では、祭祀を行った土器を埋納する風習が広く知られている。今回の遺構もこれらと同様に、遺跡周辺で何らかの祭祀を行った後に使用した土器をTY24に埋納したと推測される。

（3）柱　穴「第17図・第18図」

調査区中央の南側と北側の2箇所を中心として不規則に分布するもので、37基の小規模な柱穴と極端に浅い不明ピット61基が検出されている。前者の柱穴は、20㎝～40㎝の円形及び楕円形状を示すもので、深さも25㎝前後と比較的浅いものが大半となる。

小屋などの仮設施設のような建物跡ではないかと考えられる。後者の不明ピットは、20㎝未満を有するもので前者に関連する遺構としておきたい。遺物が出土していないことから、明確な年代は困難ではあるが、氾濫層の下面からの確認を考慮し、奈良・平安に属することにした。

（4）河川跡「第21図・第22図・第16図版」

調査区の中央を挟んで、東西に河川跡とみられる大規模な落ち込みが検出されている。8本のトレンチを配して確認した西側でみれば、南側から北西に進んだ河川が北西から東側に進路を変更していることが判る。河川は、東の岸側からなだらかに西側に傾斜を示しており、岸から西側10mほどいった所で最深部となり、1.5mを測る。

さらに西側に向うに従って高くなることから概ね30m以上の川幅を有していたと推測される。

ただし、北西のトレンチでは、河川壁からほぼ直角に２ｍほど落ち込んでいることを考えれば幅や深さは必ずしも一定していないものといえる。

また、東側に関しても西側と同様な方向に向うことは、河川が北側で合流もしくは蛇行している可能性がある。

第Ⅰ層 黄褐色シルト層	中　　世(14世紀頃)
第Ⅱ層 暗黄褐色砂質層	中　　世(13世紀頃) 平 安 末(12世紀頃) 平安時代(10世紀頃)
第Ⅲ層 暗黒褐色泥炭層	奈良時代(8世紀頃)
第Ⅳ層　間層	古墳時代(5世紀頃)
第Ⅴ層 暗黒褐色泥炭層	古墳前期(4世紀頃)
第Ⅵ層 黄灰褐色粘土層	古墳以前(?)

河川堆積土柱状図

河川の層位は、堆積層の厚さは一定していないが出土した遺物の年代を参考に年代を比較したのが左の基本層序である。

この層位から想定すれば、古墳以前に成立していた河川を利用して古墳を構築したのが第Ⅴ層からで、第Ⅳ層の間層となる一時的な氾濫によって集落を放棄したものと考えられる。

奈良時代に入るころになると再び河川の南側を中心に集落を構成し10世紀頃まで機能していたと思われるのが、第Ⅲ層の時期といえる。

さらに、平安時代の終わり頃に入ると、これまで河川堆積土柱状図は安定していた河川の氾濫が急速に進行するようになり、第Ⅰ層と第Ⅱ層のシルト及び砂を厚く堆積させた。この時期が平安末の10世紀から中世の14世紀と想定している。そして、すっかり河川が埋没し、安定したこの地に侵入したのが中世後半の15世紀以降で、集落や館跡を構築したものと考えられる。

３．中世期の遺構

調査区の東西を蛇行する河川の氾濫後に構築されたもので、34基の遺構が検出されている。明確な遺物が検出されていないことから時期の決定は困難となるが、僅かな土堝の破片が混入している点を重視すれば、中世期の15世紀以降と推測したい。

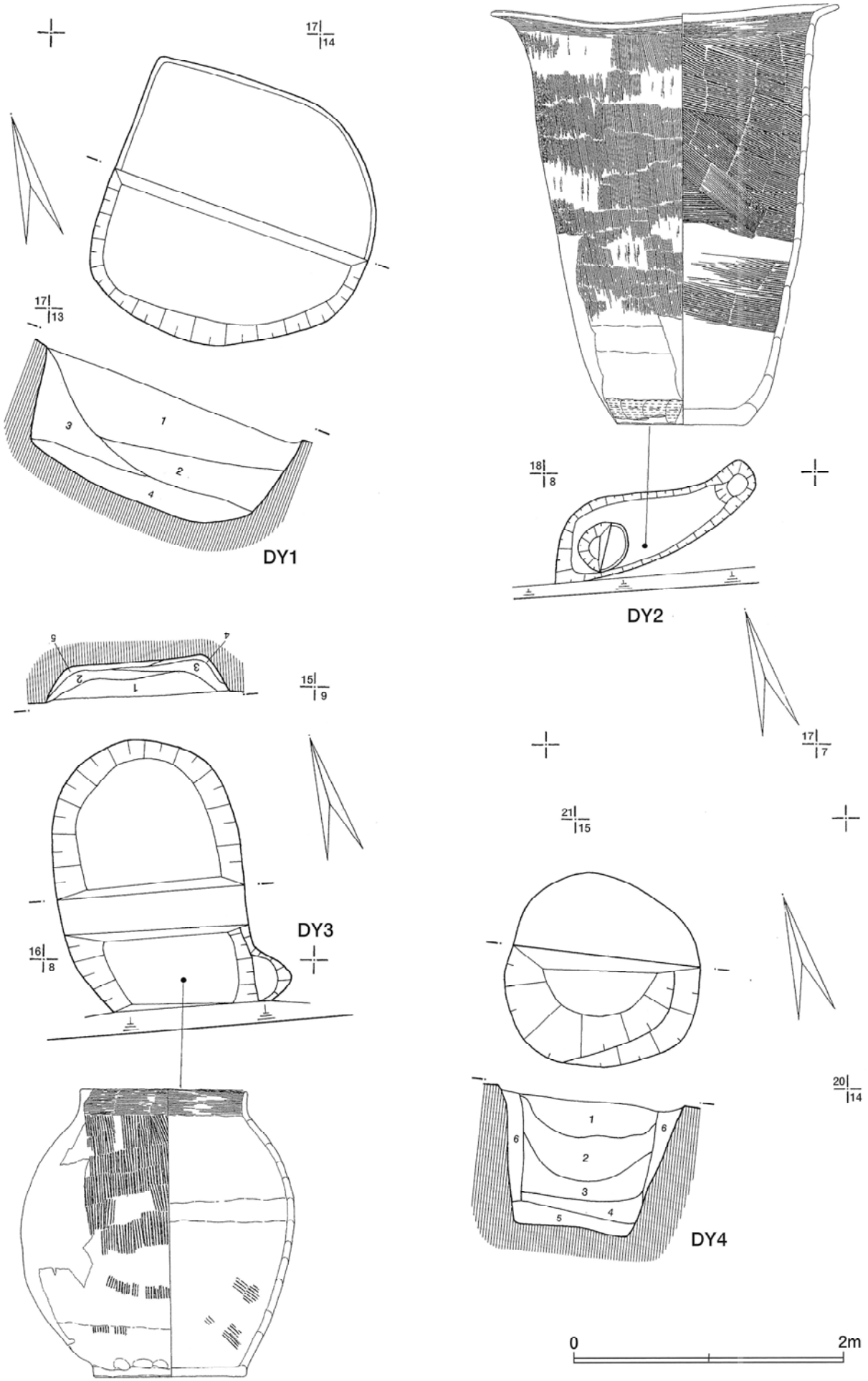
（１）墓　壙「第12図・第14図・第15図」

調査区の中央から東端に沿った微高地に0.9m～2.2mの円形と方形状の落ち込みが９基検出されている。前者の円形状の墓壙は、DY ９・10・13・18・20・22・28の７基で、深さ45㎝～101㎝を測る。後者の方形を示す墓壙は、DY ６・７の２基で、70㎝前後を示すもので、何れも東側に存在していた。遺物は認められないが人工堆積状況を示すことで、墓壙の可能性が強いものとみられる。

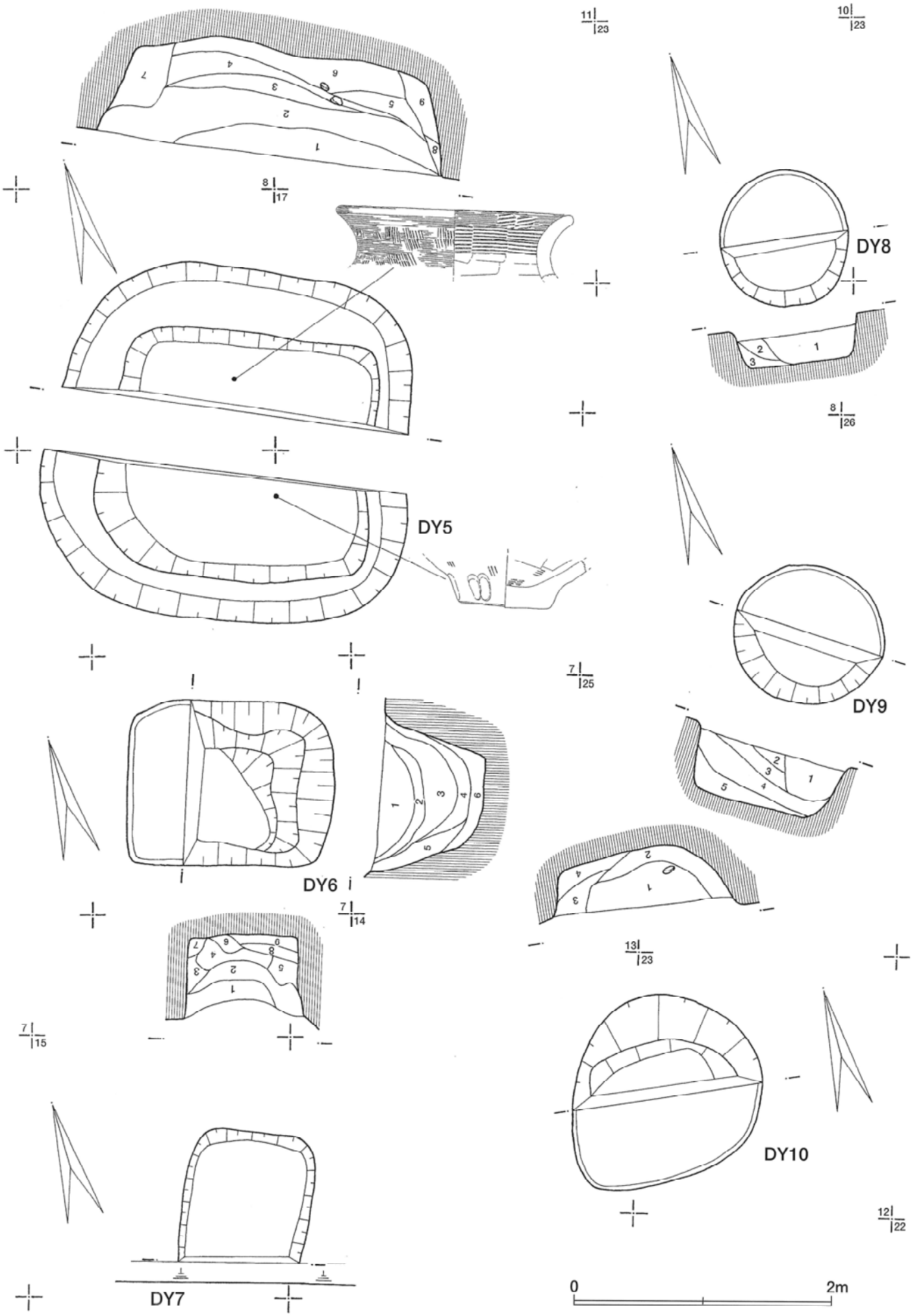
（２）井戸跡「第11図・第13図・第14図・第15図・第16図版」

円形ないし楕円形状の掘り方を示すもので６基の井戸が検出されている。何れも調査区の中央から西側に集中して検出されたもので、全体的に浅く遺物は含まれていない。

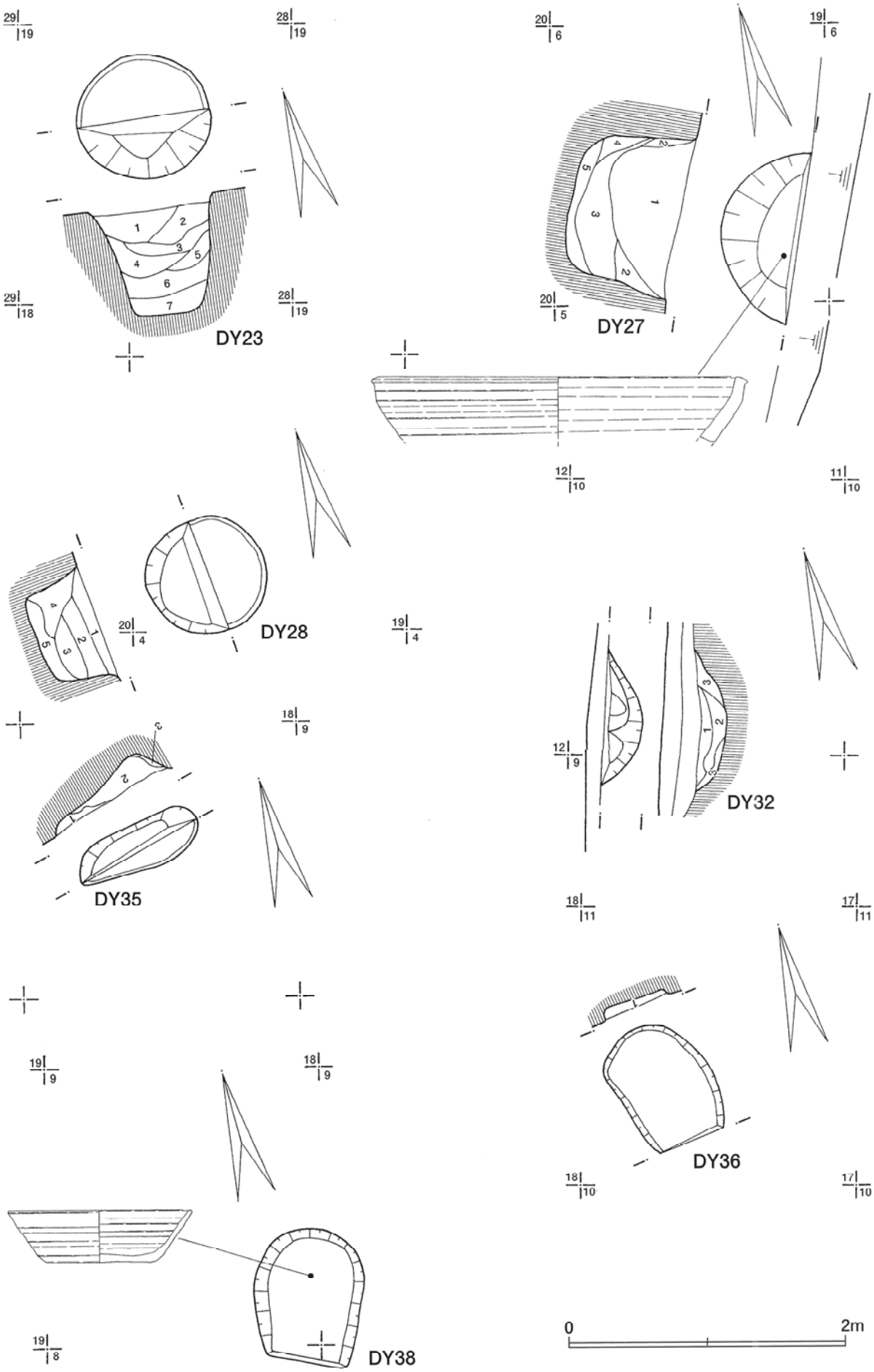
この中でDY21の井戸跡は、長径1.92m、短径1.76m、深さ0.87mの掘り方に一辺90㎝の方形状の井戸枠の痕跡が残っていた。次に井戸枠に曲物を利用したとみられるのがDY11



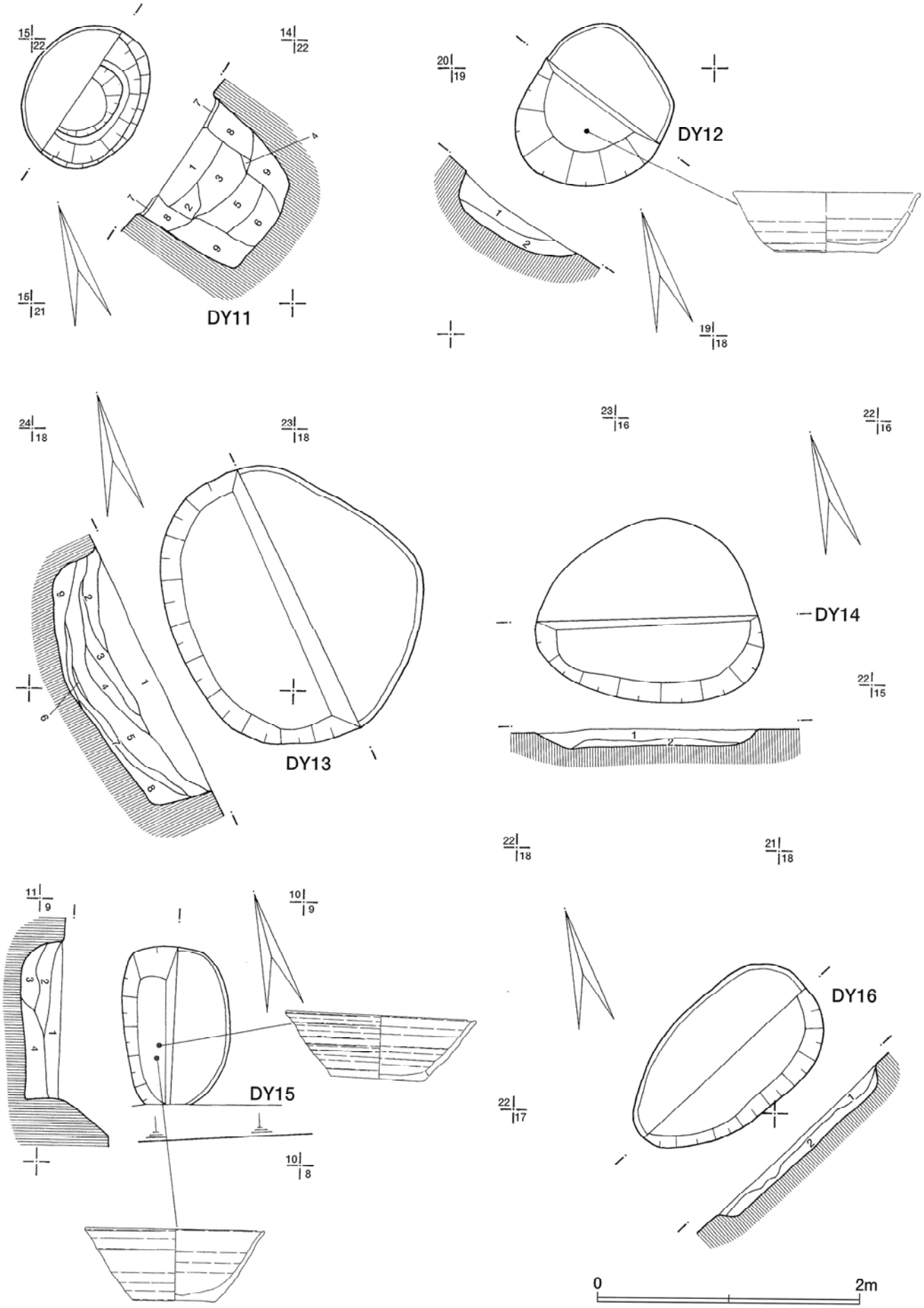
第 11 図　大西遺跡土壙平面図（1）



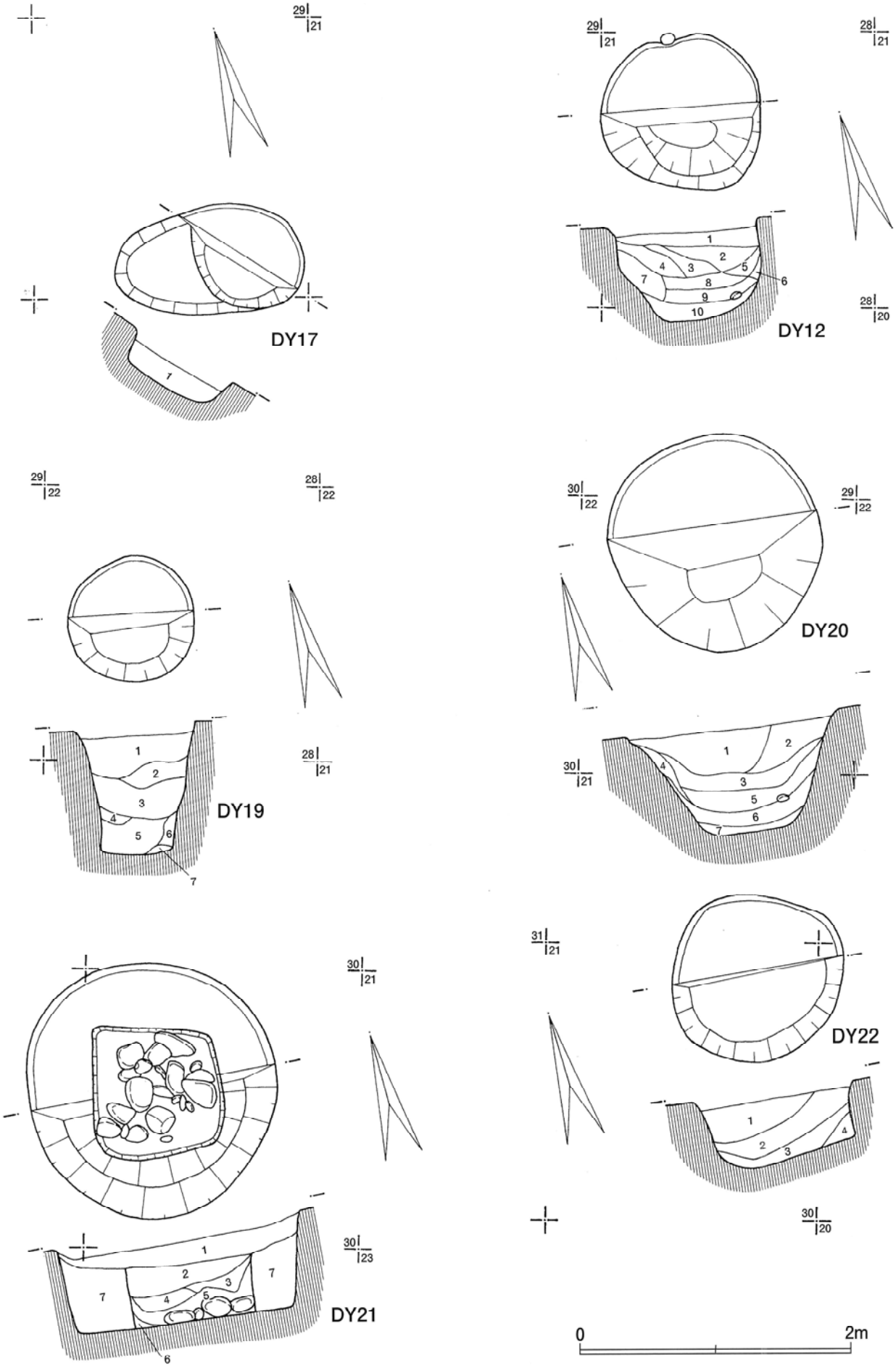
第 12 図　大西遺跡土壙平面図（2）



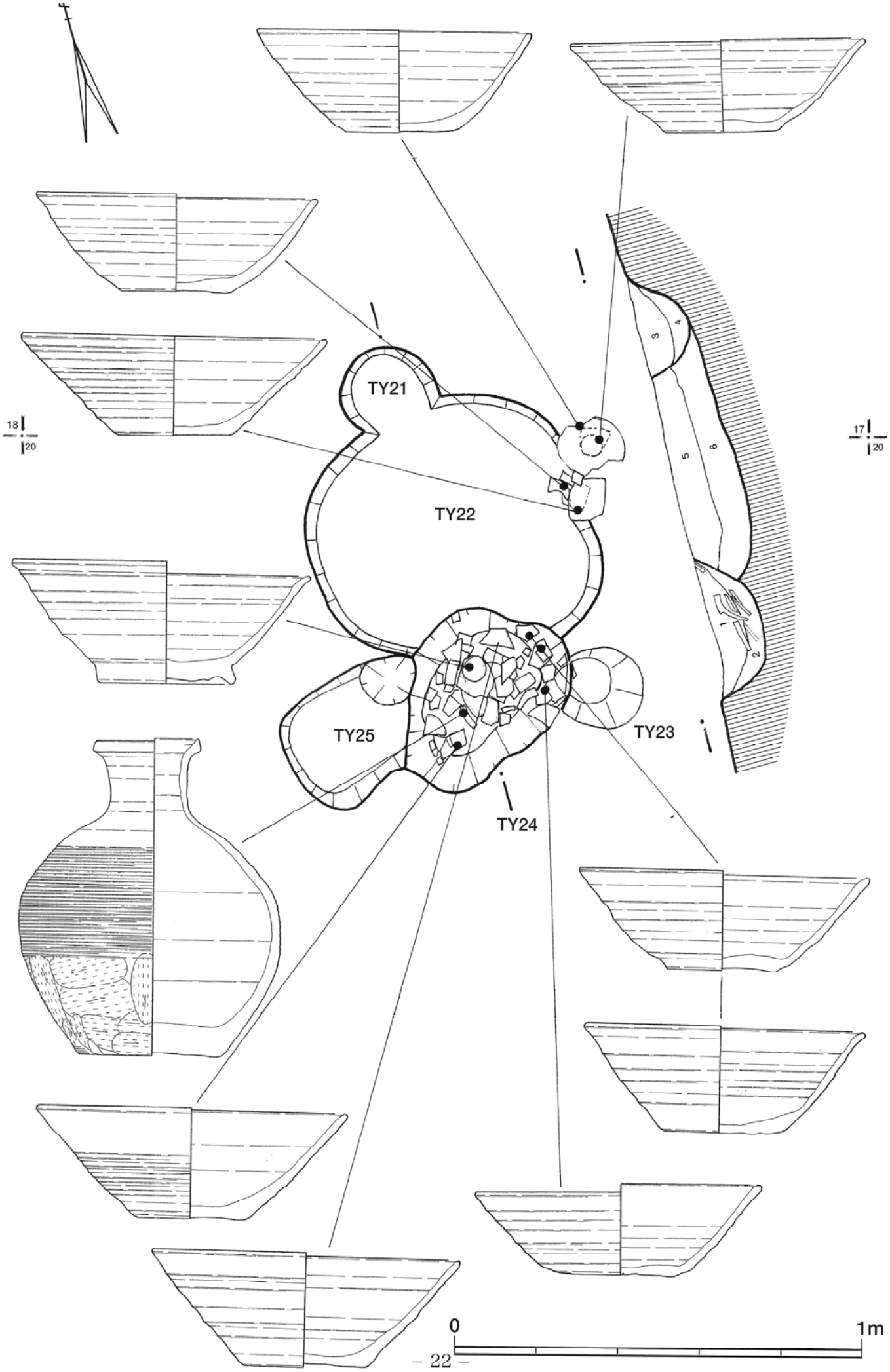
第13図　大西遺跡土壙平面図（3）



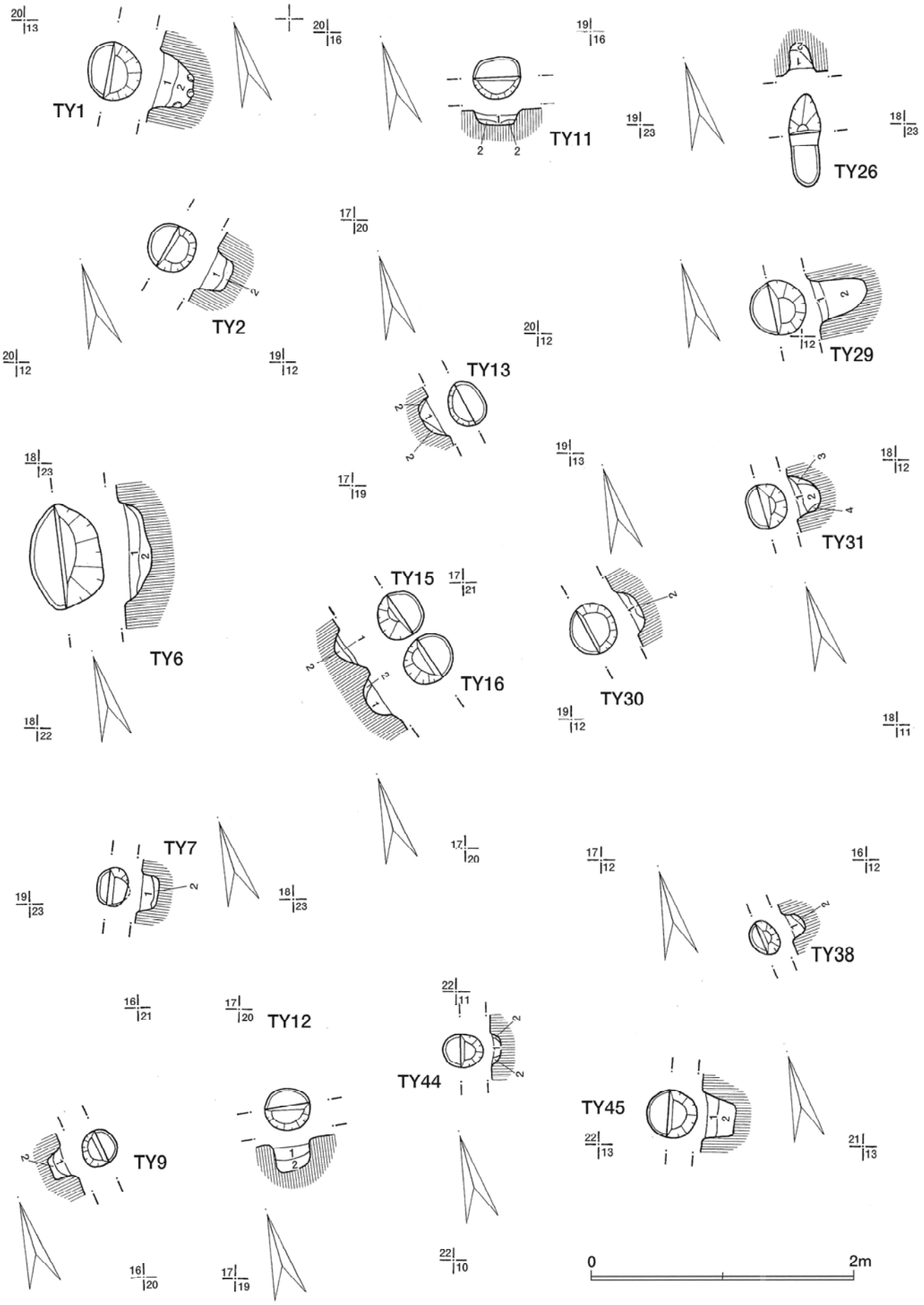
第 14 図　大西遺跡土壙平面図（4）



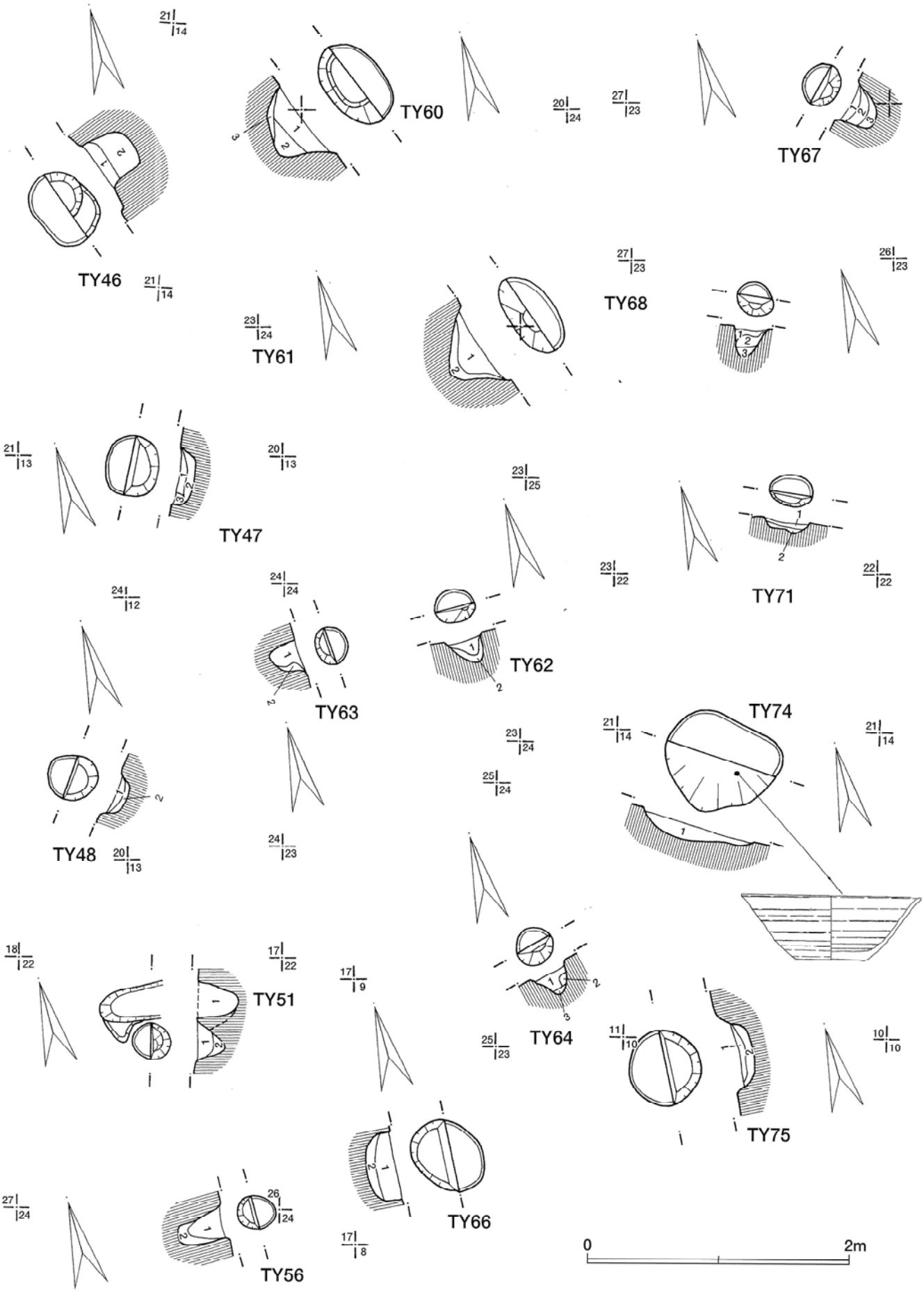
第 15 図　大西遺跡土壙平面図（5）



第 16 図　大西遺跡土器埋納遺構平面図



第 17 図　大西遺跡柱穴平面図（1）



第 18 図　大西遺跡柱穴平面図（2）

の井戸跡であり、長径 1.1m、短径 0.88m、深さ 0.7m の楕円形を示す掘り方に約 70 ㎝の円形状の井戸枠が確認されている。DY33 は、旧河川跡に設置された井戸跡で、長径 1.2m の円形の掘り方を河川の底面まで 1 m ほど下げ、さらに狭くして 60 ㎝幅で 70 ㎝掘り下げる二段掘の構造を示している。最深は 1.76m で、DY11 と同様に円形の曲物を井戸枠に設置していたものと考えている。残る DY 4 ・19・23 の 3 基の井戸に関しては、約 1 m 前後の素堀の井戸とみられるもので、平均の深さは 80 ㎝前後であった。

（3）土　壙「第 11 図・第 13 図・第 15 図」

ほぼ円形の 0.72m ～ 2.2m、深さ 6 ㎝～ 95 ㎝の穴で DY 1 ・17・24 ～ 26・28 ～ 32・34・35･37 の 13 基が存在する。井戸跡に隣接しながら、調査区の中央から西側にかけて検出された。何れも自然の堆積状況を示し、内部に焼土や炭化物を多量に含む以外の遺物は出土しない。廃棄物を焼却するための遺構とみる。

（4）溝状遺構「第 19 図・第 20 図・第 14 図版・第 15 図版」

調査区の南東側と東側から検出された溝跡で、氾濫層を掘り込んで構築している。いずれも中世期に属する遺構と想定している。前者の KY 2 は、調査区の G 8 ～ 19 － 10 ～ 12 の範囲から検出されたものであり、幅 90 ㎝～ 144 ㎝、深 29 ㎝～ 69 ㎝、現長は 21.6m であった。

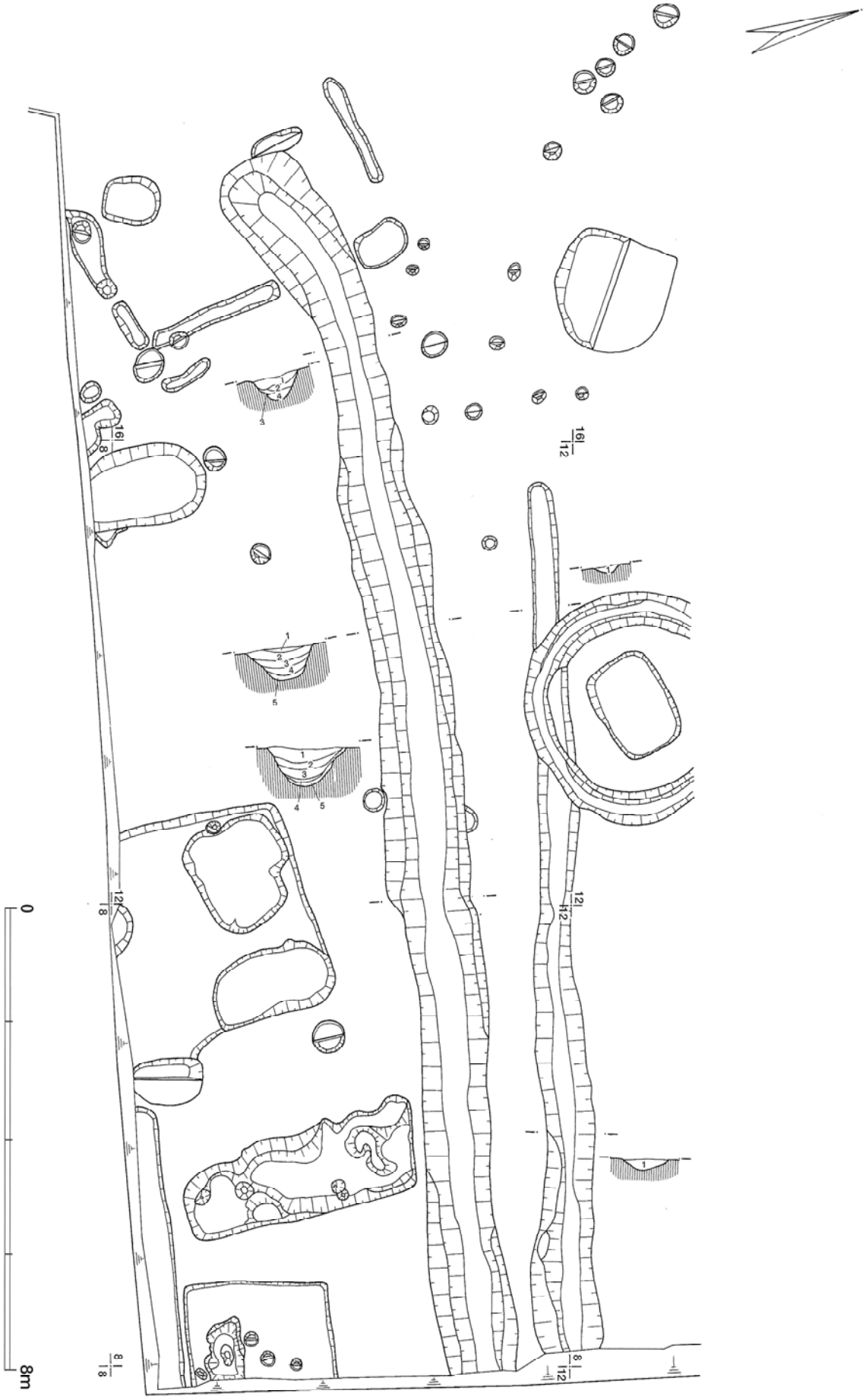
溝の形態は、底部にかけて極端に狭くなる薬研堀に近い形態が特徴で、西側の端が僅かに内傾して止まっている点より、中世期に属する館跡の虎口に相当するものと考えている。遺物は、奈良・平安期の磨滅した土師器片と中世の土堝片 4 点が検出されただけである。

一方、KY 2 の北側に併行して存在する KY 3 は、幅 36 ㎝～ 116 ㎝、深さ 6 ㎝～ 32 ㎝、現長で 12.64m をなす浅い溝跡である。先の KY 2 と同様に館跡に不随する遺構としておきたい。遺物は検出されなかった。

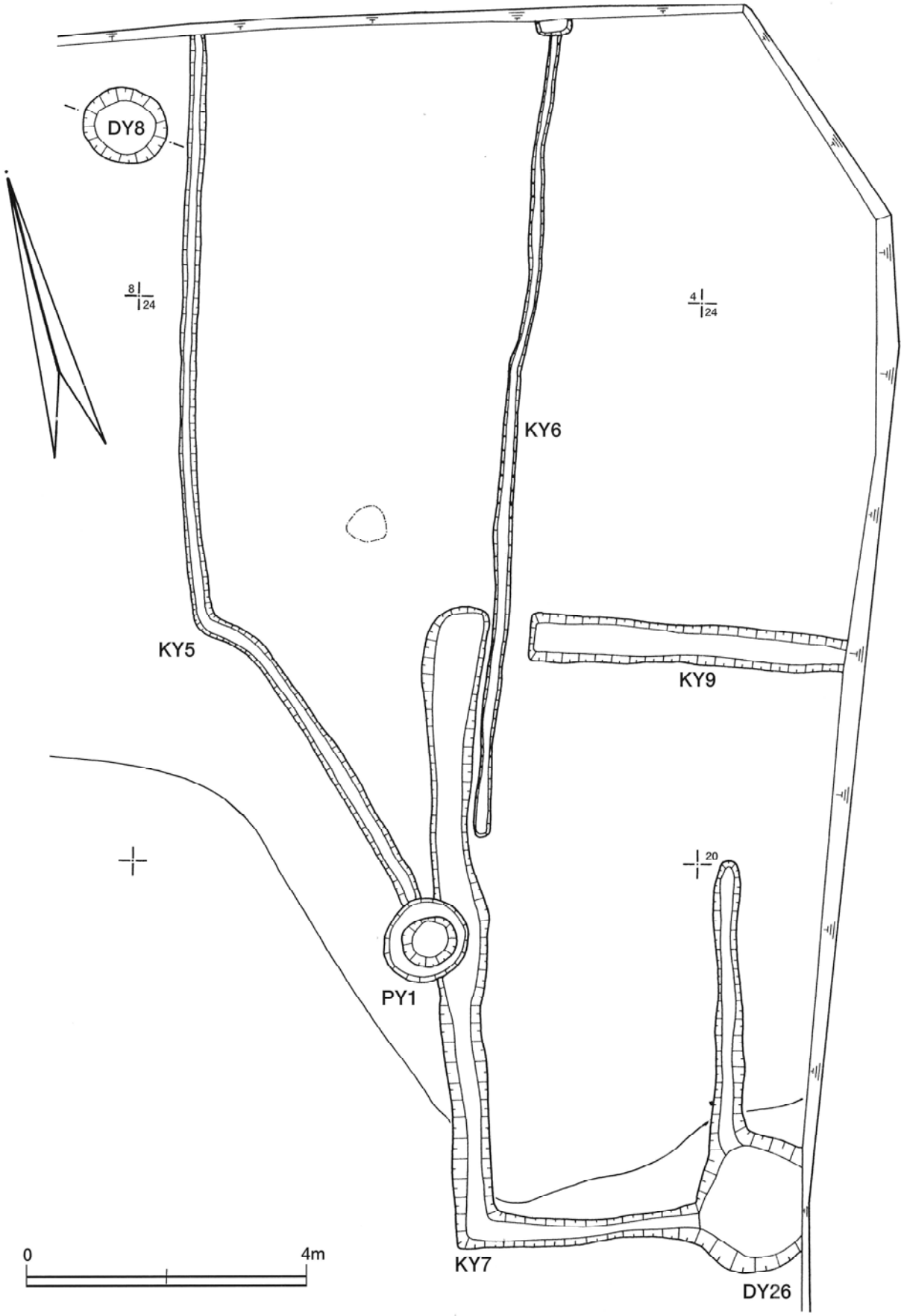
後者の浅い溝は、G 2 ～ 8 － 16 ～ 26 にかけて検出されたもので、幅 17 ㎝～ 23 ㎝前後、深さ 5 ㎝～ 16 ㎝､南北方向の細長い溝となる現長 11.64m を測る KY 6 。同じく南北方向の溝が「く」の字に曲がり PY 1 と接続する幅 18 ㎝～ 25 ㎝前後、深さ 9 ㎝～ 20 ㎝、現長が 13.28m を測る西側の KY 5 。幅 30 ㎝～ 86 ㎝、深さ 15 ㎝～ 24 ㎝、南北の辺が 9.05m で、南端から 90° に折れて浅い落ち込み DY26 に接続し、さらに北側に折れながら「コ」の字状に配置された延長 16.2m を測る KY 7 。先端が KY 7 に接続しながら東に延びる幅 43 ㎝～ 75 ㎝、深さ 10 ㎝～ 15 ㎝前後の現長 4.49m を測る KY 9 と 4 本の溝が検出されている。遺物は出土しなく、柱穴も認められないことから明確にできないが、方形に配している点を考慮すれば、何らかの建物跡に関係していた可能性もある。

4　検出された遺物

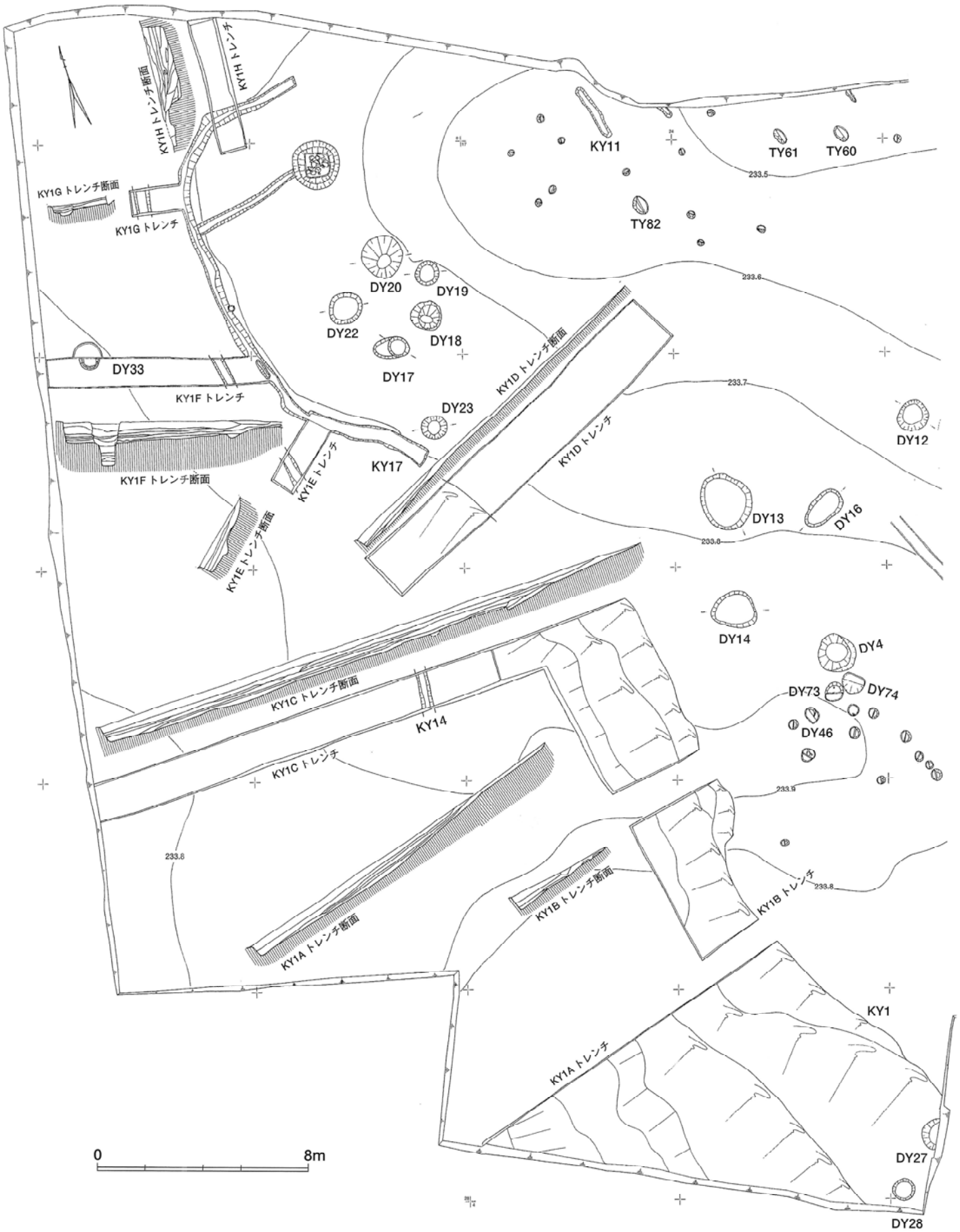
今回の大西遺跡から出土した遺物は、一括復元土器 49 点を含む 4,226 点であった。これらの遺物は、西側の河川を中心として、周溝墓や土壙等といった遺構内部からの検出が大半を占めている。時代的には、所謂「赤焼土器」を主体とした奈良・平安期を主体に、古墳時代の遺物と僅かに縄文時代の石器と中世の遺物が検出されている。



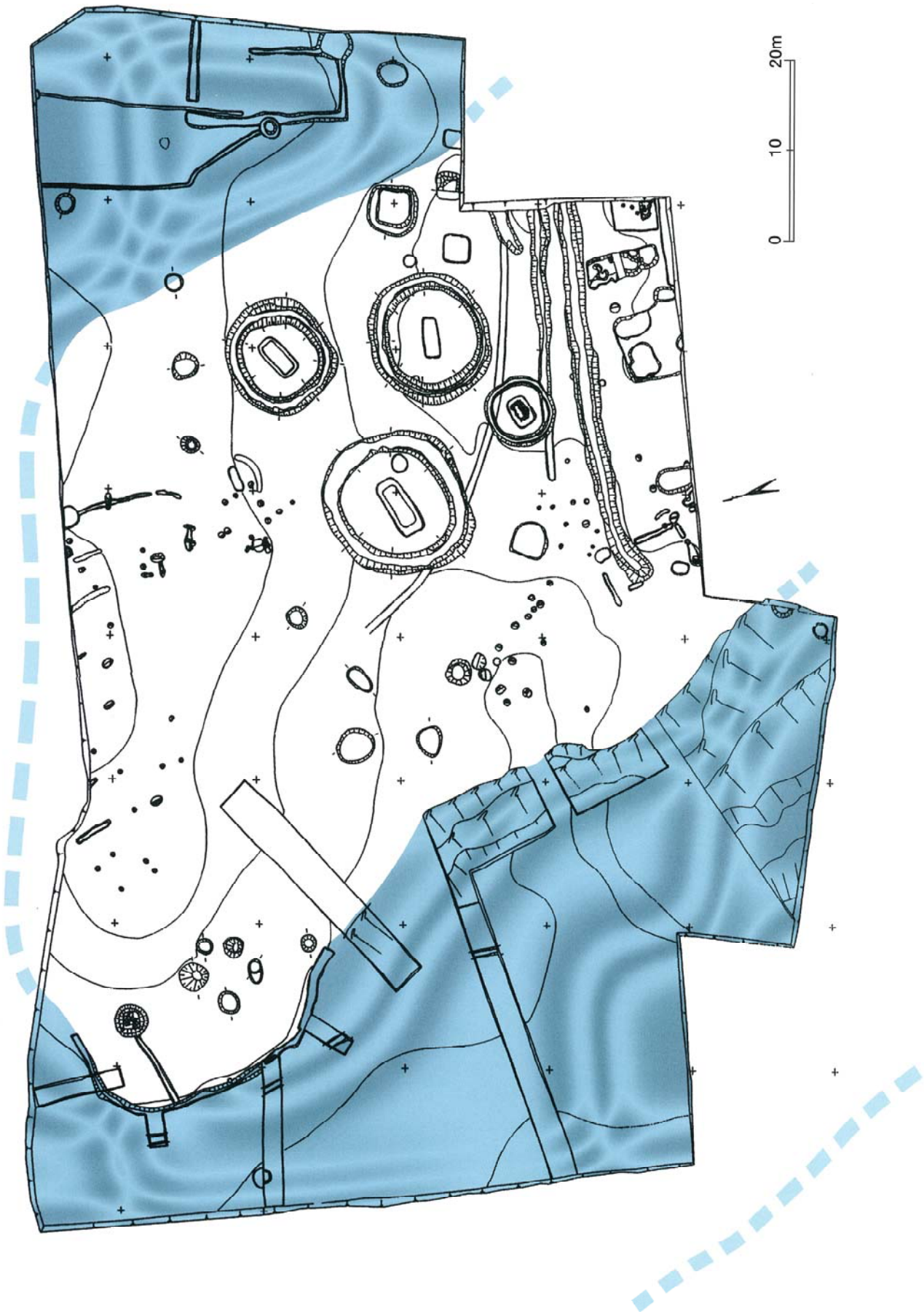
第 19 図　大西遺跡溝状遺構平面図（1）



第 20 図　大西遺跡溝状遺構平面図（2）



第 21 図　大西遺跡河川跡平面図



第 22 図　大西遺跡河川跡想定図

第１表　大西遺跡遺構分類計測表

単位 m

No.	遺構記号	遺構種別	調　査　区	長　径	短　径	深　さ	備　　考
1	MN 1	方形周溝墓	G11 ～ 14-18 ～ 21	6.5	5.8	0.37 ～ 0.4	
2	MN 2	円形周溝墓	G15 ～ 19-14 ～ 19	8.55	7.73	0.15 ～ 0.38	
3	MN 3	円形周溝墓	G10 ～ 14-14 ～ 17	7.22	6.55	0.33 ～ 0.44	
4	MN 4	方形周溝墓	G13 ～ 15-12 ～ 14	4.0	3.92	0.14 ～ 0.36	KY3 に切られる
5	MN 5	石組石棺	G9・10-13・14	(2.70)	6.4	0.17 ～ 0.18	
6	DY 1	土　　壙	G17・18-12・13	2.03	19.8	0.95	
7	DY 2	土　　壙	G18・19-8	1.24	0.3	0.05	TY92 に切られる
8	DY 3	土　　壙	G16-8・9	(1.98)	1.4	0.28	
9	DY 4	井　　戸	G9・10-13・14	0.42	1.38	0.98	
10	DY 5	井　　戸	G8・9-16・17	2.8	2.73	0.85	
11	DY 6	墓　　壙	G8-15	1.60	1.3	0.82	
12	DY 7	墓　　壙	G6・7-15	(1.01)	0.98	0.73	
13	DY 8	土　　壙	G11-22・23	1.03	1.03	0.32	
14	DY 9	墓　　壙	G8・9-25・26	1.22	1.06	0.5	
15	DY10	墓　　壙	G13-22・23	1.7	1.42	0.5	
16	DY11	井　　戸	G15・16-22・23	1.1	0.88	0.7	
17	DY12	土　　壙	G20-19・20	1.2	1.1	0.22	
18	DY13	墓　　壙	G23・24-17・18	2.2	1.9	0.58	
19	DY14	土　　壙	G23・24-15・16	1.68	1.42	0.14	
20	DY15	土　　壙	G11-9	1.2	0.81	0.29	
21	DY16	土　　壙	G21・22-17・18	1.74	0.94	0.15	
22	DY17	土　　壙	G30-20・21	1.34	0.8	0.37	
23	DY18	墓　　壙	G29-21	1.2	1.1	0.69	
24	DY19	井　　戸	G29-22	0.94	0.94	0.95	
25	DY20	井　　戸	G30-22・23	1.64	1.54	1.01	
26	DY21	井　　戸	G31・32-24	1.92	1.76	0.87	
27	DY22	墓　　壙	G30・31-21・22	1.28	1.18	0.77	
28	DY23	井　　戸	G29-19	1.0	0.86	0.09	
29	DY24	土　　壙	G10-16	0.72	0.7	0.06	
30	DY25	土　　壙	G5-16・17	1.72	1.46	0.26	
31	DY26	土　　壙	G4・5-18・19	1.98	(1.44)	0.25	
32	DY27	井　　戸	G20-5・6	1.2	(0.6)	0.81	
33	DY28	墓　　壙	G20-4・5	0.88	0.88	0.45	
34	DY29	土　　壙	G17・18-25	1.24	(0.82)	0.15	
35	DY30	土　　壙	G16・17-21	1.44	0.54	0.11	
36	DY31	土　　壙	G11・12-9・10	2.2	1.14	0.3	
37	DY32	土　　壙	G12・13-9・10	1.81	1.38	0.23	
38	DY33	井　　戸	G35・36-20	1.2	0.6	1.75	
39	DY34	土　　壙	G9-9・10	(1.0)	(0.58)	0.17	
40	DY35	土　　壙	G19-10	(0.94)	0.34		KY2 に切られる
41	DY36	土　　壙	G18-11	0.96	0.68	0.09	

42	DY37	土　　壙	G10-9・10	0.94	0.8	0.25	
43	DY38	土　　壙	G18・19-8・9	1.0	0.78	0.04～0.05	
44	KY 1	河川跡	G20～27-4～16	30m 以上	—		
45	KY 2	堀	G8～19-9～12	(21.60)	0.9～1.44	0.29～0.69	
46	KY 3	堀	G9～16-12・13	(12.64)	0.36～1.16	0.06～0.32	
47	KY 4	溝	G17-23	1.44	0.18	0.03～0.07	
48	KY 5	溝	G7・8-20～26	13.28	0.18～0.25	0.09～0.2	
49	KY 6	溝	G5・6-21～26	11.64	0.17～0.23	0.05～0.16	
50	KY 7	溝	G4～7-18～22	16.12	0.3～0.86	0.14～0.24	
51	KY 8	溝	G17-23～25	4.2	0.2	0.04～0.09	
52	KY 9	溝	G4～6-22	(4.49)	0.43～0.75	0.1～0.15	
53	KY10	溝	G19・20-25・26	2.38	0.28	0.03～0.05	
54	KY11	溝	G26-25	2.2	0.36	0.07～0.09	
55	KY12	溝	G19・20-10・11	2.04	0.26	0.04～0.09	
56	KY13	溝	G17・18-9・10	2.42	0.32	0.03～0.48	
57	KY14	溝		(2.3)	0.4～0.58	0.08～0.34	
58	KY15	溝	G16・17-20・21	2.6	0.24	0.02	
59	KY16	溝	G32～34-23・24	4.2	0.3	0.08	
60	KY17	溝	G29～34-18～25	21.0	0.3	0.04～0.2	
61	KY18	溝	G17-9	0.98	0.2	0.07	
62	KY19	溝	G17・18-8・9	0.94	0.31	0.02～0.04	
63	KY20	溝	G18-25・26	1.68	0.2	0.02～0.04	
64	TY 1	柱　　穴	G20-13	0.44	0.42	0.21	
65	TY 2	柱　　穴	G20-13	0.38	0.36	0.21	
67	TY 3	不明ピット	G18-26	0.34	0.3	0.23	
68	TY 4	柱　　穴	G18-26	0.66	(0.36)	0.36	
69	TY 5	柱　　穴	G19-25	0.38	0.28	0.33	
70	TY 6	不明ピット	G18・19-23	0.8	0.5	0.22	TY27 を切られる
71	TY 7	不明ピット	G18-24	0.28	0.24	0.13	
72	TY 8	不明ピット	G17-21	0.34	0.34	0.3	
73	TY 9	柱　　穴	G17-21	0.26	0.26	0.14	
74	TY10	柱　　穴	G16-21	0.34	0.3	0.37	
75	TY11	不明ピット	G17-20	0.36	0.34	0.11	
76	TY12	柱　　穴	G17-20	0.34	0.34	0.22	
77	TY13	不明ピット	G17-20	0.36	0.28	0.12	
78	TY14	不明ピット	G17-19・20	0.24	0.22	0.07	
79	TY15	不明ピット	G18-21・22	0.38	0.34	0.12	
80	TY16	柱　　穴	G18-21	0.38	0.34	0.13	
81	TY17	柱　　穴	G18-21	0.22	0.16	0.06	TY18 に切られる
82	TY18	不明ピット	G18-21	0.24	0.2	0.12	TY17 を切られる
83	TY19	不明ピット	G18-21	0.28	0.28	0.23	

84	TY20	不明ピット	G16-8	(0.6)	(0.28)	0.02	DY3 に切られる
85	TY21	不明ピット	G18-21	0.24	0.24	0.2	
86	TY22	不明ピット	G18-20・21	0.68	(0.48)	0.17	TY24 に切られる
87	TY23	不明ピット	G18-20	0.2	(0.18)	0.09	TY24 に切られる
88	TY24	不明ピット	G18-20	0.46	0.4	0.07	TY22,23,25 を切られる
89	TY25	柱　穴	G18-20	0.3	0.28	0.05	TY24 に切られる
90	TY26	柱　穴	G19-23・24	0.68	0.2	0.28	
91	TY27	不明ピット	G18・19-23	0.88	0.22	0.23	TY6 に切られる
92	TY28	不明ピット	G20-13	0.32	0.3	0.15	
93	TY29	柱　穴	G20-13	0.44	0.4	0.42	
94	TY30	柱　穴	G19・20-13	0.4	0.36	0.11	
95	TY31	柱　穴	G19-12	0.36	0.29	0.22	
96	TY32	不明ピット	G18-12	0.28	0.22	0.04	
97	TY33	不明ピット	G18-11	0.24	0.19	0.06	
98	TY34	不明ピット	G18-11	0.22	0.18	0.15	
99	TY35	不明ピット	G17・18-11	0.28	0.22	0.09	
100	TY36	不明ピット	G17-11	0.48	0.4	0.21	
101	TY37	不明ピット	G17-13	0.24	0.21	0.2	
102	TY38	不明ピット	G17-12	0.26	0.2	0.1	
103	TY39	不明ピット	G17-12	0.28	0.24	0.14	
104	TY40	不明ピット	G17-12	0.3	0.26	0.22	
105	TY41	不明ピット	G17-11	0.31	0.29	0.07	
106	TY42	柱　穴	G10-10	0.19	0.14	0.37	TY43 に切られる
107	TY43	柱　穴	G10-10	0.26	0.23	0.42	TY42 を切られる
108	TY44	柱　穴	G22・23-11	0.34	0.28	0.08	
109	TY45	柱　穴	G22-14	0.4	0.38	0.27	
110	TY46	柱　穴	G22-14	0.58	0.48	0.4	
111	TY47	不明ピット	G21-13・14	0.46	0.42	0.16	
112	TY48	不明ピット	G21-14	0.4	0.4	0.11	
113	TY49	不明ピット	G21-14	0.46	0.42	0.24	
114	TY50	不明ピット	G22-13	0.54	0.5	0.12	
115	TY51	柱　穴	G18-22	0.28	0.28	0.13	
116	TY52	不明ピット	G18-22	0.28	0.28	0.21	
117	TY53	柱　穴	G19-24	0.36	0.3	0.25	
118	TY54	不明ピット	G19-25	0.26	0.24	0.03	
119	TY55	不明ピット	G20-25	0.34	0.28	0.03	
120	TY56	柱　穴	G27-24・25	0.28	0.28	0.39	
121	TY57	不明ピット	G24-23	0.34	0.3	0.09	
123	TY58	柱　穴	G24-23	0.28	0.24	0.27	
124	TY59	柱　穴	G9-9	0.36	0.2	0.34	
125	TY60	柱　穴	G21-25	0.7	0.44	0.35	

126	TY61	柱　穴	G22・23-24・25	0.68	0.34	0.34	
127	TY62	柱　穴	G24-25	0.3	0.28	0.19	
128	TY63	柱　穴	G24-24	0.3	0.26	0.22	
130	TY64	柱　穴	G25-24	0.3	0.26	0.17	
131	TY65	不明ピット	G8-9	0.22	0.18	0.06	
132	TY66	不明ピット	G17-9	0.63	0.47	0.2	
133	TY67	柱　穴	G27-24	0.34	0.28	0.28	
134	TY68	柱　穴	G27-23	0.28	0.26	0.22	
135	TY69	不明ピット	G27・28-24	0.28	0.28	0.16	
136	TY70	柱　穴	G27-25	0.32	0.3	0.29	
137	TY71	不明ピット	G23-23	0.34	0.26	0.07	
138	TY72	柱　穴	G18-22	0.3	0.24	0.49	
139	TY73	不明ピット	G21・22-14	0.7	0.7	0.15	
140	TY74	不明ピット	G21-14・15	0.9	0.74	0.15	
141	TY75	不明ピット	G11-10	0.58	0.54	0.22	
142	TY76	不明ピット	G13-9	0.28	0.2	0.1	
143	TY77	不明ピット	G16-9	0.4	0.4	0.21	
144	TY78	柱　穴	G15・16-10	0.4	0.36	0.29	
145	TY79	不明ピット	G17-9	0.34	0.23	0.2	
146	TY80	不明ピット	G18-8	0.39	0.34	0.21	
147	TY81	不明ピット	G28-24	0.14	0.14	0.8	
148	TY82	不明ピット	G25-23	0.74	0.52	0.23	
149	TY83	柱　穴	G9-10	0.26	0.26	0.07	
150	TY84	不明ピット	G18-22	0.2	0.2	0.18	
151	TY85	柱　穴	G9-10	0.26	0.26	0.25	
152	TY86	柱　穴	G24・25-17	0.62	0.34	0.32	TY88を切られる
153	TY87	不明ピット	G8・9-10	0.24	0.2	0.18	
154	TY88	不明ピット	G17-25	0.32	0.28	0.15	TY86に切られる
155	TY89	不明ピット	G16-12	0.28	0.24	0.06	
156	TY90	不明ピット	G13-12	0.48	(0.19)	0.09	KY2に切られる
157	TY91	不明ピット	G13-11	0.42	0.38	0.06	
158	TY92	不明ピット	G18-8	0.36	0.32	0.19	DY2を切られる
159	TY93	不明ピット	G17-8	(0.46)	0.36	0.24	
160	TY94	不明ピット	G13-16	0.48	(0.24)	0.04	
161	TY95	不明ピット	G21-13	0.32	0.3	0.24	
162	PY 1	不明ピット	G6・7-20	1.26	1.16	0.34	
163	PY 2	不明ピット	G15・16-16・17	0.96	0.92	0.07	
164	PY 3	不明ピット	G12-8	0.96	(0.36)	0.12	
165	FY 1	不明遺構	G8～11-9	(4.88)	(0.42)	0.09	
166	FY 2	不明遺構	G8・9-9・10	2.52	(1.68)	0.09	
167	FY 3	不明遺構	G10・11-9～11	4.12	1.44	0.31	

遺物の出土内訳に関しては、第２表　大西遺跡出土古式土師器分類表・第３表　大西遺跡出土土器分類表を参照願いたい。

ここでは、出土した遺物について年代別に説明を加えることにしたい。

１．縄文時代の遺物

KY １の河川堆積層と奈良・平安期以降の確認面となる第Ⅲ層上層面や遺構内部に混入して認められたもので、剥片６点と石製品１点の計７点が出土している。

（１）出土石器「第 31 図・第 29 図版」

出土した石器は、何れも鬼面川流域から産出される珪質頁岩を石材としたものであり、１・２・５は縦長剥片。３・４は横長剥片。６は小さな母岩の先端に加工を加えて刃部とした石器である。１と２の剥片は、先端部から側面にかけて縁辺加工が加えられており、剥片石器として使用したと思われる。

また、河川跡の第Ⅴ層（黄灰褐色粘土層）出土の１～３の石器に関しては、全体的に磨滅を帯びていることで、上流の遺跡から運ばれてきたものと考えられる。７は、長さ 8.4 ㎝、厚さ 1.1 ㎝の円形状を示す砂岩製の両面を研磨し、中央に１㎝未満の凹を有している。

２．古墳時代の遺物

主に周溝墓からの検出で、他に DY ５・KY14・KY １の河川堆積の第Ⅴ層からも僅かに認められている。ここでは、土器を中心として説明を加える。

（１）出土土器

古墳時代の土師器を一括したもので、復元・一括土器８点を含む 138 点が出土している。この中で最も多く検出されたのが甕形土器の 100 点、次いで壺形土器の 14 点、坩の 13 点、高坏と器台の５点、埦１点となる。この中で図化できたのは 10 点で、器形より５形態に分類することが可能であった。これまでに米沢市から検出された古式土師器を参考に説明を加える。

・Ａ群Ⅰ類「第 23 図１・第 24 図１、２、４・第 19 図版・第 20 図版」

甕形土器を一括したもので、２点の復元土器と破片 98 点が認められている。器形の特徴から次の３類に分類した。

・Ａ群Ⅰａ類「23 図１」

比較的小さく厚みを帯びた底部が外側に突き出たような底部に卵形の胴部と真直ぐ立ち上がる口縁部を示す甕形土器である。調整は、外面をハケメ調整後にミガキを加えて消し、内面の一部にミガキを加えてからヘラナデを施したものである。同様な甕形土器としては、米沢市大清水遺跡・比丘尼平遺跡、白鷹町黒藤館から認められている。

・Ａ群Ⅰｂ類「24 図４」

胴部が球形に近く口縁部が「く」の字状に立ち上がるのを特徴とする。外面調整をミガキで整え、内面にヘラナデを用いるものであり、米沢市柿ノ木遺跡・ニタ俣Ａ遺跡などから同じタイプの甕形土器が検出されている。

・A群Ⅰｃ類「24図１、２」

厚みを帯びた口縁部が円弧を描くように外反する口縁部片である。調整は、内外面ともにハケメを施している。これらの甕形土器は、４世紀代でも比較的新しい要素を示すもので、大清水遺跡とニタ俣A遺跡から検出されている。本類とした底部片の24図２は、底部の形状からA群Ⅰａ類に近いものと考えられる。

・A群Ⅱ類「第24図３」

壷形土器を本類としたもので、図化した口縁部破片を含め14点がある。二重口縁を有する所謂「パレス型」の壷形土器に類似するもので、外面調整の縦位のミガキが一部認められる。同様な壷形土器は、南陽市浦生田２～４号墳、米沢市比丘尼平遺跡、大清水遺跡に類例がある。

・A群Ⅲ類「第23図２～３・第19図版」

器台を一括－したもので、３点の一括土器と破片２点の５点が認められ、全てが２号周溝墓からの検出となる。器台は、何れも無孔を有するもので、坏部を浅い皿状に仕上げ、口縁部に対して僅かな段を示すのが特徴といえる。脚部が極端に短く外側に直角に開いている。胎土は洗練された粘土に微細な石英を加え、表面を意図的に赤褐色の粘土を用いている。調整は、坏部の内外面に施された横位から斜位によるミガキを加え、脚部は外面を縦位のミガキによる調整を丹念に行い、内部を指ナデで仕上げている。

一見、新しい高坏に類似しているが、胎土や坏部の形態から古式土師器の仲間とするのが妥当といえる。ここでは、４世紀後半に位置するものとしておく。こうした無孔器台に関しては、会津板下町の杵ガ森古墳に近いものが検出している以外は、県内には類例がない。

・A群Ⅳ類「第23図５・第19図版」

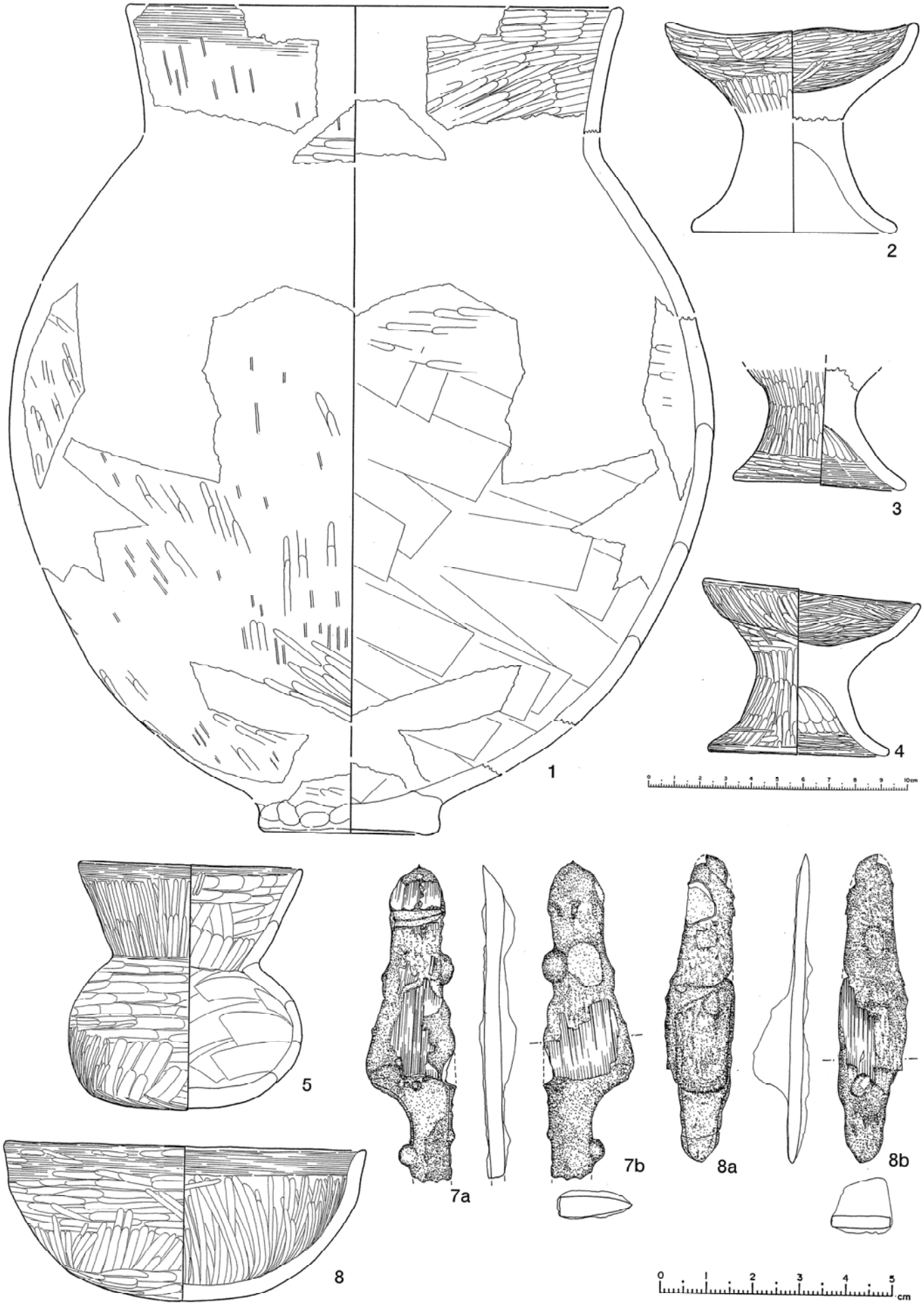
坩は小形のもので、口縁部から頸部が立ち上がってやや開き気味に外反し、胴部が丸みを帯びながら底部へと向うのを特徴とする。口縁部から頸部の調整は、表面を横位のナデを施してから縦位のミガキを丹念に加えている。内面は、横位を中心に頸部付近を縦位のヘラ調整とミガキで仕上げてある。胴部から底部の外面調整は、幅広のミガキを胴上部に下胴部から底部には縦位を主体としたミガキを加えた後に細かいミガキで仕上げている。内面調整は、ヘラ調整を底面から胴部へと斜めに施してある。同形態の坩に関しては、米沢市大清水遺跡・同ニタ俣A遺跡、高畠町地獄岩に出土例がある。

・A群Ⅴ類「第23図６・第19図版」

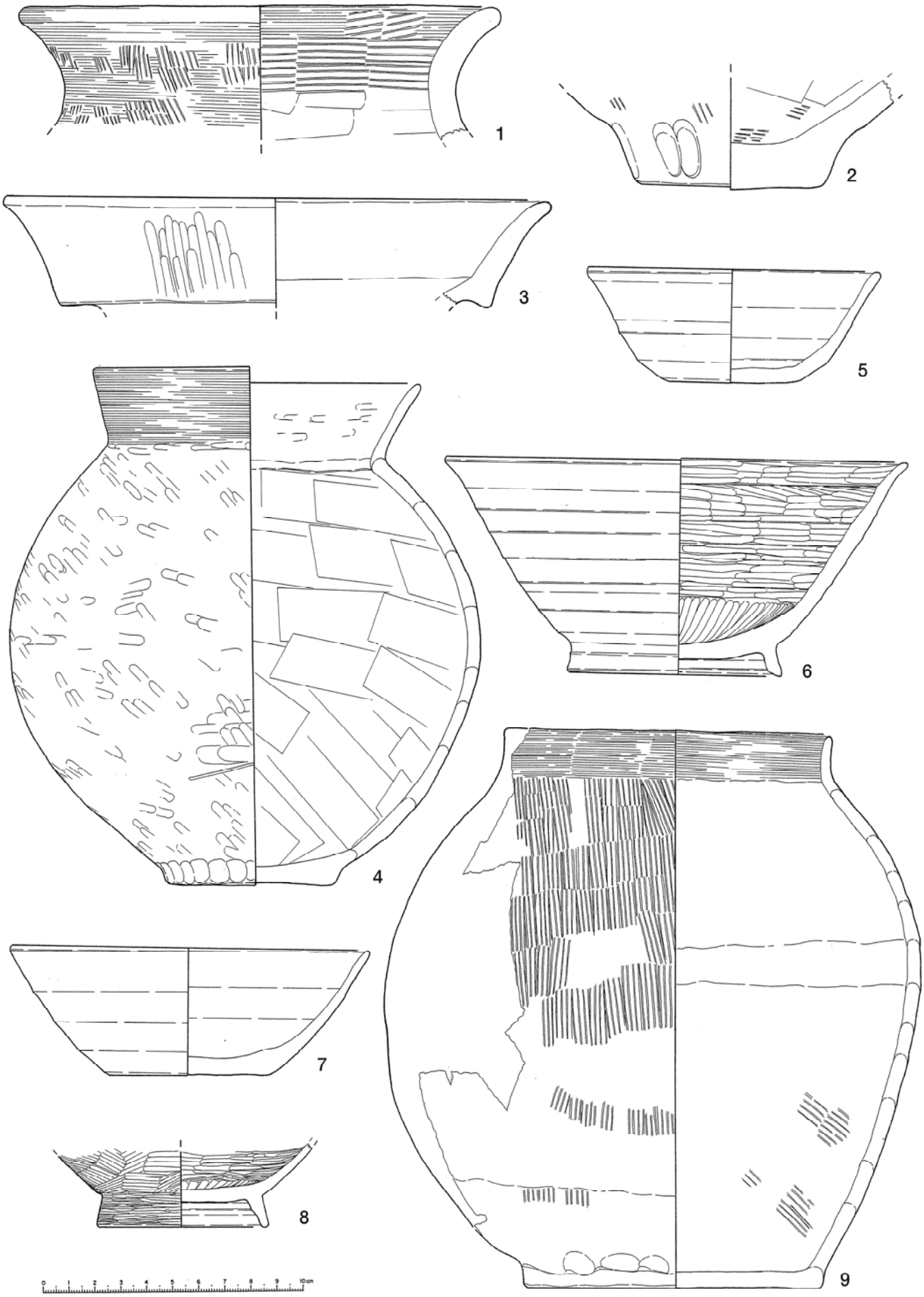
１号周溝墓の北側底面より出土した１点がある。球形状の底部が、口縁部付近で僅かに立ち上がる器形が特徴となる。調整は、外面が口縁部付近の横ナデから横位のミガキ、その上から底辺にかけた縦位から斜位のミガキを加え､最後に底面を横位のミガキで仕上げている。内面調整は、口縁部に対する横位のナデ、僅かに段を有する下方には底面から上部に向って放射状のミガキを連続している。

一見、南小泉式や引田式に近い形状に映るが、米沢市大清水遺跡・柿ノ木遺跡・ニタ俣A遺跡といった４世紀末から５世紀前半の土師器群にもこうした形態の埦が出現する例もある。

ことではあえて断定は控えるが５世紀代前半の年代を視野に入れておきたい。



第 23 図　大西遺跡出土遺物実測図（1）



第24図　大西遺跡出土遺物実測図（2）

（2）鉄製品「第23図7、8・第27図版」

4号周溝墓と1号周溝墓の主体部から各1点の鉄製品が副葬品として検出されている。先の鉄製品は、全長6.5㎝、最大幅1.5㎝、厚さ0.3㎝を測る丸歯の小形鑿とみられるもので、基部に木質が残っていた。後の1号周溝墓出土の鉄製品は、基部が僅かに欠損した刀子状を示もので、現長7.8㎝、最大幅1.9㎝、厚さ0.45㎝を測り、刃部に木質が残っている。

（3）臼玉・ガラス小玉「第27図版・第28図版」

4号周溝墓の主体部から検出された副葬品で、臼玉18点とガラス小玉6点がある。大半の玉類は、調査後の水洗いの際において確認されたものである。前者の臼玉は、緑色凝灰岩を材料に用いたもので、直径4.6㎜～5.2㎜、厚さ1.8㎜～3.1㎜、ほぼ中央に2㎜の穿孔を有している。周囲の研磨痕跡から判断すると、管玉状に加工した製品を輪切りに切断し、さらに両端を研磨して仕上げたものと考えられる。後者のガラス小玉は、深いコバルトブルーを呈したガラス製品で、直径2.1㎜～2.5㎜、厚さ1.2㎜～2.3㎜に約1.3㎜前後の穿孔がある。

3．奈良・平安の遺物

KY 1の旧河川内に堆積した第Ⅱ・Ⅲ層及び土壙・土器埋納遺構等の遺構を中心に検出されたもので、すべて土器類が占めている。

（1）出土土器

赤焼土器の2,405点を筆頭に、土師器類の1,425点、須恵器類183点の計4,013点が検出されている。ここでは、土師器類をB群土器、須恵器類をC群土器、赤焼土器をD群土器と大別し、器形に応じてそれぞれ細分する。赤焼土器に関しては、国指定史跡の古志田東遺跡出土の土器群に類似する土器が多く含まれていることで、古志田東遺跡（手塚　孝：2000）の土器と比較しながら説明を加えることにしたい。

・B群Ⅰ類「第24図9・第25図1・第20図版・第21図版」

土師器の甕形土器を一括したもので、赤焼土器に次ぐ1,074点が検出されているが、いずれも破片が多く復元できたのは、僅か2点であった。24図9は、楕円形の浅い落ち込みDY 3より出土したものである。木葉痕を施した大きな底部からゆるやかな円弧を描くように胴部を形成して頸部に向い、短い口縁部が垂直に立ち上がるのを特徴とする。調整は、内外面の口縁部を横位のナデ、胴上部を中心とした縦位のハケメを外面調整とし、内面にもわずかにハケメを施している。同様の形態を有する甕形土器の類例はないが、近いものとしては米沢市上新田A遺跡にある。

第25図1は、調査区の南壁面に沿って存在するDY 2内に一括して検出されたものである。所謂「バケツ」状の縦長甕形を有するもので、頸部から外に直角に開くのを特徴とする。調整は、細かいハケメを主体としたもので、外面を縦位に内面を横位に仕上げている。ただし、底部に近い下胴部にはハケメ調整を意図的に行っていない。こうした縦長の甕形土器は、8世紀中葉から末にかけて比較的多くみられ、米沢市大浦B遺跡・笹原遺跡・竹井境A遺跡・上新田A遺跡などが知られている。

・B群Ⅱ類「第24図5～8・第19図版・第20図版」

土師器の坏類を一括したもので、完形・復元土器4点を含む351点が出土している。土師器の内訳としては、内黒土師器坏が295点、内黒土師器高台坏が28点、両黒土師器坏が19点と内黒の坏類が圧倒的に多くみられる。図化した坏類を分類すると次の3類に分けられる。

・B群Ⅱa類「第24図5、7」

土師器内黒坏に分類されるもので、器高が高く外反気味の器形を特徴とする。古志田東遺跡のA群Ⅱ類や笹原遺跡のA群7類に比例する。概ね9世紀の前半～中葉期頃に求められる。

・B群Ⅱb類「第24図6」

大型の内黒高台坏を本類とした。やや斜めに付く高台から胴部にふくらみをもたせながら大きく外に開くように外反するのを特徴としている。古志田東遺跡のA群Ⅱa類に比例するもので、9世紀前半を代表する坏形態である。

・B群Ⅱc類「第24図8」

両黒の土師器坏である。高台が発達した小形坏の仲間とみられるが、下半分しか検出されていない。古志田東遺跡のB群Ⅱf類に比例すると考えている。

・C群Ⅰ類「第25図2～4・第26図1～3・第20図版・第21図版」

須恵器の坏類を一括したもので、完形・復元土器7点を含む90点が出土している。これらの坏は器形から次の3類に分けることができる。

・C群Ⅰa類「第25図2、3」

回転ヘラ切りを有する須恵器坏で、底部が広く斜めに口縁部に立ち上がり、全体的に器高が低いのを特徴とする。大浦B遺跡のB群4類ないしB群3類に比例し、大浦編年のⅡ期（8世紀中葉～後半）に併行するものとみられる。

・C群Ⅰb類「第25図4・第26図1」

口縁部が失っているが、器高の発達した坏類と推測される。前述のC群Ⅰa類と同様に、ヘラ切りの切り離しをもつ。大浦B遺跡のB群5類に比例するものであろう。大浦編年のⅡ期に併行すると考えている。

・C群Ⅰc類「第26図2、3」

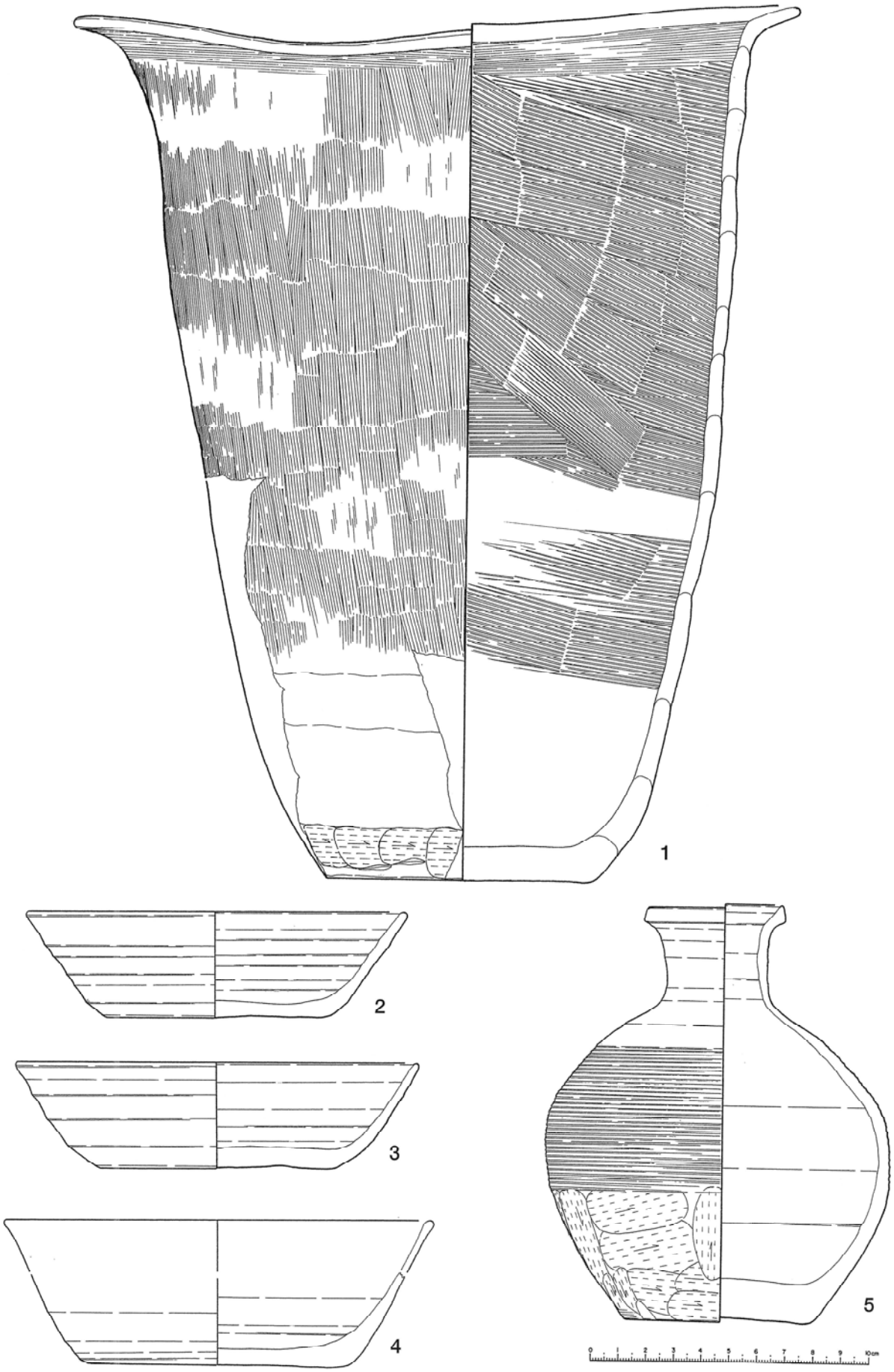
底部切り離しが糸切りを有する坏類で、比較的小さな底部からゆるやかな曲線を描きながら大きく外反するのを特徴とする。笹原遺跡のA群16・17類や大浦B遺跡のB群9類らに共通するもので、赤焼土器の模倣品となった製品とみている。大浦編年のⅤ期（9世紀中葉～後半）に併行するものであろう。

・C群Ⅱ類「第26図4」

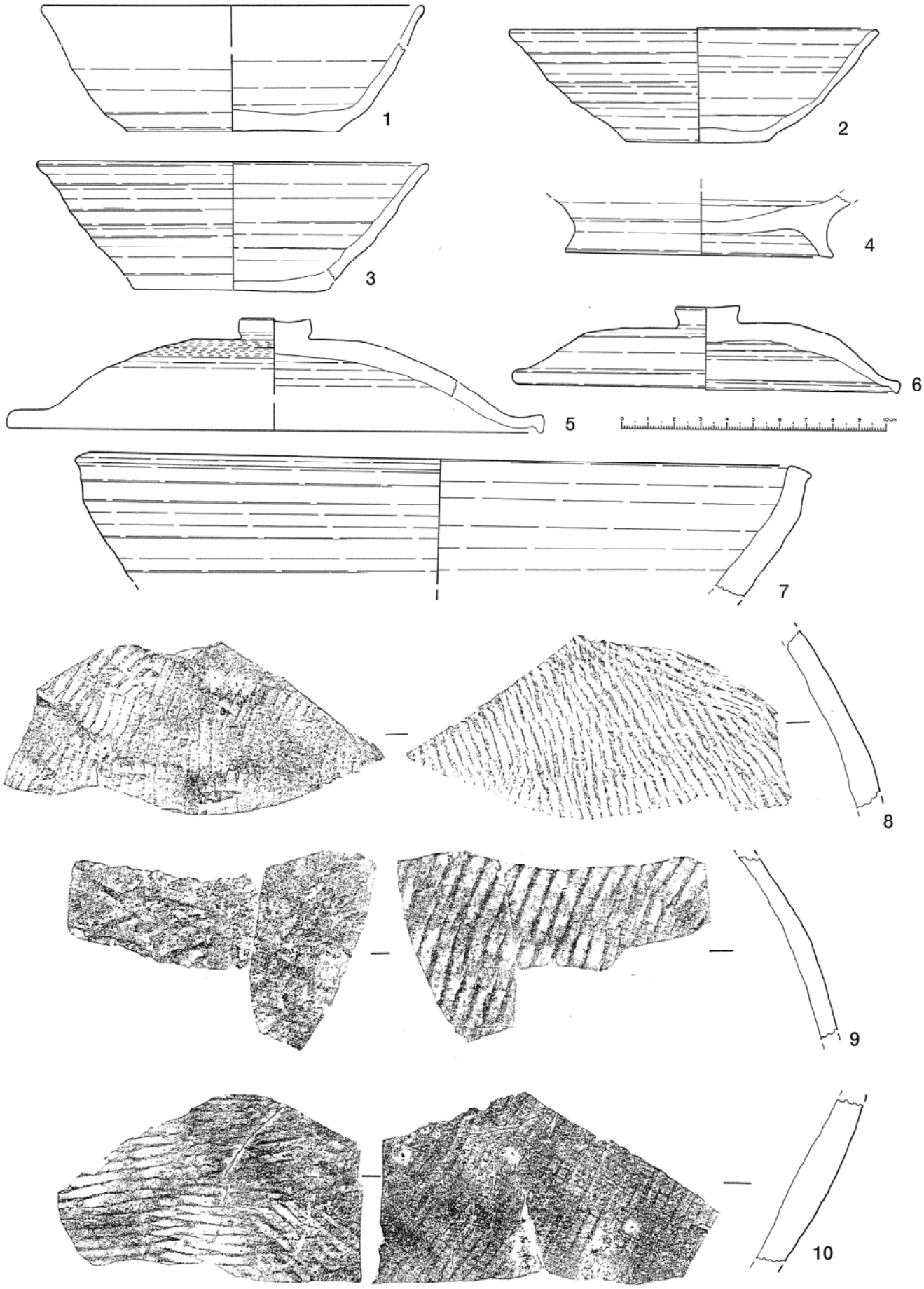
須恵器の高台坏1点が出土している。高台部分の破片であることから全体の形状は明確にできないが、外側に開く高台と底部に回転ヘラケズリ調整を加えている点などから、稜埦の可能性がある。8世紀後半の高台坏であろう。

・C群Ⅲ類「第26図5、6・第21図版」

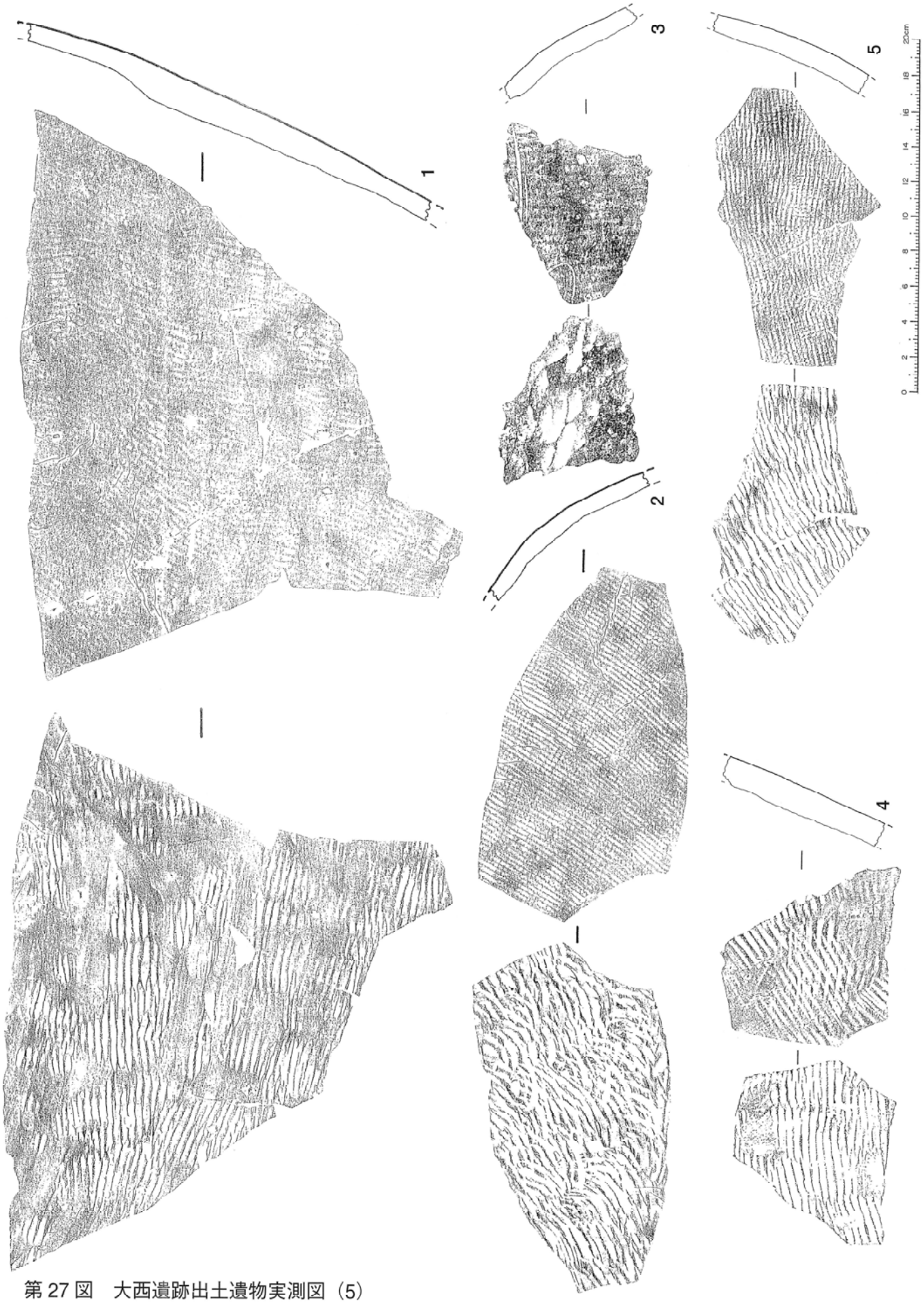
須恵器の蓋類を一括したもので、復元土器2点を含む16点が出土している。5は丸みを帯びた上部をヘラケズリで調整を行っているが、6は平坦となっている。



第 25 図　大西遺跡出土遺物実測図（3）



第 26 図　大西遺跡出土遺物実測図（4）



第 27 図　大西遺跡出土遺物実測図（5）

・C群Ⅳ類「第25図5・第21図版」

須恵器の壷類を一括したもので、完形土器1点を含む8点が出土している。土器埋納遺構から一括して検出された短頸須恵器壷の第25図5は、球形の胴部上半部をカキメ調整、下半部を手持ちヘラケズリで仕上げている。この時期には類例が少ない器形である。

・C群Ⅴ類「第26図7・第21図版」

須恵器の堝形土器を一括したもので、口縁部片1点が検出されている。

・C群Ⅵ類「第26図8～9・第27図1～5・第28図1、2・第22図版」

須恵器の甕類を一括したもので、何れも破片で71点が出土している。

・D群Ⅰ類土器

赤焼土器の坏類を一括したもので、復元・一括土器20点を含む2,371点が出土している。形状から次の6類に細別した。

・D群Ⅰa類「第28図11～14・第23図版・第24図版」

口縁部が幾分外反し、下胴部にふくらみを保ちながら斜めに口縁部に向かう器形を本類としたもので4点を図化した。平均口径は13㎝を測り、古志田東遺跡出土の坏類では最も多く出土しているD群Ⅰd類に分類した坏類に比例する。

・D群Ⅰb類「第28図3、4、9・第29図1～8・第23図版～第25図版」

須恵器坏を模倣した赤焼土器の坏の一種で、他の坏類に比べると底部が広いといった特徴を示している。器形としては、低い器高から緩やかにふくらむ胴部が口縁部で僅かに外反するといった形状となっている。今回復元された中で最も多い11点が検出されている。古志田東遺跡のD群Ⅰf類と分類した坏類に比例する。

・D群Ⅰc類「第28図10・第23図版」

胴上部でふくらみ、口縁部で内反するような埦形の器形が特徴となる。1点が認められた。古志田東遺跡のD群Ⅰg類と分類した坏類に比例する。

・D群Ⅰd類「第29図9、10・第23図版」

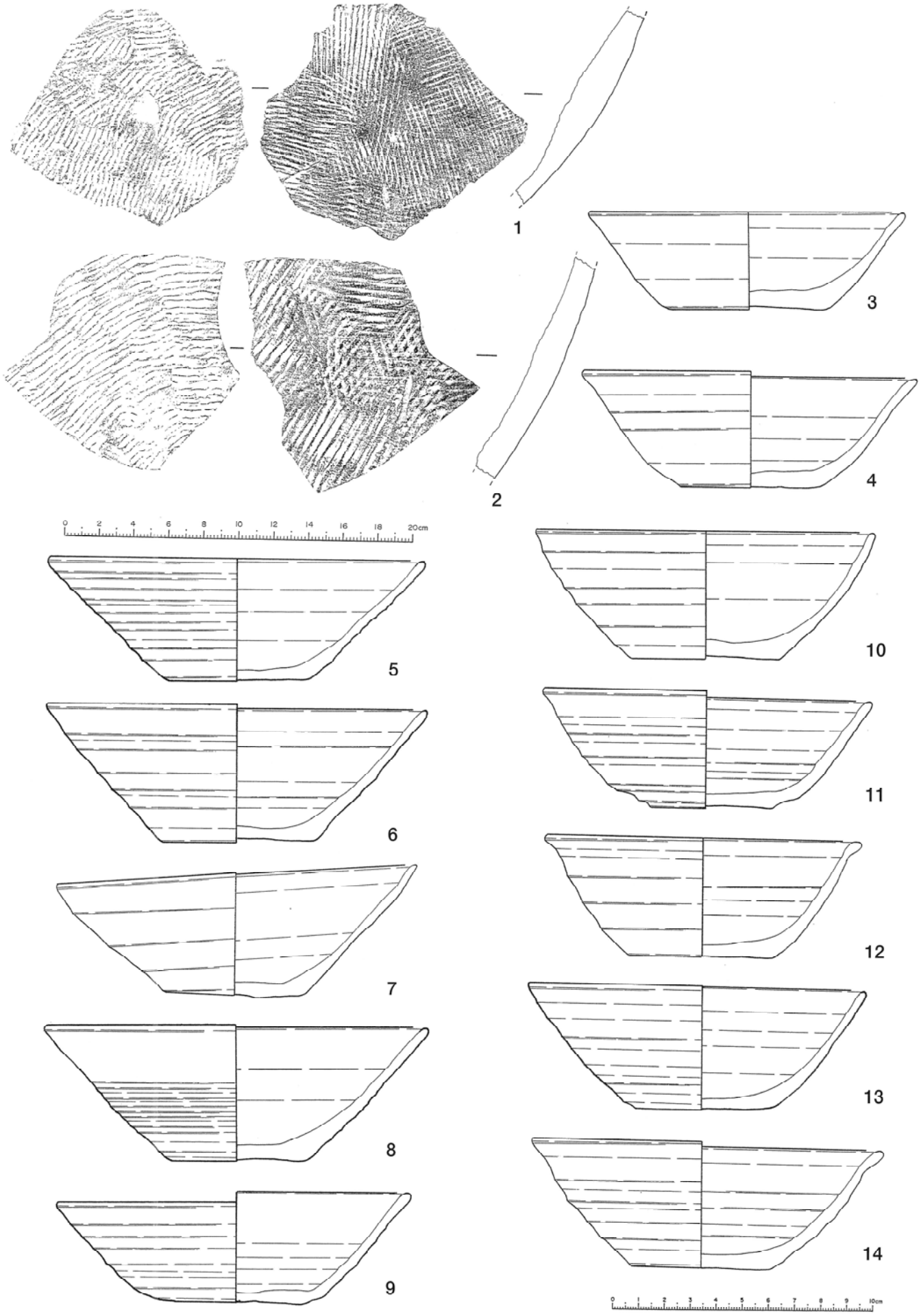
底部から全体に曲線を保ちながら立ち上り、口縁部で外に開き気味に外反するのが特徴となる。2点存在し、古志田東遺跡のD群Ⅰh類と分類した坏類に比例するが、古志田東遺跡の場合には、底部切離しの後に手持ヘラケズリ調整を加えたものが多い。

・D群Ⅰe類「第28図5～8・第23図版」

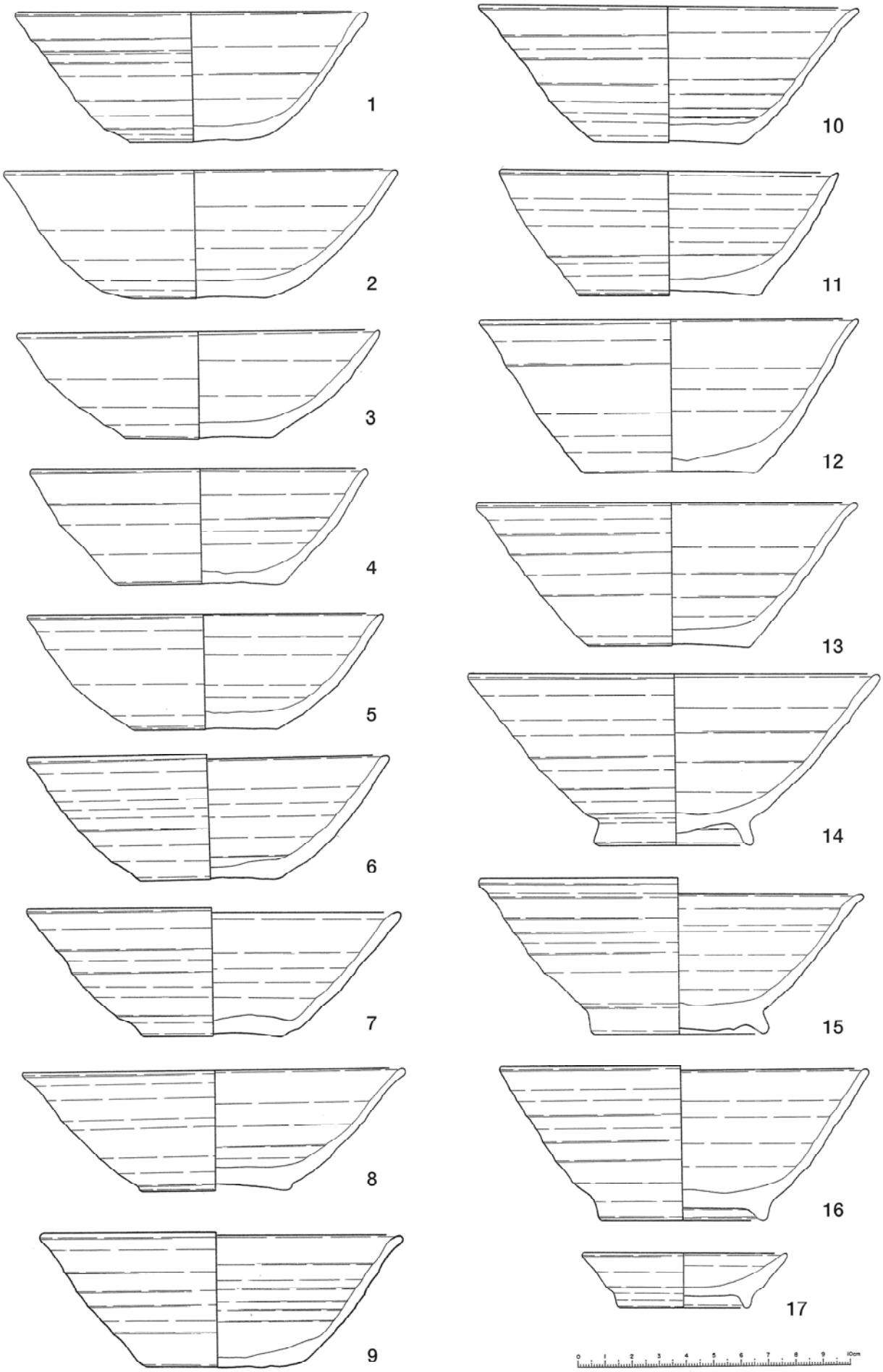
底部から大きく斜めに開くように口縁部に立ち上がる器形が特徴となる。復元した4点を図化した。古志田東遺跡のD群Ⅰk類と分類した坏類に比例する。注目されるのは、第28図の5と8の坏である。両者の内外面には、樹液塗付を施した痕跡が認められるもので、古志田東遺跡以外としては初めての確認となる。

・D群Ⅰf類「第29図11～13・第25図版」

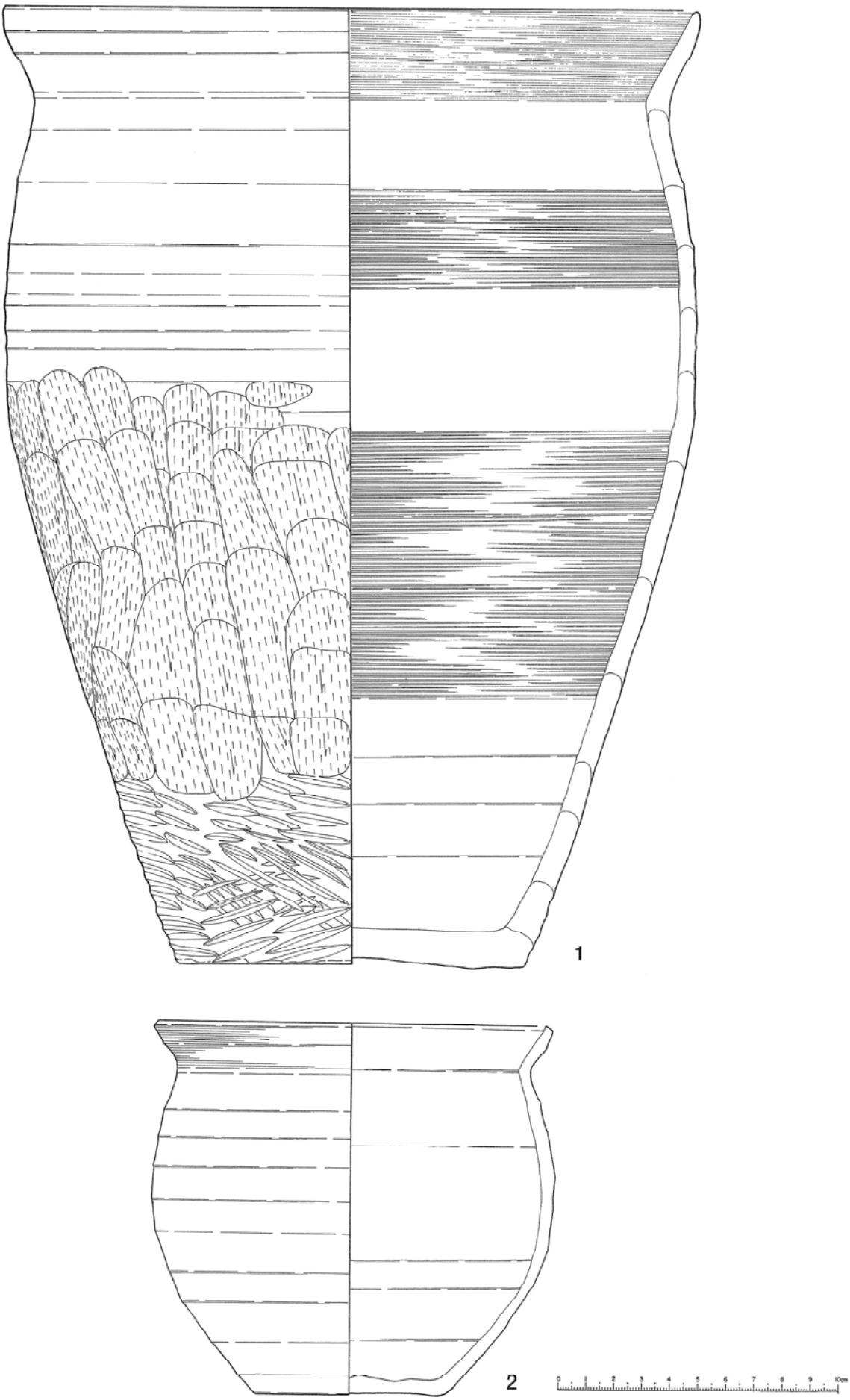
器高が高く、弧状の胴部を特徴としている。3点全てを図化した。古志田東遺跡のD群Ⅰn類と分類した坏類に比例する。



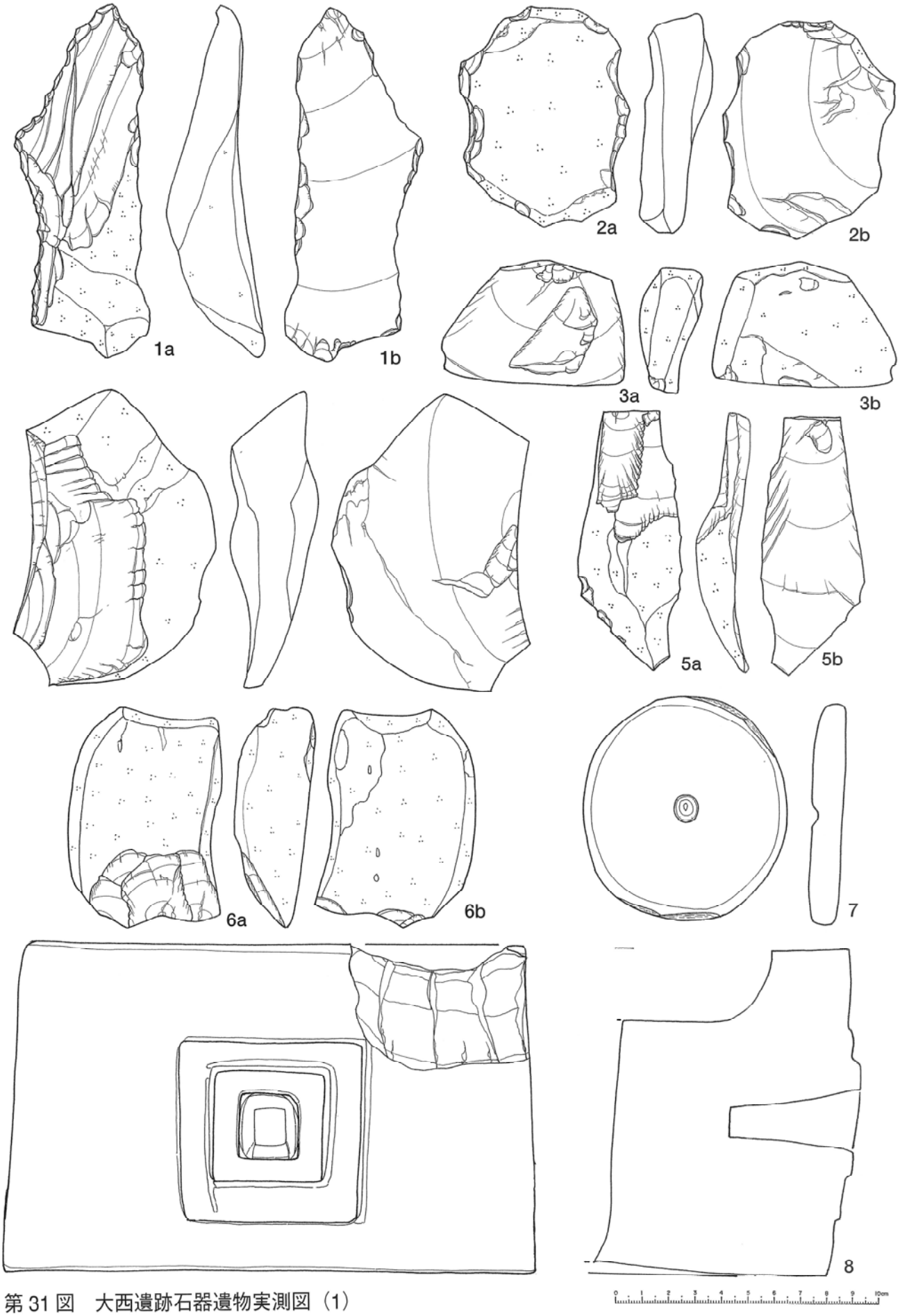
第 28 図　大西遺跡出土遺物実測図（6）



第 29 図　大西遺跡出土遺物実測図（7）



第 30 図　大西遺跡出土遺物実測図（8）



第 31 図　大西遺跡石器遺物実測図（1）

第２表　大西遺跡出土古式土師器分類表

出土地区	器　　種	完形土器	口縁部片	胴部片	脚部片	底部片	計
MN 1	土師器甕			2			2
	土師器椀	1					1
	小　計	1		2			3
MN 2	土師器器台	2			1		3
	土師器甕	1		12			13
	土師器壺			13			13
	土師器坩	1		1			2
	小　計	4		26	1		31
MN 3	土師器坩			5			5
	小　計			5			5
MN 4	土師器甕			4			4
	小　計			4			4
DY 2	土師器甕			1			1
	小　計			1			1
DY 5	土師器甕		1			1	2
	小　計		1			1	2
KY1-A	土師器高坏				1		1
	土師器甕		2	29			31
	小　計		2	29	1		32
KY1-C	土師器甕			1			1
	小　計			1			1
KY1-D	土師器高坏				1		1
	土師器甕			2			2
	小　計			2	1		3
KY2-D	土師器甕			1			1
	小　計			1			1
G16-12	土師器甕			9			9
	小　計			9			9
G16-16	土師器高坏				2		2
	土師器甕		1	8			9
	土師器坩					1	1
	小　計		1	8	2	1	12
G20-16	土師器器台					1	1
	土師器高坏					1	1
	土師器甕				8		8
	小　計				8	2	10
G16-20	土師器甕			1			1
	小　計			1			1

G20-20	土師器坩					1	1
	小計					1	1
G24-24	土師器甕			3			3
	土師器壺		1				1
	小計		1	3			4
G28-20	土師器甕					1	1
	小計					1	1
G28-28	土師器坩			3		1	4
	小計			3		1	4
G34-20	土師器甕		3	7			10
	小計		3	7			10
表採	土師器器台				1		1
	土師器甕			2			2
	小計			2	1		3
合計		5	8	104	13	8	138

第3表　大西遺跡出土土器分類表

出土地区	器種	完形土器	口縁部片	胴部片	脚部片	底部片	計
DY 1	赤焼土器坏			2 (2)		(2)	2
	陶磁器類			1			1
	小計			3		(2)	3
DY 2	土師器甕形土器	1		57			58
	赤焼土器坏		2	1			3
	小計	1	2	58			61
DY 3	土師器内黒坏		4	7			11
	土師器甕形土器	1	8	66	4		79
	須恵器坏		3	2	2		7
	須恵器甕形土器			1			1
	赤焼土器坏		2 (1)	4 (2)		(3)	6
	小計	1	17	80	6	(3)	104
DY 4	陶磁器類			2			2
	小計			2			2
DY 5	土師器甕形土器			2			2
	須恵器坏		1				1
	陶磁器類			2			2
	小計		1	4			5
DY 6	土師器甕形土器			1			1
	小計			1			1
DY10	土師器甕形土器			1			1
	小計			1			1
DY11	赤焼土器坏		1	1			2
	小計		1	1			2

DY12	土師器甕形土器			1			1
	須恵器坏	1					1
	赤焼土器坏			1			1
	小計	1		2			3
DY13	土師器甕形土器		1	1			2
	小計		1	1			2
DY15	土師器内黒高台坏			7	4		11
	土師器甕形土器				3		3
	須恵器坏		2				2
	赤焼土器坏	1	11 (1)	15	4 (1)	(2)	31
	小計	1	13	22	11	(2)	47
DY19	赤焼土器坏				1		1
	小計				1		1
DY27	土師器甕形土器				1		1
	赤焼土器坏			1			1
	小計			1	1		2
DY31	土師器甕形土器			1			1
	赤焼土器坏			10			10
	小計			11			11
DY33	土師器甕形土器		2	6			8
	小計		2	6			8
DY34	土師器甕形土器		1	1			2
	小計		1	1			2
DY38	土師器内黒坏	1					1
	土師器甕形土器		6	50	1		57
	須恵器坏		2		1		3
	陶磁器類				1		1
	小計	1	8	50	3		62
TY 1	赤焼土器坏		2		1 (1)	(1)	3
	小計		2		1	(1)	3
TY16	赤焼土器坏		1	1	1		3
	小計		1	1	1		3
TY22	赤焼土器坏	3 (1)				(1)	3
	須恵器坏	1					1
	小計	4				(1)	4
TY24	須恵器短頸壺	1					1
	赤焼土器坏	5 (2)	9	5	2	(2)	21
	赤焼土器高台坏	1					1
	小計	7	9	5	2	(2)	23
TY26	須恵器甕形土器		1				1
	小計		1				1

TY49	赤焼土器坏		2	1			3
	小計		2	1			3
TY50	須恵器甕形土器		1				1
	赤焼土器坏		5	3			8
	小計		6	3			9
PY 1	陶磁器類		1				1
	小計		1				1
FY 1	土師器内黒坏			1			1
	土師器甕形土器			4			4
	赤焼土器坏		1	1			2
	赤焼土器高台坏	1					1
	小計	1	1	6			8
FY 3	土師器内黒坏		5	5	1		11
	土師器甕形土器		10	65	4		79
	須恵器坏		12	8	2		22
	須恵器甕形土器			2			2
	須恵器壺形土器			1			1
	赤焼土器坏		58 (2)	137 (5)	21 (4)	(11)	216
	赤焼土器高台坏				2		2
	小計		85	218	30	(11)	333
KY1- A	土師器内黒坏	1	42	134	27		204
	土師器内黒高台坏	1			7		8
	土師器両黒坏		6	4	6		16
	土師器甕形土器		14	200	9		223
	須恵器坏		6	4	2		12
	須恵器甕形土器			6	1		7
	須恵器壺形土器				1		1
	赤焼土器坏	8	277 (1)	607 (14)	76 (13)	(28)	968
	赤焼土器高台坏				10		10
	中世土堝		1				1
	陶磁器類				1		1
	小計	10	346	955	140	(28)	1,451
KY1-B	土師器内黒坏		4	2	2		8
	須恵器甕		7	42	2		51
	赤焼土器坏		19	32	10 (8)		61
	陶磁器類			2			2
	小計		30	78	14	(8)	122
KY1-C	土師器内黒坏		2	10	5		17
	土師器甕形土器		3	9	2		14
	須恵器坏		2		1		3
	須恵器蓋		1	1			2

KY1-C	赤焼土器坏	1	10 (3)	56 (5)	13	(8)	80
	赤焼土器高台坏				8		8
	小計	1	18	76	29	(8)	124
KY1-D	土師器内黒坏			5	1		6
	土師器甕形土器		2	19	2		23
	須恵器坏				1		1
	赤焼土器坏		11	34	7		52
	小計		13	58	11		82
KY1-E	土師器甕形土器			16			16
	須恵器坏				1		1
	須恵器蓋			2			2
	小計			18	1		19
KY2- A	土師器甕形土器			2	1		3
	赤焼土器坏	1	4	9	5		19
	陶磁器類			1			1
	小計	1	4	12	6		23
KY2-B	土師器甕形土器		2	4	1		7
	土師器器台			1			1
	須恵器坏				1		1
	須恵器甕形土器			1			1
	赤焼土器坏		1	11	4		16
	小計		3	17	6		26
KY2-C	土師器内黒坏			1			1
	土師器内黒高台坏			1			1
	土師器甕形土器		3	45	7		55
	赤焼土器坏		6	26	3		35
	中世土堝			35			35
	小計		9	108	10		127
KY2-D	土師器甕形土器			6			6
	赤焼土器坏		2	16			18
	小計		2	22			24
KY3- A	土師器甕形土器			3			3
	須恵器坏			6			6
	小計			9			9
KY 4	土師器甕形土器			7			7
	小計			7			7
KY 6	土師器甕形土器			1			1
	小計			1			1
KY 7	土師器甕形土器			1			1
	小計			1			1
KY 8	須恵器甕形土器				1		1

KY 8	小　　計				1		1
KY 9	土師器内黒坏				1		1
	小　　計				1		1
KY11	土師器甕形土器			2			2
	小　　計			2			2
G 4－20	土師器甕形土器				1		1
	赤焼土器坏			1			1
	陶磁器類				1		1
	素焼火箱	1					1
	小　　計	1		1	2		4
G12-12	土師器内黒坏		2				2
	土師器甕形土器			4	1		5
	赤焼土器坏		5	13 (1)	1	(1)	19
	赤焼土器高台坏			1	5		6
	陶磁器類			1			1
	小　　計		7	19	7	(1)	33
G12-16	須恵器坏		1				1
	赤焼土器坏		1				1
	小　　計		2				2
G12-20	土師器内黒坏			2	1		3
	土師器甕形土器		8	65	9		
	須恵器坏	1			3		4
	須恵器蓋	1	2				3
	赤焼土器坏	1	11 (1)	37	16 (2)	(3)	65
	小　　計	3	21	104	29	(3)	157
G16-12	土師器内黒坏			3			3
	土師器内黒高台坏				1		1
	土師器甕形土器		1	17			18
	須恵器蓋		2	3			5
	赤焼土器坏		6 (1)	21 (5)	3	(6)	30
	赤焼土器高台坏				1		1
	陶磁器類			1			1
	小　　計		9	45	5	(6)	59
G16-16	土師器内黒坏			3	2		5
	土師器内黒高台坏				1		1
	土師器両黒坏				1		1
	土師器甕形土器			17	1		18
	須恵器坏		4		1		5
	須恵器甕形土器			2			2
	赤焼土器坏	1	19 (2)	58 (12)	16 (3)	(17)	94
	赤焼土器高台坏				1		1

G16-16	陶磁器類			1	2		3
	小計	1	23	81	25	(17)	130
G16-20	土師器両黒高台坏				1		1
	土師器甕形土器		2	11	1		14
	須恵器坏		1	1	2		4
	須恵器蓋		2				2
	赤焼土器坏		18	51	14		83
	赤焼土器高台	1					1
	小計	1	23	63	18		105
G16-24	土師器甕形土器			1			1
	小計			1			1
G20-12	土師器甕形土器		2	13	1		16
	小計		2	13	1		16
G20-16	土師器内黒坏		7	10	2		19
	土師器両黒坏				1		1
	土師器甕形土器		3	130	7		140
	須恵器坏				1		1
	須恵器蓋		1				1
	須恵器甕形土器				1		1
	赤焼土器坏	1	43 (3)	151	6 (1)	(4)	201
	赤焼土器高台坏				1		1
	小計	1	54	291	19	(4)	365
G20-20	赤焼土器坏		20 (2)	8 (7)	16	(9)	44
	須恵器坏	1					1
	小計	1	20	8	16	(9)	45
G20-24	赤焼土器坏	1	7 (2)	22 (1)	6	(3)	36
	小計	1	7	22	6	(3)	36
G24 - 20	土師器甕形土器			15			15
	赤焼土器坏			1			1
	小計			16			16
G24 - 8	土師器内黒坏	1		2			3
	土師器甕形土器		1	5	5		11
	須恵器壺形土器			1	1		2
	須恵器高台				1		1
	赤焼土器坏	2					2
	小計	3	1	8	7		19
G24 - 16	土師器内黒坏		3	2			5
	土師器甕形土器		2	39	5		46
	須恵器甕形土器			3			3
	赤焼土器坏	2	35 (2)	75 (3)	21 (8)	(13)	133
	陶磁器類		2	3			5

G24 - 16	小　　計	2	42	122	26	(13)	192
G24 - 24	須恵器坏			1			1
	須恵器蓋		1				1
	赤焼土器坏		2	14 (3)	2	(3)	18
	小　　計		3	15	2	(3)	20
G28 - 16	土師器甕形土器			1			1
	赤焼土器坏	1					1
	小　　計	1		1			2
G28 - 20	土師器甕形土器			1			1
	須恵器坏		1	3			4
	陶磁器類		1				1
	小　　計		2	4			6
G28 - 24	土師器内黒高台坏				5		5
	土師器甕形土器			2			2
	赤焼土器坏			2			2
	赤焼土器高台坏				1		1
	陶磁器類			1			1
	小　　計			5	6		11
G28 - 28	土師器内黒坏			1			1
	土師器甕形土器		1	16			17
	須恵器坏		1		1		2
	赤焼土器坏		3	19	2		24
	小　　計		5	36	3		44
G34 - 20	土師器甕形土器			6			6
	赤焼土器坏		10	15			25
	小　　計		10	21			31
G36 - 24	赤焼土器坏				1		1
	赤焼土器高台坏				1		1
	小　　計				2		2
表採	土師器内黒坏			1			1
	土師器甕形土器			22			22
	須恵器坏		3		2		5
	赤焼土器坏			21	4		25
	陶磁器類		1	3	2		6
	小　　計		4	47	8		59
合　　計		44	814	2765	457	(125)	4080

・D群Ⅱ類「第29図15～16・第25図版」

赤焼土器の高台坏を一括したもので、4点の復元土器を含む34点が検出されている。古志田東遺跡のD群Ⅰd類の坏類に比例する。

・D群Ⅲ類「第30図1、2・第20図版・第26図版」

赤焼土器の甕形土器を一括したもので、2点の一括土器がある。1は、胴上部に膨らみをもたせた縦長の甕形土器で、口縁部が丸みをおびながら外反する。輪積での製作によるものであり、形状を整えるためのロクロ整形を施し、その後、下胴部から底部にかけたタタキを加えて最終過程となるケズリ調整で仕上げている。内部調整は、胴部中央付近と上部にカキメを加えている。2は、ロクロ調整を有する小形の甕形土器で、短身から曲する胴部に「く」の字状の外反する口縁部が特徴となる。

4．中世の遺物「第31図8・第26図版」

中世の遺物は僅かに36点しか検出されてない。土器は小破片で磨滅が著しく明確にできないが土堝片とみられる土器片が含まれている。その他に第31図8の石臼が1点検出されている。

5．近世の遺物

第Ⅱ層及び第Ⅲ層の除去作業中に検出された近世の陶磁器で、30点が検出されている。何れも耕作土に混入したものであり、遺構との関連がないことでここでは割愛する。

5　まとめ

今回の大西遺跡の調査で最大の成果は、方形・円形を有した周溝墓の発見となる。周溝の形状から方形周溝墓と円形周溝墓に区分したが、平面形状から想定すると円形周溝墓を意識した可能性も考慮する必要がある。県内での方形周溝墓の発見は、米沢市大清水遺跡・比丘尼平遺跡・八幡堂遺跡・上浅川遺跡、白鷹町黒藤館遺跡・寒河江市高瀬山遺跡の6遺跡が現在までに知られている。第4表　山形県内方形周溝墓一覧参照。

この中で、最も古いとされるのが比丘尼平遺跡の周溝墓で、4世紀前半頃の年代を考えている。出土した壷形土器は底部が極端に小さく、頸部に突刺文が横走し、口縁部が「コ」の字状に外反する特徴などから北陸系の影響を示唆することができる。同様に4世紀中葉を遡る周溝墓とみられるのが約6m、幅1m前後の周溝が「コ」の字状に配されていた大清水遺跡の周溝墓で、周溝内部から関東系の台付甕が出土している。

検出された周溝墓のうちで最も規模が大きいのが、米沢市北小屋遺跡のSU 2号周溝墓で、幅1.5m～4.5mの周溝が、長径21.05m、短径20.25mで検出されている。北小屋遺跡からは他に10m前後の周溝墓5基が検出されている。これらの周溝墓の年代は、出土した土師器より5世紀後葉～6世紀初頭としており、5世紀中葉よりも下降する年代に対し、周溝墓の存在を疑問視する考え方もある。北小屋遺跡の周溝墓に関しては、墳丘が後世の段階で流出した可能性も検討する必要があろう。

第４表　山形県内方形周溝墓一覧

（単位はｍ）

遺跡名	所在地	遺構分類	長径	短径	周溝幅	深さ	主体部	出土遺物	構築年代	備考
八幡堂	米沢市万世町堂森字八幡堂	１号方形周溝墓	11.8	11.6	0.5～1.20	0.2～0.45	不明	土師器甕１点	４世紀後半	
		２号方形周溝墓	(8.5)	8.3	0.82～1.51	0.1～0.38	土壙墓	底部穿孔壺１点、小型土器２点	５世紀初頭	手づくね土器
		３号方形周溝墓	(7.2)	6.0	0.7～1.22	0.14～0.25	土壙墓	土師器甕１点	５世紀前半	
		４号方形周溝墓	(5.0)	(5.0)	0.6～0.75	0.19～0.24	土壙墓	土師器甑片１点	５世紀前半	コの字形
		５号方形周溝墓	(5.0)	(5.0)	0.5～0.67	0.11～0.19	不明	土師器甕片１点	５世紀初頭	中央にブリッジ
大清水	米沢市万世町桑山字大清	１号方形周溝墓	6.2	5.8	7.8～1.05	0.15～0.35	不明	土師器甕１点	４世紀前半	コの字形
比丘尼平	米沢市万世町堂森字比丘尼	１号方形周溝墓	12.44	10.9	0.9～1.30	0.1～0.7	不明	土師器甕２点・壺上半部１点・手づくね土器１点	４世紀前半	
		２号方形周溝墓	(6.0)	(6.0)	0.4～0.6	0.2～0.4	不明	土師器片２点	４世紀前半	
		３号方形周溝墓	5.0	(5.0)	0.58～1.0	0.15～0.3	不明	土師器片４点	４世紀前半	
上浅川	米沢市大字浅川	１号方形周溝墓	16.2	16.1	0.75～1.70	0.1～0.41	土壙墓？	須恵器蓋１点・土師器壺１点・管玉未製品 13 点	５世紀中葉	
黒藤館	白鷹町大字黒藤字館ノ内	ＳＤ１方形周溝墓	17.53	15.12	1.2～3.8	0.52	不明	土師器坩２点・甕底部１点	４世紀中葉	
		ＳＤ２方形周溝墓	9.47	8.09	0.9～1.2	0.61	不明	土師器壺１点・坩破片１点	４世紀中葉	
		ＳＤ４方形周溝墓	17.30	17.18	1.7～3.6	1.04	不明	土師器甕１点・坩片１点	４世紀中葉	
北小屋屋敷	米沢市窪田町窪田字北小屋屋敷	ＳＵ１周溝墓	19.1	18.75	1.35～3.5	0.12～0.26	不明	土師器埦２点・高坏１点・甕１点・壺１点・甕底部１点	５世紀中葉	方墳の可能性
		ＳＵ２周溝墓	21.05	20.25	1.5～4.5	0.1～0.36	不明	土師器埦１点・高坏脚部１点	５世紀後葉	方墳の可能性
		ＳＵ３周溝墓	14.25	(14.0)	1.2～2.0	0.05～0.09	不明	土師器壺片	５世紀後葉	方墳の可能性
		ＳＵ４周溝墓	13.5	11.5	0.9～2.0	0.02～0.2	不明	土師器埦１点	６世紀初頭	方墳の可能性
		ＳＵ５周溝墓	(14.0)	13.4	1.2～2.4	0.09～0.32	不明	土師器埦１点	５世紀後葉	方墳の可能性
		ＳＵ58周溝墓	(7.0)	(7.0)	0.6～0.9	0.26	不明	土師器壺片	５世紀後葉	方墳の可能性
大西	米沢市窪田町小瀬字大西	１号周溝墓（ＭＮ１）	6.5	5.8	1.38～2.41	0.37～0.4	木棺直葬	土師器甕１点・埦１点・鉄製刀子１点・土師器片２点	５世紀初頭	円形周溝墓
		２号周溝墓（ＭＮ２）	8.55	7.53	1.97～3.25	0.15～0.38	木棺直葬	土師器坩１点・甕１点・器台３点、土師器片 26 点	４世紀後葉	円形周溝墓
		３号周溝墓（ＭＮ３）	7.22	6.55	1.76～2.86	0.33～0.44	木棺直葬	土師器片５点	４世紀後葉	
		４号周溝墓（ＭＮ４）	4.03	3.92	0.78～1.24	0.14～0.36	石組石棺	臼玉 20 点・ガラス小玉８点・土師器片４点・鉄製鑿１点	４世紀後葉	

注　長径・短径は周溝墓の外法。周溝幅は最小幅～最大幅。深さは確認面からの最浅～最深を表す。

さて、同様な古墳存在論に関しては、大西遺跡の周溝墓も例外ではない。既に述べているように、周溝墓が確認された面は、第Ⅳ層上面にあたるもので、上部に堆積する第Ⅱ層・第Ⅲ層のシルト層によって埋没した点にある。周辺に点在している遺構の吟味では、少なくとも10世紀以降から中世にかけて堆積したと判断される。２号周溝墓を除く、周溝内の覆土内の層№.１・層№.２に氾濫で堆積した第Ⅲ層が等しく確認されたことによっても河川で埋没したことは明らかである。ただし、奈良・平安期に古墳を整地していたと考えるなら、古墳存在論を否定することにはならないのである。

注目しているのは、周溝の角度と盛土の存在である。１号～４号周溝墓の上面で確認した撹乱層（第２図版の周溝墓確認状況の写真を参照）は、調査によって盛土の一部であったことが判明している。周溝の内面を円弧に描く形態と合わせて推測した場合の盛土は、４号周溝墓の墳丘で約20㎝前後、１号周溝墓が40㎝前後と推測された。２号周溝墓と３号周溝墓に関しても同様で、概ね20㎝～40㎝前後を有していたものと想定している。よって、古墳のような墳丘が存在し、削平された可能性も少ないといえる。周溝墓と判断した理由もここにあった。

さて、今回検出された周溝墓は、これまでに検出された方形周溝墓よりも古墳に類似する特徴を表している。周溝の内側から円弧を描くように整形された構造は、墳丘を意識した視覚効果と理解され、周溝墓から古墳へ移行する段階の形態を示唆するものといえる。

ただし、河岸段丘や微高地を選定した低い墳丘をもつ古墳が、北陸地方や東北南部の遺跡から確認されてきていることも事実であり、先の北小屋遺跡と合わせて検討する余地があることを付け加えておく。

次に、周溝墓の年代について検討する。類例のない無孔器台は別として、１号周溝墓から出土された埦と甕形土器は、５世紀代前半の可能性をもっている。２号周溝墓の坩や壷は、遺物の項で述べているように４世紀の範疇であることは疑う余地はない。無孔器台に対しての年代も課題となるが、４世紀後半の第３四半期もしくは第４四半期に位置すると考えている。

従って、大西遺跡の周溝墓が構築された年代に関しては、４世紀後半から５世紀前半の構築とするのが妥当といえる。しかし、周溝墓の時期を決定する遺物が主体部から検出されていないことや検出された土器は全て周溝内部の覆土といったことを考慮すると、周溝墓の築造と周溝内部の土器年代に時期差が生じていることも念頭におかねばならない。追善供養等で供えられた祭祀遺物の存在である。さらに、周溝墓や古墳出土土器に関しては、あくまでも祭祀を前提としているということで、所謂「集落土器」とは形態や調整手法の異なる遺物が含まれることも意識する必要がある。

さて、置賜盆地で最も古い古墳とされるのは、米沢市横山古墳、南陽市浦生田古墳、川西町雁境塚支群らの古墳である。何れも比較的低い丘陵部に存在する小形の前方後方墳と方墳からなるもので、概ね４世紀中葉とされている。こうした初期段階の古墳は、方形周溝墓から発展成立したと考えられていたが、白鷹町黒藤館の方形周溝墓は４世紀後半、上浅川遺跡の方形周溝墓が５世紀中葉といったように、古墳成立後に構築された周溝墓も検出されている。

むしろ、比丘尼平遺跡や大清水遺跡以外の周溝墓の大半が古墳と併行して存在していることになる。こうした周溝墓の被葬者と古墳に祀られる被葬者との墓制の相違関係をどのように捉える

かも今後の課題となろう。一方、発生期古墳に関しても円墳の存在を無視することができない状況にある。川西町下小松古墳群の薬師沢支群の143号墳や米沢市京塚古墳群など4世紀代に成立した円墳の仲間である。京塚古墳群は、全長41.1mの前方後円墳の京塚1号墳を中心に9基の円墳で構成する古墳群で、同じ丘陵の山頂に分布する成島古墳群に先行して成立したと考えている。成島古墳群は、全長60mの前方後円墳に5基の方墳が付随する古墳群であり、4世紀末～5世紀前半の年代を想定している。他にも、南陽市経塚山古墳群、米沢市戸塚山古墳群の山崎古墳群など、前期古墳に遡る可能性のある円墳が存在することで、小規模古墳が大型古墳に発展する背景に方墳とともに円墳の存在も重要になってくる。

今回の大西遺跡の周溝墓の発見は、円墳の成立や古墳時代の墓制を考える上で極めて意義ある資料を提供したといえる。

その他の成果としては、平安時代の赤焼土器が上げられる。坏の形態は国指定史跡の古志田東遺跡に類似しているものが多く存在しており、器面の一部には、何らかの樹液を塗ったと考えられる土器の破片も確認されている。樹液を塗った土器に関しては、全国的にも古志田東遺跡だけにしか見られなかった手法であり、古志田東遺跡の支配範囲を知る手掛かりを得たものといえる。奈良・平安時代の明瞭な遺構は検出されなかったが、出土遺物を考えるとおそらく調査区の南側に中心となる集落が古墳時代の集落跡とともに存在していた公算が強い。

中世や奈良・平安期の集落に関しても同様で、KY 2とKY 3の堀の存在から調査区の南側に平城が位置しているものと考えられる。最後に、河川跡は鬼面川もしくは支流の一部が遺跡の一帯を流れていたものと推測され、古墳前期頃から平安時代まで機能していたものが、10世紀以降の氾濫によって一気に埋められたものと推測される。そして、再び人々が生活の拠点とするのが城館跡の築かれた14世紀以降となる。

参　考　文　献

＜古　墳＞

1　西村真次（1938）『置賜盆地の古代文化』「山形県史蹟名勝天然記念物調査報告書第29輯

2　柏倉亮吉（1953）『山形県の古墳』「山形県文化財調査報告書 第4輯」山形県教育委員会

3　伊東信雄・伊藤玄三（1964）『会津大塚山古墳』「会津若松市史」別巻1　会津若松市

4　柏倉亮吉（1976）『牛森古墳』
「米沢市八幡原工業団地造成予定地埋蔵文化財調査報告書 第2集」米沢市教育委員会

5　亀田昊明・横戸昭二（1976）『米沢市戸塚山古墳群分布調査報告』「置賜考古 第4号」置賜考古学会

6　川崎利夫（1964）『辺境における古墳文化の特質－出羽国を中心として』
「日本考古学会の諸課題」考古学研究会

7　川崎利夫（1977）『出羽地域における古墳の成立』「考古学研究 第24巻2号」考古学研究会

8　川崎利夫（1977）『米沢盆地における古墳の変容に関する試論』「山形考古第三巻 第1号」山形考古学会

9　川崎利夫（1979）『庄内考古学』16「山形県における土師編年式論」
10　川崎利夫（1982）『置賜地方の古墳・方形周溝墓と大型古墳を中心として』「まんぎり創刊号」
11　川崎利夫（1985）『最上川流域における古墳文化の生成と展開』「流域の地方史」
12　川崎利夫（1990）『山形・秋田の古墳』「古墳時代の研究」雄山閣出版
13　川崎利夫（1993）『山形の前方（方）墳』「野に生きる考古・歴史と教育」山形県文化財保護協会
14　川崎利夫（1993）『全国古墳編年集成』「同書 - 山形県 - 」雄山閣
15　川崎利夫（1996）『出羽の前方後円墳』「東北・関東における前方後円墳の編年と企画」
東北・関東前方後円墳研究会
16　川崎利夫（1997）『置賜の王と古墳文化』米沢史 第１巻 原始・古代・中世編
17　加藤　稔（1973）『最上川流域のおける古墳文化の展開』
「最上川流域の歴史と文化」工藤定雄教授還暦記念論文集
18　加藤　稔（1978）『「変容」を余儀なくされた古墳群・東北南半の前・中期古墳についての試論』
「山形史学研究第 13・14 合併号」山形史学研究会
19　加藤　稔（1979）『前方後円墳の幾何学 - 南陽市稲荷森古墳の墳形分析』
「山形県立山形工業高等学校研究録８」県立山形工業高校
20　加藤　稔（1980）『最上川流域での大型古墳出現の意義（上）』「羽陽文化 109」山形県文化財保護協会
21　加藤　稔（1981）『最上川流域での大型古墳出現の意義（補説）』「羽陽文化 110」山形県文化財保護協会
22　加藤　稔（1982）『最上川の前方後円（方）墳』「最上川」山形県総合学術会
23　加藤　稔・手塚　孝（1983）『戸塚山 137 号墳』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第9集」米沢市教育委員会
24　加藤　稔・藤田宥宣（1986）『天神森古墳発掘調査報告書』
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第９集」川西町教育委員会
25　加藤　稔他（1987）『菅沢２号墳の発掘調査』山形市教育委員会
26　加藤　稔他（1989）『菅沢２号墳発掘調査報告書』山形市教育委員会
27　加藤　稔他（1989）『坊主窪１号墳予備調査報告書』「山辺町埋蔵文化財調査報告書２」山辺町教育委員会
28　加藤　稔（1993）『前方後円墳集成「出羽」』「関東・東北編」山川出版社
29　加藤　稔（1994）『地方の概要 出羽前方後円墳集成』東北関東編
30　東海林次男（1976）『出羽南半の古墳文化』「山形考古第２巻第４号」山形考古学会
31　佐藤鎮雄・保角里志（1979）『稲荷森古墳』「昭和 53 年度調査概報」山形県立博物館
32　佐藤鎮雄（1982）『置賜地方の古墳 - 南陽市周辺の古項をみる中心として』「まんぎり創刊号」まんぎり会
33　佐藤鎮雄（2000）『第４章　稲と古墳をつくる人びと』「南陽市史 上巻 」 南陽市
34　手塚・菊地政信（1984）『戸塚山古墳群詳細分布調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第９集」米沢市教育委員会
35　手塚　孝（1989）＜八幡塚古墳の発掘調査＞『遺跡詳細分布調査報告書 第２集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 25 集」米沢市教育委員会
36　手塚　孝他（1989）『戸塚山古墳群詳細分布調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 10 集」米沢市教育委員会

37　手塚　孝（1990）＜寶領塚古墳の発掘調査＞『遺跡詳細分布調査報告書 第３集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第27集」米沢市教育委員会
38　手塚　孝他（1991）『寶領塚古墳の発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第31集」米沢市教育委員会
39　手塚　孝（1992）＜成島古墳群の発掘調査＞『遺跡分布調査報告書 第５集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第32集」米沢市教育委員会
40　手塚　孝・菊地政信（2003）＜成島古墳一号墳＞『遺跡詳細分布調査報告書 第16集』別冊
「米沢市文化財調査報告書 第82集」米沢市教育委員会
41　菊地政信（1998）＜木和田古墳の発掘調査＞『遺跡詳細分布調査報告書 第11集』
「米沢市文化財調査報告書 第61集」米沢市教育委員会
42　菊地政信（1999）＜天神裏・長手古墳群の発掘調査＞『遺跡詳細分布調査報告書 第12集』
「米沢市文化財調査報告書 第65集」米沢市教育委員会
43　菊地政信（2000）＜横山古墳＞『遺跡詳細分布調査報告書 第13集』別冊
「米沢市文化財調査報告書 第72集」米沢市教育委員会
44　藤田宥宣他（1984）『分布調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第７集」川西町教育委員会
45　藤田宥宣他（1986）『下小松墳丘群小森山支群 第61・64号墳調査報告書』
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第10集」川西町教育委員会
46　藤田宥宣他（1986）『下小松墳丘群鷹待場支群 第105・106・186号墳調査報告書』
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第11集」川西町教育委員会
47　藤田宥宣他（1986）『下小松墳丘群小森山支群 第65号前方後円墳調査報告書』
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第13集」川西町教育委員会
48　藤田宥宣他（1988）『下小松墳丘群薬師沢支群 第143・145号墳調査報告書』
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第12集」川西町教育委員会
49　大塚初重（1986）『東北の古墳文化の展開』「東国の古墳文化」六興出版
50　吉野一郎・茨城光裕（1989）『稲荷森古墳発掘調査報告書』
「南陽市埋蔵文化財調査報告書 第４集」南陽市教育委員会
51　国学院大学（1990）『河井山遺跡群学術調査報告書』国学院大学考古学資料館
52　国学院大学『河井山遺跡群第１号墳学術調査報告』
「国学院大学考古学資料館紀要６」河井山遺跡学術調査団
53　吉田博行（1991）『杵ガ森古墳・稲荷塚遺跡』「坂下西第１土地区画整理事業坂下西第１地区発掘調査概報」
「会津坂下町文化財調査報告書 第22集」会津坂下町教育委員会
54　吉田博行（1995）『杵ガ森古墳発掘調査報告書』
「会津坂下町文化財調査報告書 第33集」会津坂下町教育委員会
55　菊池芳朗（1994）『会津大塚山古墳南棺出土の靭』「福島県立博物館紀要 第８号」福島県立博物館
56　大塚初重・小林三郎（1995）『下小松古墳群（１）』川西町教育委員会
57　茨城光裕（1997）『大塚天神古墳 第１次調査』「山辺町埋蔵文化財調査報告書２」山辺町教育委員会

58　茨城光裕（1999）『大塚天神古墳 第２次調査概報』
「山辺町埋蔵文化財調査報告書２」山辺町教育委員会
59　小林三郎（1999）『下小松古墳群（２）』川西町教育委員会
60　斉藤敏明（2000）『下小松古墳群（３）』「県営ふるさと農道整備事業に伴う永松寺支群の調査」
「川西町埋蔵文化財調査報告書 第 19 集」川西町教育委員会

＜古墳時代集落＞

1　手塚　孝（1985）『米沢の古代文化』まんぎり会
2　手塚　孝（1979）『八幡原№43（比丘尼平）遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第５集」米沢市教育委員会他
3　手塚　孝（1979）『川西町史』資料編所収
「川西町竜蔵北遺跡出土土師器器形・調製手法分類及び川西町中世遺跡に関する考察」
4　手塚　孝（1982）『比丘尼平遺跡第２次発掘調査概報』「まんぎり創刊号」まんぎり会
5　手塚　孝（1988）『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 21 集」米沢市教育委員会
6　手塚　・菊地政信（1983）『水神前遺跡・柿ノ木遺跡・二夕俣Ｂ遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財報告書 第６集」米沢市教育委員会
7　手塚・菊地（1983）『二夕俣Ａ遺跡・八幡堂遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財報告書 第８集」米沢市教育委員会
8　手塚　孝・菊地政信（1986）『大清水遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 17 集」米沢市教育委員会
9　佐藤庄一他（1985）『沢田遺跡発掘調査報告書』「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 88 集」山形県教育委員会
10　佐藤庄一他（1986）『西沼田遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 101 集」山形県教育委員会
11　野尻侃他（1988）『熊野田遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 123 集」山形県教育委員会
12　斉藤主税他（1989）『熊野田遺跡第三次発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財調査報告書第 146 集」山形県教育委員会
13　名和達朗・渡辺 薫他（1994）『黒藤館跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 16 集」山形県埋蔵文化財センター
14　伊藤邦弘他（1994）『南原遺跡・堂ノ下遺跡・飯塚館跡調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター報告書 第２集」山形県埋蔵文化財センター
15　髙橋　敏（1997）『西町田下遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター報告書 第 44 集」山形県埋蔵文化財センター
16　植松暁彦（2002）『北小屋遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 103 集」山形県埋蔵文化財センター

17　三戸部秀樹・渋谷純子（2002）『山形元屋敷遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第109集」山形県埋蔵文化財センター

＜奈良・平安＞

1　氏家和典（1958）『歴史』14「東北土師器の形式とその編年」
2　氏家和典（1967）『山形県の考古と歴史』所収「陸奥国分寺跡出土の丸底坏をめぐって」
3　桑原滋郎（1969）『歴史』38「ロクロ土師器について」
4　工藤雅樹・桑原滋郎（1972）『考古学雑誌 14－9「東北地方における古代土器生産の展開」
5　岡田茂弘・桑原滋郎（1974）『宮城県多賀城調査研究所研究紀要』
「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」
6　小野　忍（1978）『山形考古』313「山形県における須恵器生産の開始」
7　佐藤庄一（1979）『庄内考古学』16「山形県における平安時代の土器様相（予察）」
8　手塚　孝他（1981）『笹原遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第7集」米沢市教育委員会
9　手塚・菊地（1986）『上浅川 第3次発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第15集」米沢市教育委員会
10　手塚　孝他（1987）『大浦A遺跡・大浦C遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第18集」米沢市教育委員会
11　手塚　孝他（1992）『大浦C遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第33集」米沢市教育委員会
12　手塚・菊地（1993）『大浦B遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第36集」米沢市教育委員会
13　手塚・月山（1997）『金ヶ崎A遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第56集」米沢市教育委員会
14　手塚　孝（1998）『大神窯跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第75集」米沢市教育委員会
15　手塚　孝（2000）『古志田遺跡調査概報』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第70集」米沢市教育委員会
16　手塚　孝（2000）『古志田東遺跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第73集」米沢市教育委員会
17　月山隆弘（1991）『大坪遺跡発掘調査報告書』「山形県埋蔵文化財調査報告書 第166集」山形県教育委員会
18　月山隆弘（1998）『大浦A遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第59集」米沢市教育委員会
19　菊地政信（1991）『大浦B遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第29集」米沢市教育委員会
20　菊地政信（1992）『上新田A遺跡発掘調査報告書　第1集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第34集」米沢市教育委員会
21　菊地政信（1993）『上新田A遺跡発掘調査報告書　第2集』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第39集」米沢市教育委員会
22　菊地政信（2000）『大浦C遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第69集」米沢市教育委員会
23　藤田宥宣・平川　南（1981）『道伝遺跡』「川西町埋蔵文化財調査報告書　第2集」川西町教育委員会
24　藤田宥宣他（1984）『道伝遺跡発掘調査報告書』「川西町埋蔵文化財調査報告書 第6集」川西町教育委員会

25　佐藤庄一他（1974）『堂の前遺跡 第１次調査報告書』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第５集」山形県教育委員会
26　佐藤庄一他（1977）『堂の前遺跡昭和 51 年度調査略報』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 10 集」山形県教育委員会
27　佐藤庄一他（1984）『俵田遺跡 第２次発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 77 集」山形県教育委員会
28　尾形與典（1980）『堂の前遺跡昭和 53・54 年度調査略報』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 30 集」山形県教育委員会
29　阿部明彦他（1985）『生石２遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 89 集」山形県教育委員会
30　安部　実（1986）『生石２遺跡発掘調査報告書（２）』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 99 集」山形県教育委員会
31　安部　実（1986）『生石２遺跡発掘調査報告書（３）』
「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 117 集」山形県教育委員会
32　小西昌志（1993）『上荒屋遺跡Ⅱ』奈良・平安時代「金沢市文化財紀要 106」金沢市教育委員会
33　小西昌志（1998）『上荒屋遺跡Ⅲ』奈良・平安時代「金沢市文化財紀要 140」金沢市埋蔵文化財センター
34　石田明夫（1994）『大戸窯跡群発掘調査報告書』
「会津若松市文化財調査報告書第 37 集」会津若松市教育委員会
35　野尻侃他（1997）『後田遺跡・大道下遺跡 第２次発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター報告書 第 49 集」山形県埋蔵文化財センター
36　須賀井新人（1997）『荒川２遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター報告書 第 43 集」山形県埋蔵文化財センター
37　高橋　敏他（2001）『太夫小屋１・２・３遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 81 集」山形県埋蔵文化財センター
38　佐藤正俊・氏家信行（2002）『馳上遺跡発掘調査報告書』
「山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 101 集」山形県埋蔵文化財センター

＜中世城館跡＞

1　石倉惣吉（1952）『置賜文化』創刊号「伊達政宗はどこで生まれたか」置賜史談会
2　渋谷敏己（1985）『地域の地方史―社会と文化』
「山形県における板碑をめぐる若干の問題―紀名板碑を中心として」地方史研究協議会編
3　佐藤正四郎他（1988）『笠松山遺跡』白鷹町教育委員会
4　安部実他（1988）『早坂山Ｂ』「山形県埋蔵文化財調査報告書 第 154 集」山形県教育委員会
5　手塚　孝（1984）『まんぎり』２号「山形県における塚研究の諸問題―置賜盆地を中心として―」
6　手塚・菊地（1985）『上浅川１次・２次調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 14 集」米沢市教育委員会
7　手塚　孝（1987）『木和田館跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 20 集」米沢市教育委員会

8　手塚　孝（1993）『懐風』第 17 号「米沢盆地における中世考古学の諸問題」御堀端史蹟保存会
9　手塚・月山隆弘（1994）『米沢城跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 44 集」米沢市教育委員会
10　手塚・月山（1995）『我妻館跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 50 集」米沢市教育委員会
11　手塚　孝（1995）『東南置賜地区の中世城館の分布と特徴』
「山形県中世城館遺跡調査報告書 第 1 集」山形県教育委員会
12　手塚　孝（1996）『中世期における伊達型山城の成立と発展』― 東南置賜を中心として ―
13　手塚　孝（1999）『舘山城跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 66 集」米沢市教育委員会
14　手塚・菊地（1999）『大樽遺跡 第２・３次発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 62 集」米沢市教育委員会
15　手塚　孝（2002）『舘山北館跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 79 集」米沢市教育委員会
16　手塚　孝（2002）『上浅川 C 遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 78 集」米沢市教育委員会
17　菊地政信（1994）『矢子山城跡 第 1 集』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 41 集」米沢市教育委員会
18　菊地政信（1995）『矢子山城跡 第２集』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 49 集」米沢市教育委員会
19　菊地政信（2000）『米沢城東二の丸跡』「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 68 集」米沢市教育委員会
20　月山隆弘（1998）『東屋敷館跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 58 集」米沢市教育委員会
21　月山・菊地（2001）『大浦 B 遺跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 75 集」米沢市教育委員
22　月山・菊地（2002）『米沢城南三の丸跡発掘調査報告書』
「米沢市埋蔵文化財調査報告書 第 76 集」米沢市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	おおにしいせき
書名	大西遺跡
副書名	大西遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第８５集
編著者名	手塚　孝
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992－0012　山形県米沢市金池三丁目１－55号　TEL（0238）22－5111
発行年月日	平成１６年３月２６日

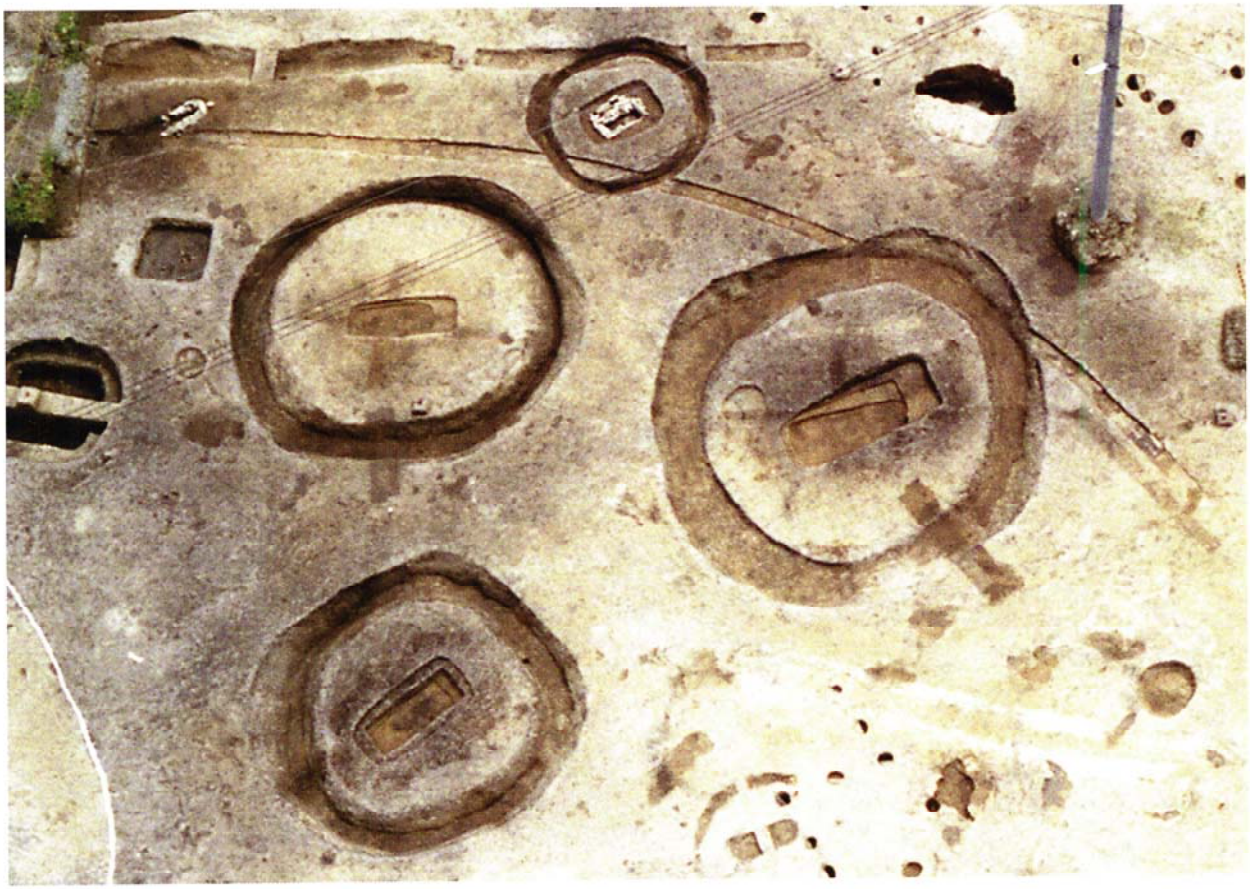
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおにしいせき 大西遺跡	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 くぼたまちこぜあざ 窪田町小瀬字 おおにし 大西７１２他	6202	米沢市 遺跡番号 Ｉ－662	３７度 ５７分 ２６秒	140度 ６分 ４１秒	20030602 ～ 20030730	2,500	住宅団地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大西遺跡	群集墳 集落跡 城館跡	古墳 奈良 平安 中世	周溝墓・箱型石棺 土壙・柱跡・河川 跡・井戸跡・墓壙	土師器・須恵器 赤焼土器・臼玉 ガラス小玉	

写　真　図　版

第一図版　大西遺跡の発掘（一）

▲ 周溝墓全景（空中写真）



▲ 調査区全景（空中写真）

▲ 周溝墓確認状況

▲ ２号周溝墓発掘状況

▲ 1・2・4号周溝墓調査状況

▲ 1～3号周溝墓完掘状況

▲ 1号周溝墓完掘状況

▲ 1号周溝墓確認状況

▲ 1号周溝墓主体部確認状況

▲ 1号周溝墓主体部断面状況

▲ 1号周溝墓主体部完掘状況

▲ １号周溝墓 Aベルト断面

▲ １号周溝墓 Eベルト断面

▲ １号周溝墓 Bベルト断面

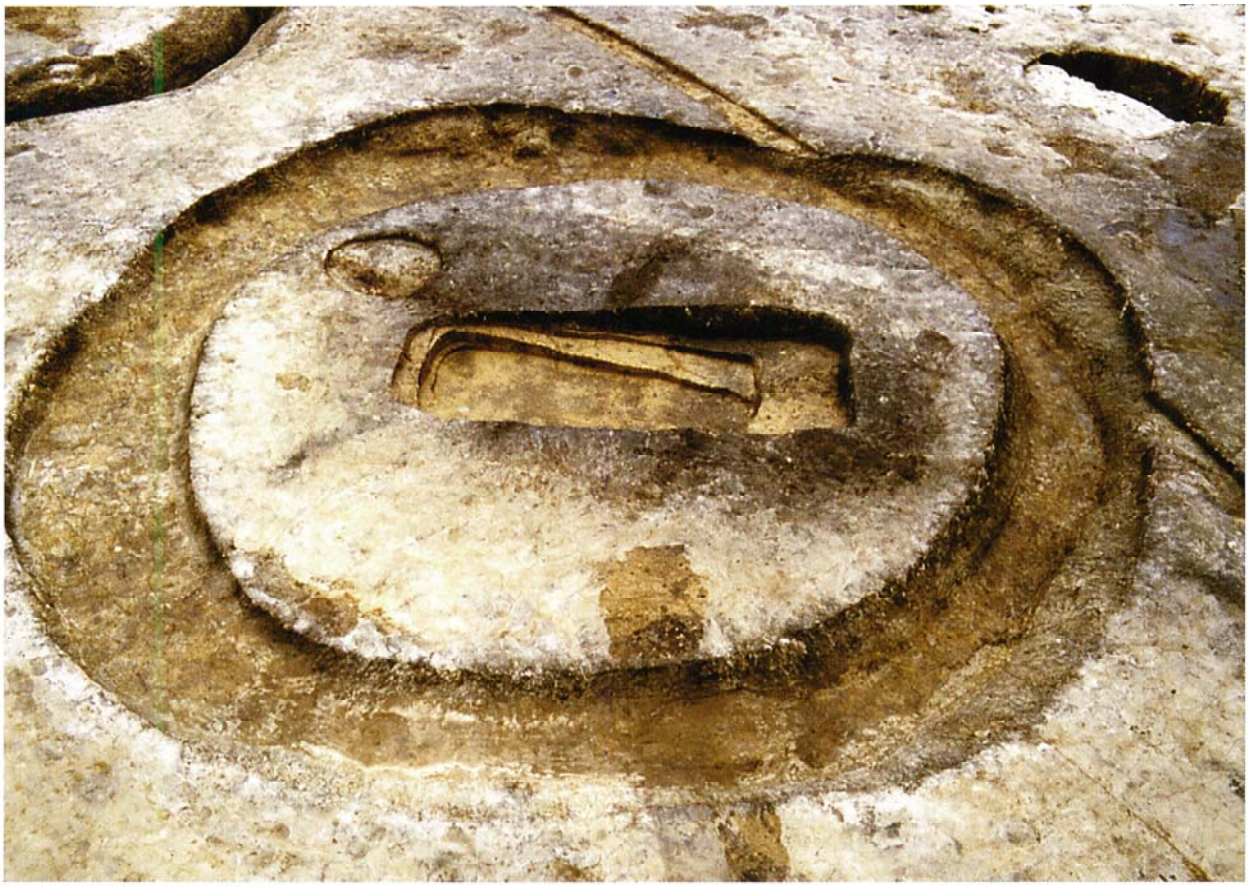
▲ １号周溝墓 Fベルト断面

▲ １号周溝墓 Cベルト断面

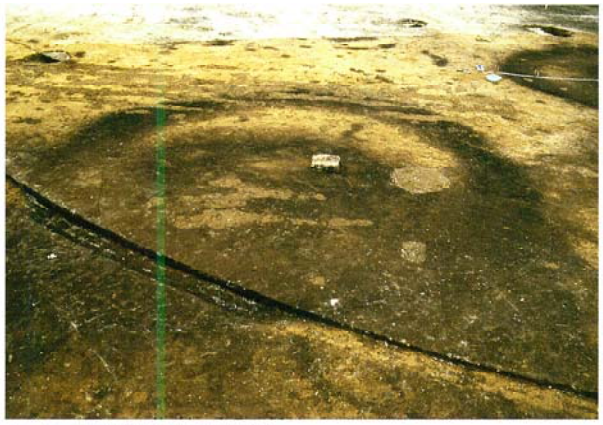
▲ １号周溝墓 Gベルト断面

▲ １号周溝墓 Dベルト断面

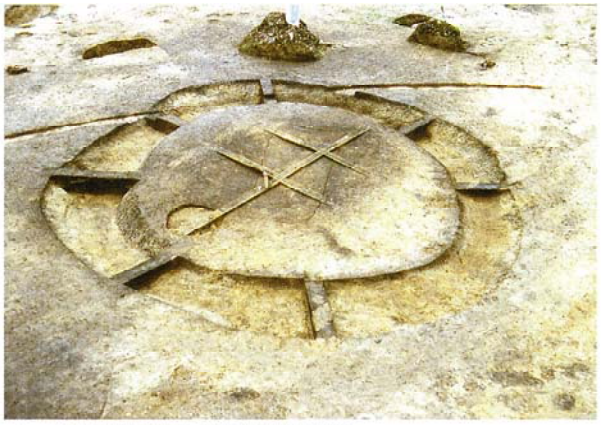
▲ １号周溝墓 Hベルト断面



▲ ２号周溝墓完掘状況

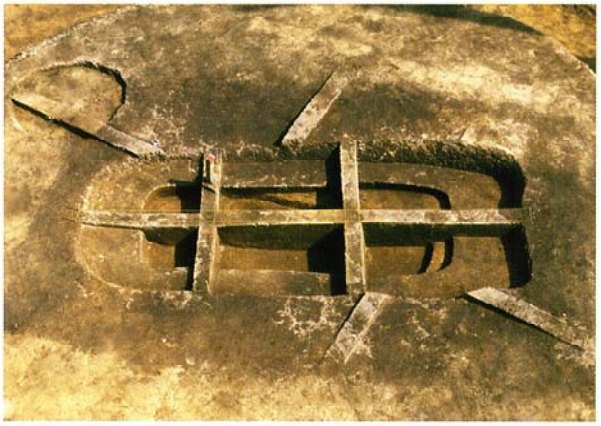


▲ ２号周溝墓確認状況



▲ ２号周溝墓主体部確認状況

▲ ２号周溝墓主体部調査状況



▲ ２号周溝墓主体部断面状況

▲ ２号周溝墓 Ａベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｅベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｂベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｆベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｃベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｇベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｄベルト断面

▲ ２号周溝墓 Ｈベルト断面

▲ ３号周溝墓完掘状況

▲ ３号周溝墓確認状況

▲ ３号周溝墓主体部確認状況

▲ ３号周溝墓主体部断面状況（１）

▲ ３号周溝墓主体部断面状況（２）

▲ ３号周溝墓 Ａベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｅベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｂベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｆベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｃベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｇベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｄベルト断面

▲ ３号周溝墓 Ｈベルト断面

▲ ４号周溝墓主体部完掘状況

▲ ４号周溝墓確認状況

▲ ４号周溝墓完掘状況

▲ ４号周溝墓主体部全景

▲ 鉄鑿出土状況

▲ ４号周溝墓主体部確認状況

▲ ４号周溝墓 Ａベルト断面

▲ ４号周溝墓 Ｃベルト断面図

▲ ４号周溝墓 Ｂベルト断面

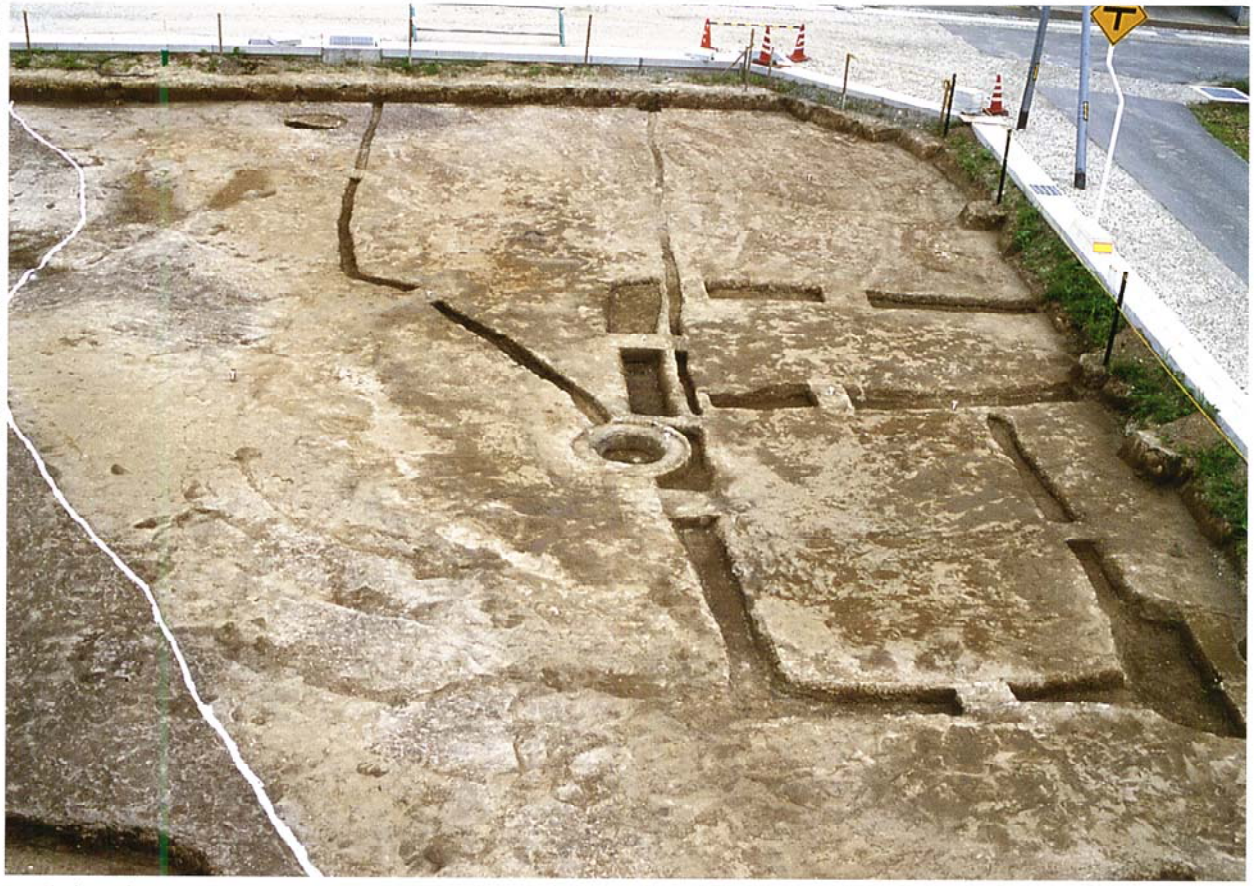
▲ ４号周溝墓 Ｄベルト断面

▲ ４号周溝墓主体部全景

▲ 石組石棺（ＭＮ５）完掘状況

▲ ＤＹ２１完掘状況〔井戸〕

▲ ＤＹ５完掘状況〔井戸〕



▲ 北東調査区の溝状遺構全景

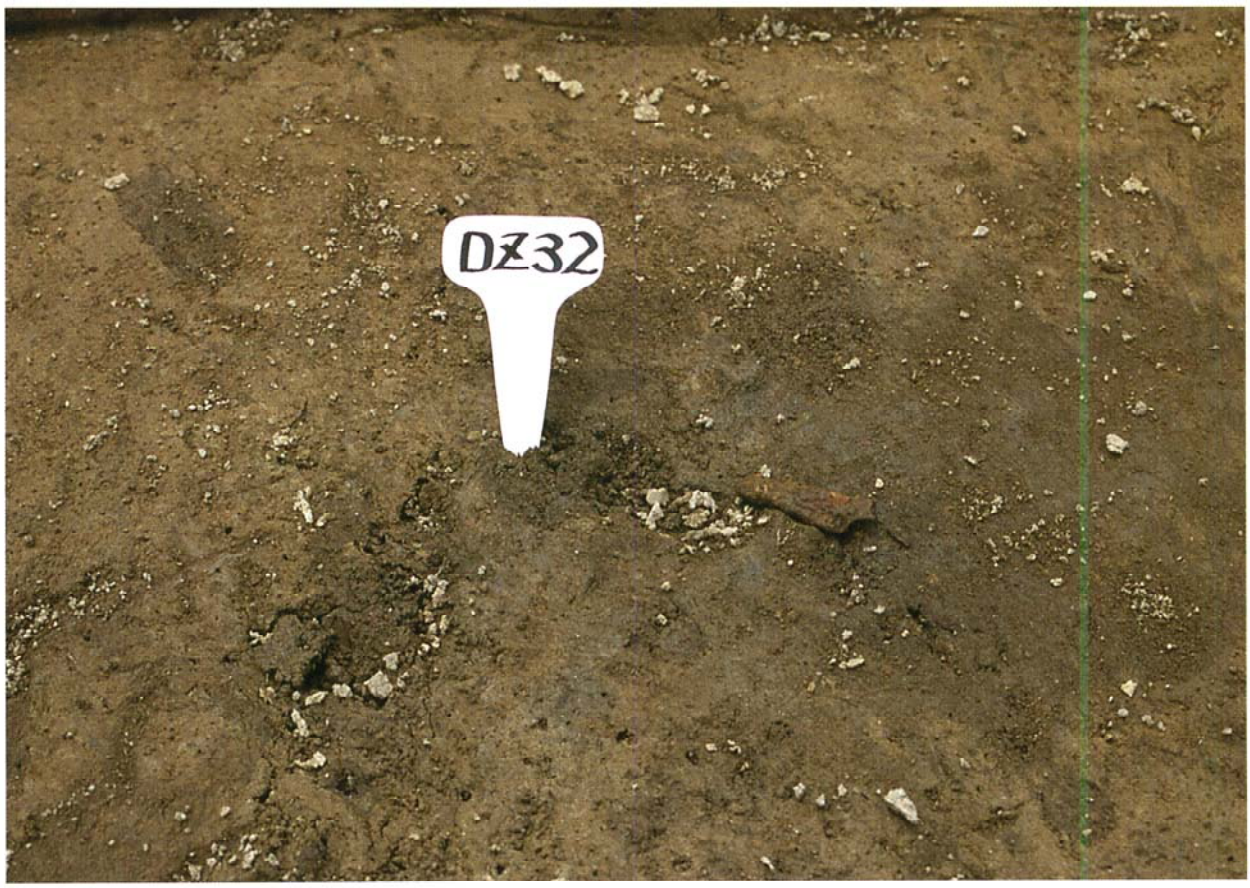
▲ ＫＹ１Ｃトレンチ内のＫＹ１４完掘状況

▲ ＫＹ２・ＫＹ３完掘状況

▲ ＫＹ１断面状況

▲ ＫＹ１Ｆトレンチ内ＤＹ３３断面状況

▲ ＫＹ１Ｃトレンチ断面状況〔河川跡〕



▲ １号周溝墓主体部刀子出土状況

▲ ２号周溝墓土師器出土状況

第一八図版　大西遺跡出土遺物（一）

▲ 埋納遺構出土土器

▲ 土器埋納遺構全景

▲ 23 図 -1〔土師器壺〕

▲ 23 図 -2〔土師器器台〕

▲ 23 図 -3〔土師器器台〕

▲ 23 図 -4〔土師器器台〕

▲ 23 図 -5〔土師器坩〕

▲ 23 図 -6〔土師器口〕

▲ 24 図 -8〔両黒土師器高台坏〕

▲ 24 図 -5〔土師器坏〕

▲ 24 図 -6〔内黒土師器高台坏〕

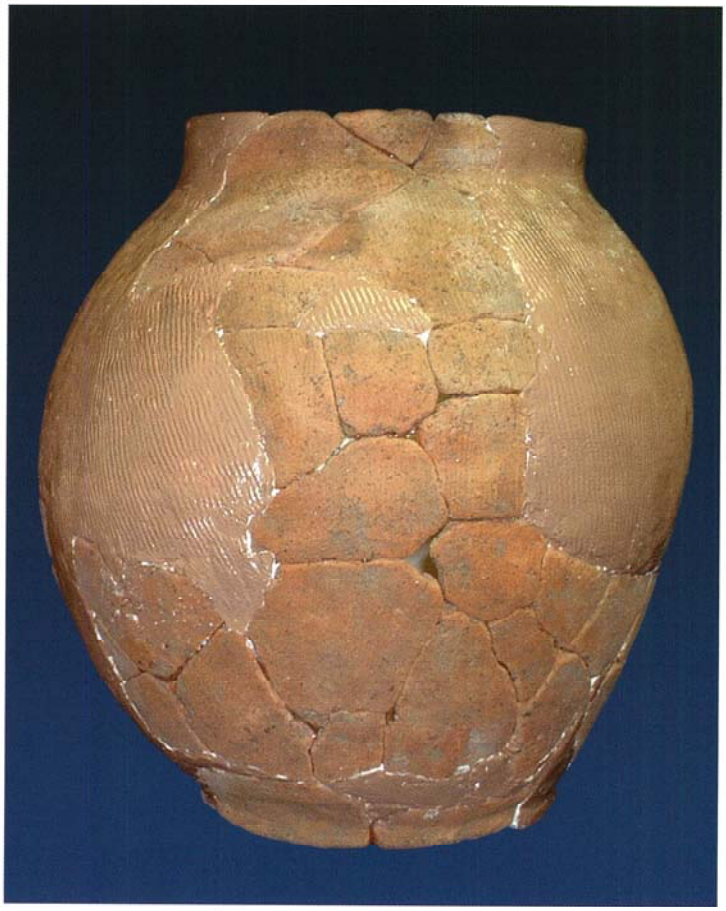
▲ 24 図 -4（土師器壺）

▲ 24 図 -7（内黒土師器坏）

▲ 25 図 -2（須恵器坏）

▲ 25 図 -4（須恵器坏）

▲ 30 図 -2（赤焼甕）

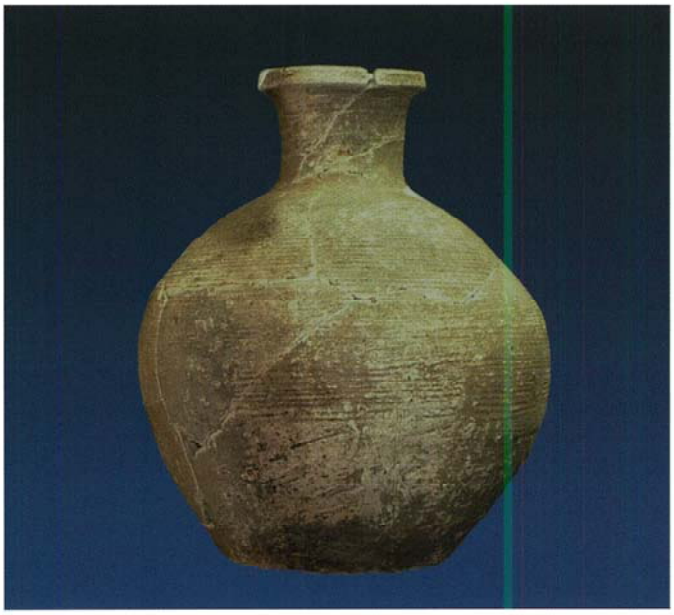


▲ 24 図 -9（土師器甕）

▲ 25 図 -1〔土師器甕〕

▲ 26 図 -2〔須恵器坏〕

▲ 26 図 -6〔須恵器蓋〕



▲ 25 図 -5〔須恵器蓋〕

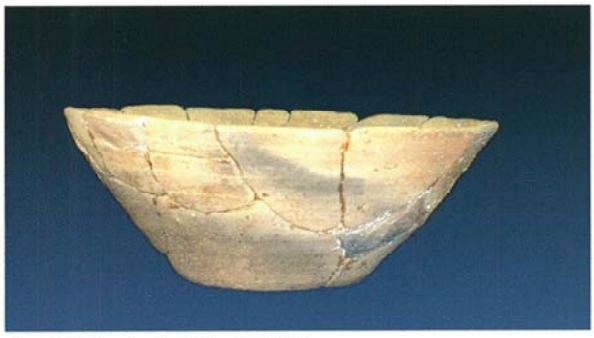
▲ 須恵器甕（表面）

▲ 須恵器甕（裏面）

▲ 28 図 -3〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -4〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -5〔赤焼土器坏〕



▲ 28 図 -6〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -7〔赤焼土器坏〕

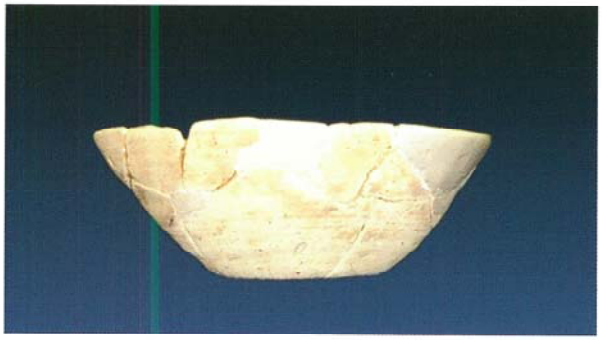
▲ 28 図 -8〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -9〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -10〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -11〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -12〔赤焼土器坏〕



▲ 28 図 -13〔赤焼土器坏〕

▲ 28 図 -14〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -1〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -2〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -3〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -4〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -5〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -6〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -7〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -8〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -9〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -10〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -11〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -12〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -13〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -14〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -15〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -16〔赤焼土器坏〕

▲ 29 図 -17〔赤焼土器坏〕

▲ ＡＺ－３〔赤焼土器坏〕

▲ 30 図 -1（赤焼土器甕）

▲ 石臼上面

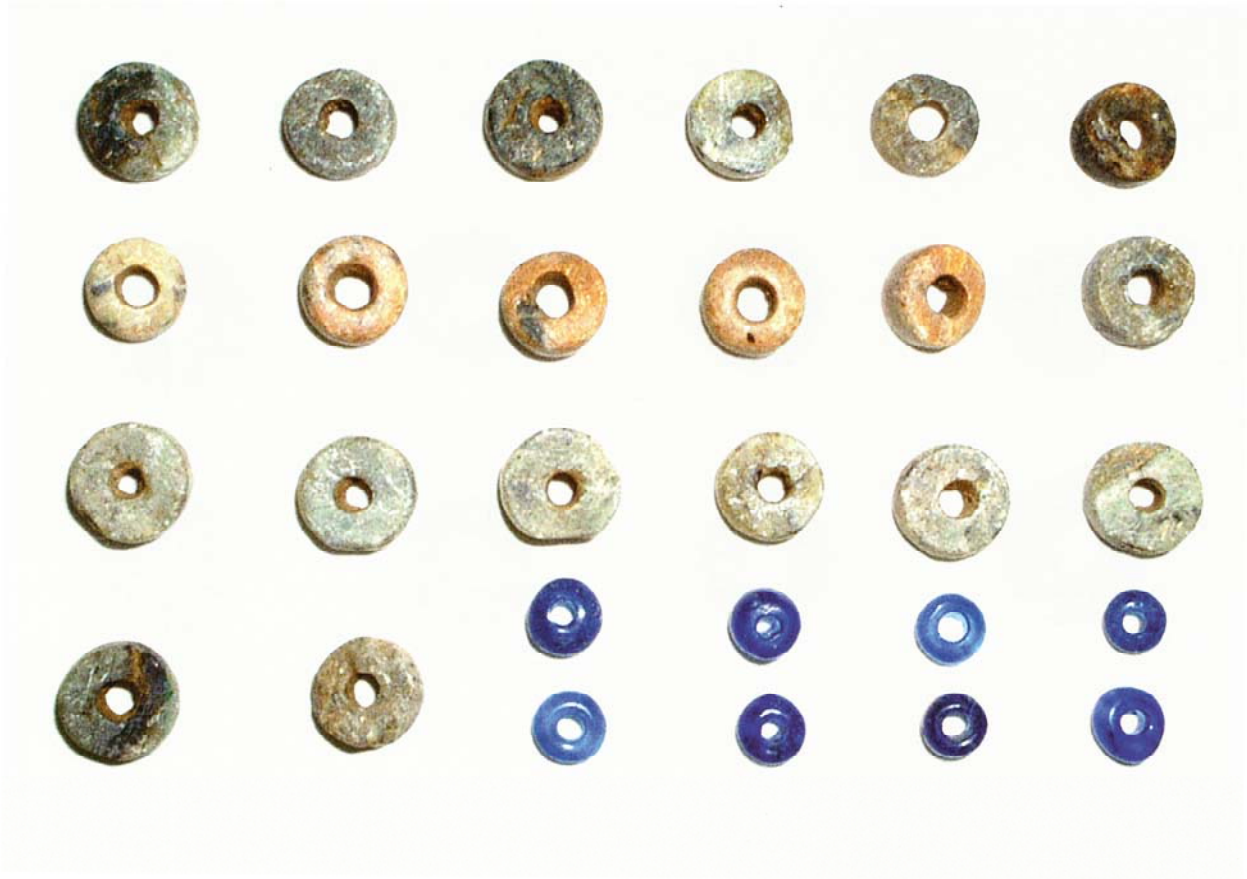
▲ 石臼側面

第二七図版　大西遺跡出土遺物（一〇）

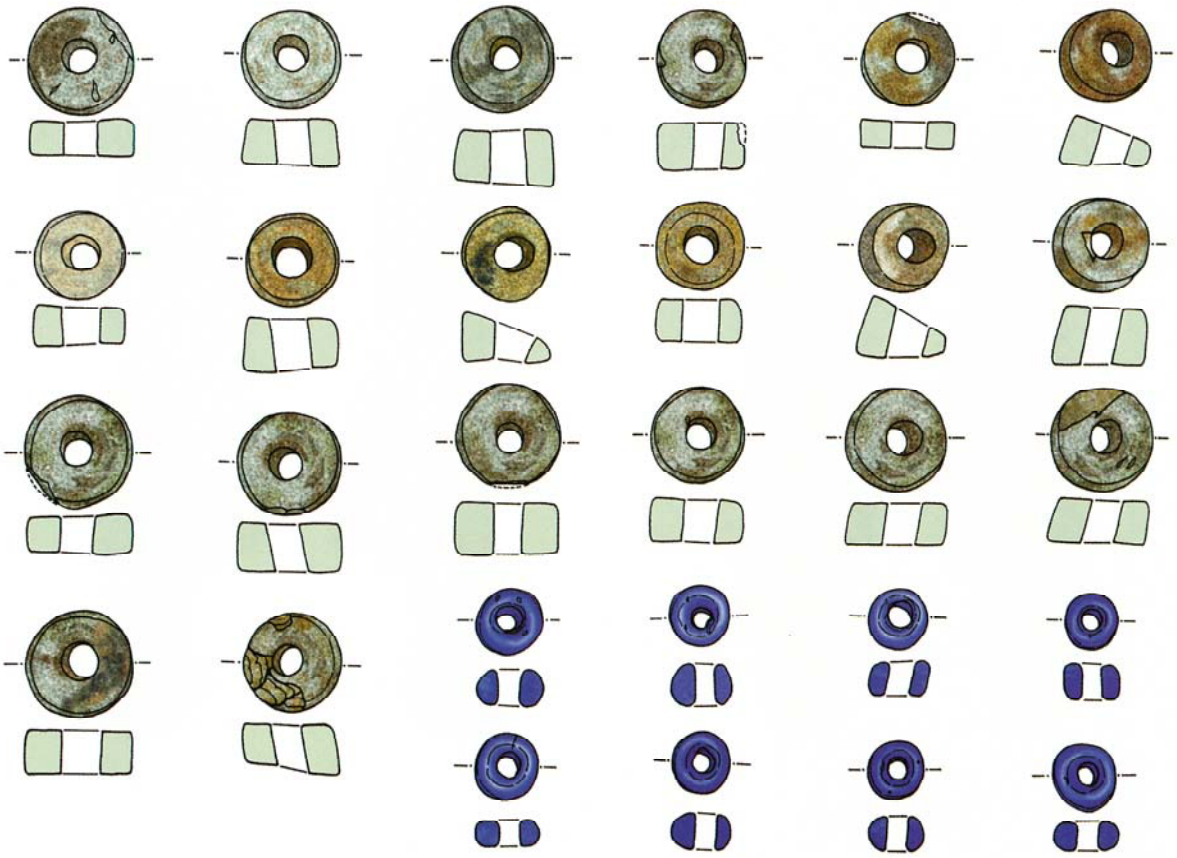
▲ ガラス小玉

▲ 鉄製品

第二八図版　大西遺跡出土遺物（一一）



▲ ４号周溝墓主体部出土 臼玉・ガラス小玉



▲ ４号周溝墓主体部出土 臼玉・ガラス小玉実測図

第二九図版　大西遺跡出土遺物（一二）

▲ 石器類（表面）

▲ 石器類（裏面）

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第85集

大西遺跡発掘調査報告書

平成16年3月15日　印刷
平成16年3月26日　発行

発　行　　米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1－55
ＴＥＬ（0238）22－5111
（内線7502）

印　刷　　㈱青葉堂印刷
米沢市下花沢3丁目8-50
ＴＥＬ（0238）21－2366
ＦＡＸ（0238）21－1776